

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 中国財務局長

【提出日】 2024年8月26日

【事業年度】 第75期(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

【会社名】 西川ゴム工業株式会社

【英訳名】 NISHIKAWA RUBBER CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 小川 秀 樹

【本店の所在の場所】 広島市西区三篠町二丁目2番8号

【電話番号】 (082)237 - 9371(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理統括本部長 休 石 佳 司

【最寄りの連絡場所】 広島市西区三篠町二丁目2番8号

【電話番号】 (082)237 - 9371(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理統括本部長 休 石 佳 司

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

## 第1 【企業の概況】

## 1 【主要な経営指標等の推移】

## (1) 連結経営指標等

回次	第71期	第72期	第73期	第74期	第75期
決算年月	2020年3月	2021年3月	2022年3月	2023年3月	2024年3月
売上高 (百万円)	97,267	80,234	84,503	98,167	117,904
経常利益 (百万円)	7,489	6,021	3,598	1,332	8,920
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	4,486	2,697	2,105	1,170	5,038
包括利益 (百万円)	840	6,392	2,410	3,866	13,985
純資産額 (百万円)	66,001	71,211	72,463	74,560	87,510
総資産額 (百万円)	103,843	115,616	115,631	125,156	137,732
1株当たり純資産額 (円)	3,128.97	3,422.18	3,502.02	3,744.48	4,381.59
1株当たり当期純利益 (円)	229.15	137.76	107.47	60.80	261.46
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)		-	-	-	-
自己資本比率 (%)	59.0	58.0	59.3	57.5	61.4
自己資本利益率 (%)	7.2	4.2	3.1	1.7	6.4
株価収益率 (倍)	5.3	10.9	12.6	18.8	8.0
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	10,446	6,385	4,163	5,243	14,884
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	6,540	3,060	4,974	4,685	5,159
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	852	6,077	897	1,483	9,403
現金及び現金同等物 の期末残高 (百万円)	25,288	34,061	33,644	37,095	38,591
従業員数 (名)	6,696	6,642	6,518	6,515	6,966

- (注) 1 第71期、第72期、第73期、第74期および第75期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 2 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第73期の期首から適用しており、第73期、第74期および第75期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。
- 3 第74期の数値は、誤謬の訂正による遡及処理後の数値となっております。また、過年度の決算訂正を行い、2024年8月26日に訂正報告書を提出しております。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次		第71期	第72期	第73期	第74期	第75期
決算年月		2020年3月	2021年3月	2022年3月	2023年3月	2024年3月
売上高	(百万円)	48,828	40,937	39,964	45,884	51,940
経常利益	(百万円)	5,133	5,656	5,254	4,308	6,439
当期純利益	(百万円)	4,069	3,570	4,312	3,454	4,007
資本金	(百万円)	3,364	3,364	3,364	3,364	3,364
発行済株式総数	(千株)	19,995	19,995	19,995	19,995	19,995
純資産額	(百万円)	45,363	52,180	53,440	56,306	64,863
総資産額	(百万円)	70,661	82,983	80,953	85,915	92,326
1株当たり純資産額	(円)	2,317.02	2,663.84	2,727.09	2,930.81	3,361.72
1株当たり配当額	(円)	40.00	40.00	40.00	40.00	44.00
(内1株当たり 中間配当額)	(円)	(20.00)	(20.00)	(20.00)	(20.00)	(20.00)
1株当たり当期純利益	(円)	207.84	182.28	220.09	179.39	207.94
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)		-	-	-	-
自己資本比率	(%)	64.2	62.9	66.0	65.5	70.3
自己資本利益率	(%)	8.7	7.3	8.2	6.3	6.6
株価収益率	(倍)	5.8	8.3	6.1	6.4	10.0
配当性向	(%)	19.2	21.9	18.2	22.3	21.2
従業員数	(名)	1,411	1,405	1,395	1,365	1,341
〔ほか、平均臨時雇用 人員〕	(名)	〔315〕	〔292〕	〔245〕	〔213〕	〔231〕
株主総利回り	(%)	65.6	82.9	76.9	68.0	119.5
(比較指標：配当込み TOPIX)	(%)	90.5	128.6	131.2	138.8	196.2
最高株価	(円)	1,915	1,786	1,832	1,395	2,220
最低株価	(円)	1,130	1,071	1,329	1,060	1,136

- (注) 1 第71期、第72期、第73期、第74期および第75期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 2 最高株価および最低株価は、2022年4月3日以前は東京証券取引所市場第二部におけるものであり、2022年4月4日以降は東京証券取引所スタンダード市場におけるものです。
- 3 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第73期の期首から適用しており、第73期、第74期および第75期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。
- 4 第74期の数値は、誤謬の訂正による遡及処理後の数値となっております。また、過年度の決算訂正を行い、2024年8月26日に訂正報告書を提出しております。

## 2 【沿革】

初代会長西川文二が田村工業株式会社に在職中、同社にスポンジゴム部を創設した後、これを独立させ、1934年12月西川護膜工業所として開業し、スポンジゴム製品の製造・販売を開始いたしました。

1949年4月	商号を西川ゴム工業株式会社として設立
1952年12月	大阪市東区に大阪営業所を開設(現 大阪市中央区)
1954年12月	東京都港区に東京営業所(現 横浜営業所)を開設
1961年2月	名古屋市中区に名古屋営業所を開設(現 刈谷市)
1963年3月	広島県高田郡(現 広島市安佐北区)白木町にて白木工場を操業開始
1967年4月	西川物産株式会社を設立(現 連結子会社)
1967年10月	福岡市に福岡出張所(山口出張所に改組後 閉鎖)を開設
1968年10月	広島県安佐郡(現 広島市安佐北区)安佐町にて安佐工場を操業開始
1973年3月	静岡県浜松市に浜松出張所(現 浜松営業所)を開設
1978年9月	後山化工株式会社(現 株式会社西川ビッグオーシャン)に資本参加(現 連結子会社)
1980年8月	広島県高田郡(現 安芸高田市)吉田町にて吉田工場を操業開始
1983年2月	株式会社西和物流を設立(現 連結子会社)
1985年7月	西和工業株式会社を設立
1985年12月	栃木県宇都宮市に宇都宮出張所(現 宇都宮営業所)を開設
1986年9月	ザ・スタンダード・プロダクツ・カンパニーとの合併により、米国にニシカワ・スタンダード・カンパニーを株式会社として設立(現 連結子会社)
1989年3月	米国にニシカワ・オブ・アメリカ, Inc.を設立(現 連結子会社)し、ニシカワ・スタンダード・カンパニーを、ザ・スタンダード・プロダクツ・カンパニー(現 クーパー・スタンダード・オートモーティブ Inc.)の子会社とのパートナーシップに組織変更
1990年2月	広島県三原市にて三原工場を操業開始
1991年11月	広島証券取引所に上場
1992年8月	株式会社西川ゴム山口を設立(現 連結子会社)
1995年8月	インターナショナル・ラバー・パーツ・カンパニーおよび丸紅株式会社との合併により、タイにニシカワ・タチャブララート・ラバー・カンパニー Ltd.を設立(現 連結子会社)
1996年7月	インドのアナンド・レスキュー・ポリマーズ Ltd.に資本参加し、同社はアナンド・ニシカワ・カンパニー Ltd.に社名変更
1998年8月	英国 バーミンガム市に欧州支店を設立(現 英国 ウォリックシャー州)
2000年3月	広島証券取引所と東京証券取引所の合併により、東京証券取引所第二部に上場
2001年12月	中国 上海市に上海西川密封件有限公司を設立(現 連結子会社)
2002年4月	広島市西区に西川デザインテクノ株式会社を設立(現 連結子会社)
2003年6月	福岡出張所を山口県下関市に移転し、山口出張所に改組
2004年6月	中国 広州市に広州西川密封件有限公司を設立(現 連結子会社)
2005年4月	後山化工株式会社が、株式会社西川ビッグオーシャンへ社名変更
2005年5月	中国 上海市に西川橡胶(上海)有限公司を設立(現 連結子会社)
2008年3月	ニシカワ・スタンダード・カンパニーをパートナーシップからLimited Liability Company (LLC)に組織変更
2011年3月	ニシカワ・スタンダード・カンパニー LLCの当社出資比率を増加させ、ニシカワ・クーパー LLCに社名変更 ニシカワ・タチャブララート・ラバー・カンパニー Ltd.の当社保有株式の一部をクーパー・スタンダード・オートモーティブ Inc.に譲渡

2011年 6月	ニシカワ・タチャブララート・ラバー・カンパニー Ltd.がニシカワ・タチャブララート・クーパー Ltd.に社名変更
2011年11月	ニシカワ・オブ・アメリカ, Inc.がメキシコ グアナファト州にニシカワ・クーパー・メキシコ S.A. DE C.V.を設立(現 連結子会社) アナンド・ニシカワ・カンパニー Ltd.の当社出資比率を増加
2012年 3月	アナンド・ニシカワ・カンパニー Ltd.がエイエルピー・ニシカワ・カンパニー Ltd.に社名変更
2012年 4月	東京営業所を神奈川県横浜市港北区に移転し、横浜営業所に改組 宇都宮出張所を宇都宮営業所に改組
2013年 1月	インドネシア 西ジャワ州にPT. ニシカワ・カリヤ・インドネシアを設立(現 連結子会社)
2014年 4月	西川物産株式会社が西和工業株式会社を吸収合併し、西和工業株式会社は解散
2014年11月	ニシカワ・クーパー・メキシコ S.A. DE C.V.がニシカワ・シーリング・システムズ・メキシコ S.A. DE C.V.に社名変更
2015年 6月	エイエルピー・ニシカワ・カンパニー Ltd.がエイエルピー・ニシカワ・カンパニー PVT. Ltd.に社名変更(現 持分法適用関連会社)
2017年 6月	監査役会設置会社から監査等委員会設置会社に移行
2019年 2月	中国 湖北省孝感市に湖北西川密封系統有限公司を設立(現 連結子会社)
2019年 8月	エイエルピー・ニシカワ・カンパニー PVT. Ltd.が南アフリカ共和国のエイエルピー・アフリカ(PY) LTD.へ出資
2022年 4月	東京証券取引所の市場区分再編に伴い、東京証券取引所スタンダード市場へ移行
2023年 3月	山口出張所を閉鎖

### 3 【事業の内容】

当社グループは、連結財務諸表提出会社(当社)、連結子会社14社および関連会社3社(うち持分法適用会社1社)で構成され、自動車用部品ならびに建築・土木・化粧品等の業界向け一般産業資材を製造販売しております。

当社グループにおける主要な会社が営む主な事業と当該事業における位置付けは次のとおりであります。

なお、事業区分は、セグメント情報の区分と同一であります。

#### (日本)

自動車用部品(ゴム・樹脂シール製品(ドアシール、ドリップシール、トランクシール、グラスランチャンネル)および内外装製品(ドアオープニングトリム、ドアホールシール)等)を当社が製造販売するほか、連結子会社の西川物産(株)、(株)西川ゴム山口ほかに製造を、(株)西川ビッグオーシャンほかに加工を委託しております。また、住宅用外壁目地材を当社が製造し、西川物産(株)ほかガスシンケア製品、マンホール用ジョイントシール材等を製造し、当社および西川物産(株)が販売しております。

#### (北米)

連結子会社のニシカワ・クーパー LLC、ニシカワ・シーリング・システムズ・メキシコ S.A. DE C.V.ほか自動車用部品を製造・販売しております。

#### (東アジア)

連結子会社の上海西川密封件有限公司、広州西川密封件有限公司ほか自動車用部品を製造・販売しております。

#### (東南アジア)

連結子会社のニシカワ・タチャプララート・クーパー Ltd.およびPT.ニシカワ・カリヤ・インドネシアが自動車用部品を製造・販売しております。

#### 連結子会社

西川物産(株).....自動車用部品および金型の製造、一般産業資材の製造販売  
(株)西川ビッグオーシャン...自動車用部品の加工、一般産業資材の製造  
(株)西川ゴム山口.....自動車用部品の製造  
(株)西和物流.....運送業  
西川デザインテクノ(株).....自動車用部品の設計  
ニシカワ・オブ・アメリカ, Inc.....自動車用部品の開発および輸出入  
ニシカワ・クーパー LLC...自動車用部品の製造販売  
ニシカワ・タチャプララート・クーパー Ltd.....自動車用部品の製造販売  
上海西川密封件有限公司...自動車用部品の製造販売  
広州西川密封件有限公司...自動車用部品の製造  
西川橡膠(上海)有限公司...自動車用部品、設備等の販売  
ニシカワ・シーリング・システムズ・メキシコ S.A. DE C.V.....自動車用部品の製造販売  
PT. ニシカワ・カリヤ・インドネシア.....自動車用部品の製造販売  
湖北西川密封系統有限公司...自動車用部品の加工

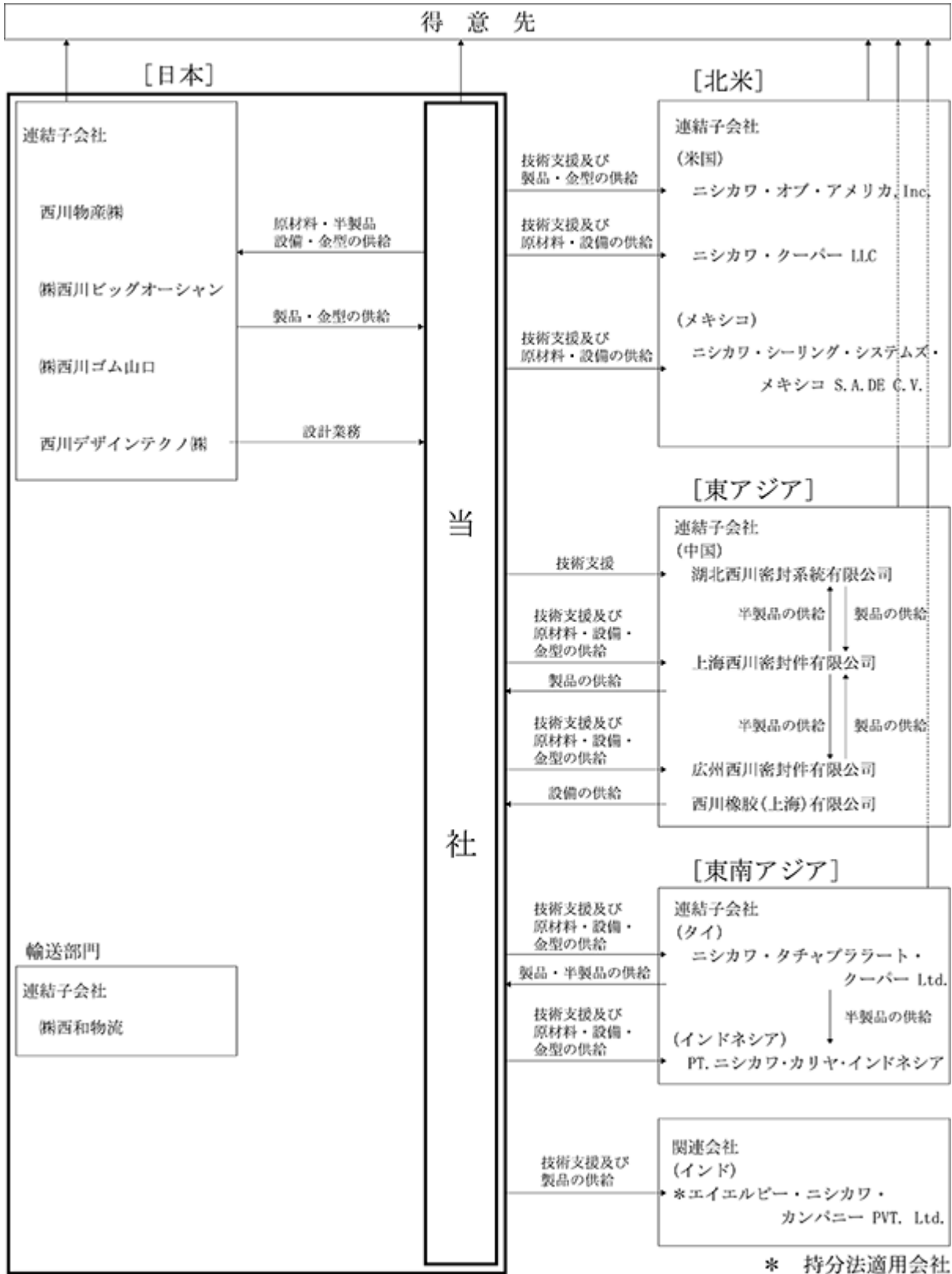
#### 関連会社

エイエルピー・ニシカワ・カンパニー PVT. Ltd.....自動車用部品の製造販売

他2社

(注) は持分法適用関連会社であります。

当社グループ等の状況を図に示すと、次のとおりとなります。



## 4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) 西川物産(株)	広島市安佐南区	21	自動車用部品 一般産業資材	100.0	当社の製品および金型を製造委託しています。また、建物の賃貸借をしています。 役員の兼任等...有
(株)西川ビッグオーシャン	広島市安佐北区	27	自動車用部品 一般産業資材	100.0	当社の製品を加工委託しています。また、建物の賃貸借をしています。 役員の兼任等...有
(株)西川ゴム山口	山口県下関市	20	自動車用部品	100.0	当社の製品を製造委託しています。また、土地・建物を賃貸および設備資金の貸付をしています。 役員の兼任等...有
(株)西和物流	広島市西区	10	運送業	100.0	当社グループの輸送業務を委託しています。また、建物の賃貸借をしています。 役員の兼任等...有
西川デザインテクノ(株)	広島市西区	20	自動車用部品	100.0	当社よりCADを主体とした設計業務を委託しています。また、建物を賃貸しています。 役員の兼任等...有
ニシカワ・オブ・アメリカ, Inc. (注)2	米国 デラウェア州 ウィルミントン市	千米ドル 48,000	自動車用部品	100.0	当社より技術支援および製品・金型の供給をしています。 役員の兼任等...有
ニシカワ・クーパー LLC (注)2、4	米国 デラウェア州 ウィルミントン市	出資金 千米ドル 21,243	自動車用部品	60.0 (60.0)	当社より技術支援および原材料・設備・金型を供給しています。 役員の兼任等...有
ニシカワ・タチャブラート・クーパー Ltd. (注)2	タイ ナコンラチャシマ県	千バーツ 630,000	自動車用部品	77.7	当社より技術支援および原材料・設備・金型を供給し、半製品を受入れています。 役員の兼任等...有
上海西川密封件有限公司 (注)2	中国 上海市	出資金 千人民元 173,267	自動車用部品	100.0	当社より技術支援および原材料・設備・金型を供給し、半製品を受入れています。 役員の兼任等...有
広州西川密封件有限公司 (注)2	中国 広州市	出資金 千人民元 106,751	自動車用部品	100.0	当社より技術支援および原材料・設備・金型を供給しています。 役員の兼任等...有
西川橡胶(上海)有限公司	中国 上海市	出資金 千人民元 1,140	自動車用部品	100.0	当社へ設備を供給しています。 役員の兼任等...有
ニシカワ・シーリング・システムズ・メキシコ S.A. DE C.V. (注)2、5、6	メキシコ グアナファト州 シラオ市	千ペソ 966,778	自動車用部品	100.0 (100.0)	当社より技術支援および原材料・設備を供給しています。また、運転資金および設備投資資金の貸付をしています。 役員の兼任等...有
PT. ニシカワ・カリヤ・インドネシア (注)2	インドネシア 西ジャワ州スメダン県	百万ルピア 376,286	自動車用部品	91.8	当社より技術支援および原材料・設備・金型を供給しています。 役員の兼任等...有
湖北西川密封系統有限公司 (注)2	中国 湖北省孝感市	出資金 千人民元 60,534	自動車用部品	100.0	当社より技術支援しています。 役員の兼任等...有
(持分法適用関連会社) エイエルピー・ニシカワ・カンパニー PVT. Ltd.	インド グルグラム市	千ルピー 450,000	自動車用部品	50.0	当社より技術支援および製品を供給しています。 役員の兼任等...有

(注) 1 「議決権の所有割合」欄の(内書)は間接所有であります。

2 特定子会社であります。

3 上記各社は、有価証券届出書または有価証券報告書を提出していません。

4 ニシカワ・クーパー LLCについては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	(1)売上高	30,216百万円
	(2)経常損失( )	129百万円
	(3)当期純損失( )	129百万円
	(4)純資産額	591百万円
	(5)総資産額	10,155百万円

5 ニシカワ・シーリング・システムズ・メキシコ S.A. DE C.V.については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	(1)売上高	11,866百万円
	(2)経常損失( )	2,298百万円
	(3)当期純損失( )	2,298百万円
	(4)純資産額	1,463百万円
	(5)総資産額	7,886百万円

6 債務超過会社であり、2023年12月末時点で債務超過額は1,463百万円であります。



## 5 【従業員の状況】

## (1) 連結会社の状況

2024年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
日本	1,974
北米	2,745
東アジア	929
東南アジア	1,318
合計	6,966

(注) 従業員数は、就業人員数であります。

## (2) 提出会社の状況

2024年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
1,341 (231)	45.2	21.2	5,906

セグメントの名称	従業員数(名)
日本	1,341 (231)
合計	1,341 (231)

- (注) 1 従業員数は、就業人員数であります。  
2 平均年間給与は、賞与および基準外賃金を含んでおります。  
3 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

## (3) 労働組合の状況

(提出会社)

結成 : 1960年11月18日

名称 : 西川ゴム労働組合

上部団体 : 日本ゴム産業労働組合連合(日本労働組合総連合会傘下)

組合員数 : 1,059名(2024年3月31日現在)

労使関係 : 労使協調を基本として生産性向上に協力しており、労使関係は円満に推移しております。

## (4) 管理職に占める女性労働者の割合、男性労働者の育児休業取得率及び労働者の男女の賃金の差異

## 提出会社

当事業年度				
管理職に占める女性労働者の割合(%) (注1)	男性労働者の育児休業取得率(%) (注2)	労働者の男女の賃金の差異(注1)		
		全労働者	正規雇用労働者	パート・有期労働者
3.2	41.2	58.8	70.1	86.6

(注) 1. 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定に基づき算出したものであります。

2. 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定に基づき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」(平成3年労働省令第25号)第71条の4第1号における育児休業等の取得割合を算出したものであります。

## 連結子会社

当事業年度							
名称	管理職に占める女性労働者の割合(%) (注1)	男性労働者の育児休業取得率(注1)			労働者の男女の賃金の差異(注1)		
		全労働者	正規雇用労働者	パート・有期労働者 (注2)	全労働者	正規雇用労働者	パート・有期労働者
西川物産(株)	3.7	100.0	100.0		65.2	70.4	91.8
(株)西川ビッグオーシャン	7.1	17.0	17.0		71.7	80.9	104.7

(注) 1. 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定に基づき算出したものであります。

2. パート・有期労働者における男性労働者の育児休業取得率(%)につきましては、該当する労働者はありません。

3. その他の連結子会社は、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)及び「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定による公表義務の対象ではないため、記載を省略しております。

## 第2 【事業の状況】

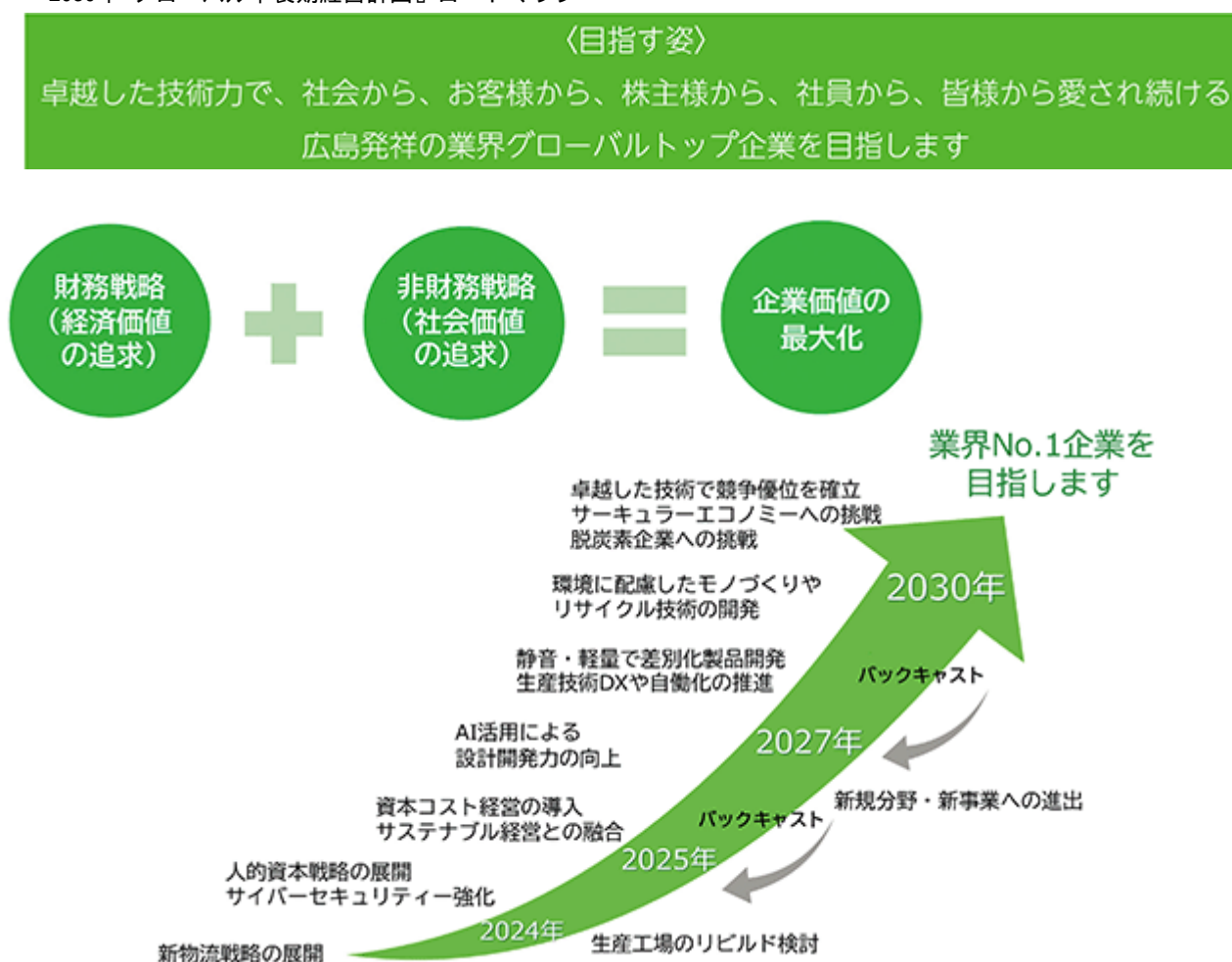
### 1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

当社は2021年に『西川ゴムグループ 2025年中長期経営計画』を策定・公表し、目標に向けてスタートを切りました。しかしながらその後の経営環境は、新型コロナウイルス感染症の世界的パンデミックの長期化や、半導体の不足、ウクライナへのロシア侵攻開始、記録的な円安など、これまでに無い大きな外部環境の変化に見舞われました。しかしステークホルダーの皆様のご支援により、これらの苦境を乗り越える事ができました。

それら複雑に変化した経営環境に、グローバルでフレキシブルに対応すると同時に「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」を取り入れ、SDGsやESGなどのサステナブル経営との融合性を高めて、当社の企業価値向上と持続可能な社会に貢献すべく、ここに新たな『2030年 グローバル中長期経営計画』を策定いたしました。

今後当社は『全員経営』と『弾力発想。』で新たな目標に向けスタートいたします。

『2030年 グローバル中長期経営計画』ロードマップ



#### 2030年中長期 財務目標 (連結)

当社は、資本コストや株価を意識した経営の実現に向け、自社の資本コストを把握し、それを上回る収益性を目指すべく、ROEに加えて、新たに連結ROICを経営のKPIとして追加しました。これらの目標を達成することで、さらなる企業価値の向上を目指します。

<b>売上高</b> <b>1,300</b> <small>億円以上</small>	<b>営業利益</b> <b>130</b> <small>億円以上</small>	<b>営業利益率</b> <b>10</b> <small>%以上</small>	<b>ROE</b> <b>(自己資本利益率)</b> <b>9</b> <small>%以上</small>	<b>ROIC</b> <b>(投下資本利益率)</b> <b>8</b> <small>%以上</small>
			※ 1	※ 2

- 1 当社は従来、株主資本を分母としたROEを目標としておりましたが、今後は自己資本を分母としたROEに変更し、株主資本コストを上回るROEを目指します。
- 2 当社は従来、総資産営業利益率(ROA)を経営指標としておりましたが、資本コスト経営導入に際し、投下資本利益率(ROIC)を新たな指標として設定し、加重平均資本コスト(WACC)を上回るROICを目指します。

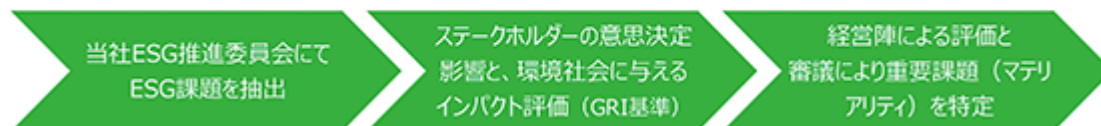
### 2030年に向けた主な取組み

	戦略	施策
グローバル成長戦略と収益性の向上	ウェザーストリップ製品の売上拡大による収益性と効率性の向上	AI活用による設計開発力の向上 静音・軽量差別化製品開発とブランド化 卓越した技術で競争優位を確立しシェアを向上 新規顧客開拓を推進
	新規分野、新事業への進出による売上の拡大	既存技術とシナジー効果が出せる分野及び製品の開発
	製造原価低減による収益性とフリーキャッシュフローの向上	生産技術DXや自動化によるプロセスイノベーションの推進
資産の効率化とキャッシュアロケーション	政策保有株式の見直し	政策保有株式の縮減 売却を検討し、成長投資に配分検討
	配当性向の見直し	成長投資、持続可能投資と、株主還元の両立を推進
	経営基盤の強化	人的資本投資、生産工場、設備の更新・増強検討
資本コストの低減と企業価値の向上	SDGs/ESG 非財務マテリアリティを設定し、積極的活動と開示を行う	CSV経営を浸透させ、経済的価値と、社会的価値の同時実現を目指し、ESG活動を推進
	コンプライアンス管理の徹底とサステナブル経営パフォーマンスの向上	CSR審査の第三者機関に評価して貴い客観性を担保
	企業の認知度を上げる 分かり易いIR/SRを目指す	テレビCMや、メディアの積極活用 決算資料の刷新、投資家との対話の深化 年1回以上の資本コスト経営の実現状況の開示

サステナブル経営の推進（非財務目標）

当社は、下記のプロセスを経て重要課題（マテリアリティ）を特定し、新たに目標項目と目標値を定めました。

非財務重要課題（マテリアリティ）選定のプロセス



	重要課題 （マテリアリティ）	目標項目	2030年目標 （国内）
Environment 環境	脱炭素企業への挑戦	CO <sub>2</sub> 排出量 Scope1+2	2013年度比 46%減
	産業廃棄物発生量の最小化	産業廃棄物発生量	2013年度比 55%減
Social 社会	ダイバーシティ & インクルージョン	女性管理職比率	15.0%以上
		障がい者雇用率	法定雇用率を上回る 雇用率
	働き方改革	ワーク・エンゲイジメン トスコア	69%以上（当社基準）
Governance 企業統治	コーポレートガバナンス 体制強化と コンプライアンスの徹底	重大法令違反件数	0件/毎年
	サイバーセキュリティ 強化	重大インシデント件数	0件/毎年

社内調査報告書への対応

当社は2024年8月16日付「当社連結子会社における棚卸資産の計算等に関する調査結果及び再発防止策の策定に関するお知らせ」において公表しましたとおり、ニシカワ・シーリング・システムズ・メキシコ S.A. DE C.V.において棚卸資産の計算等に関して疑義が生じた背景および原因について、外部の専門家の協力を得て社内調査を進めてまいりました。

その結果、棚卸資産に関する単価・数量・決算整理仕訳の誤り等による棚卸資産の過大計上が判明いたしました。

その原因については、試算表と在庫明細の差異に係る手入力仕訳の査閲・承認が適切に行われていなかったこと、本件子会社で使用する在庫管理システムにおける棚卸資産の単価設定を変更できるアクセス権限が適切に管理されていなかったこと、棚卸資産の勘定内訳明細の網羅的な作成不足、棚卸実施時のロケーションと在庫リストの網羅性の確認が不足していたこと、等がありましたが、当社による本件子会社の内部統制に係る管理・指導等にも課題があったと結論付けております。

また、当社の国内外の連結子会社全14社における類似事案を調査したところ、本件子会社以外の1社の棚卸資産残高について、単価入力ミス等により過大計上となっていることが判明いたしました。なお、調査の過程で不正の兆候は検出されておらず、誤謬による過大計上であると結論付けております。

当社は財務報告に係る内部統制の整備および運用の重要性を認識しており、再発防止策を通じて、内部統制に係る管理体制の見直しとさらなる機能強化を図ることは、財務報告の信頼性回復は言うまでもなく、新中長期経営計画を達成し、企業価値の向上を実現するために必要不可欠であると考えております。

今後、本件に関する個別業務の局所的な対処に留まることなく、本質的な再発防止に取り組むことで、株主をはじめとしたステークホルダーの皆様からの信頼回復に努めてまいります。

## 2 【サステナビリティに関する考え方及び取組】

当社グループのサステナビリティに関する考え方および取組の状況は、次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

### (1) サステナビリティ全般に関するガバナンス

当社グループはサステナビリティに係る対応を経営上の重要課題と認識し、取締役会による監督体制下にESG推進委員会を設置し、ガバナンス体制を構築しております。

#### 取締役会による監督体制

取締役会は、年4回開催されるESG推進委員会より取組状況や目標の達成状況の報告を受けております。

#### ESG推進委員会と各分科会

非財務目標のE・S・Gそれぞれの重要課題と個別課題に対する具体案を検討・議論することを目的に、ESG推進委員会の下部組織として次の各分科会を設置し、毎月会合を開催しております。

- ・E分科会（環境対応部会）
- ・S分科会（社会性向上部会）
- ・G分科会（ガバナンス向上部会）

ESG推進委員会は、各分科会から報告を受けた内容に基づいてESG経営に関する戦略の方向性を協議し、取締役会へ報告しております。なお、取締役会にて承認された決定事項の通達や予算の実行等については、ESG推進委員会が各分科会へ指示し、それを受けた各分科会が執行組織に対応を指示しております。

#### ESG推進に係る経営者の役割

ESG推進に係る事項は、ESG推進委員会が統括しており、代表取締役社長が委員長を務めております。また、各分科会のリーダーと副リーダーは取締役や執行役員を主要メンバーとして構成しており、当社経営層を中心とした推進体制を構築しております。

#### サステナビリティに係る所管部門

サステナビリティ推進室は、ESG推進委員会の事務局を担当するとともに、全社的なサステナビリティに係る対応の推進およびESG推進に係る事項を含む施策を検討・立案し、ESG推進委員会に提言しております。

当社グループのサステナビリティに係るガバナンス体制図は、「第4 提出会社の状況 4 コーポレート・ガバナンスの状況等(1)コーポレート・ガバナンスの概要 会社の機関・内部統制の関係」のとおりであります。

### (2) サステナビリティ全般に関するリスク管理

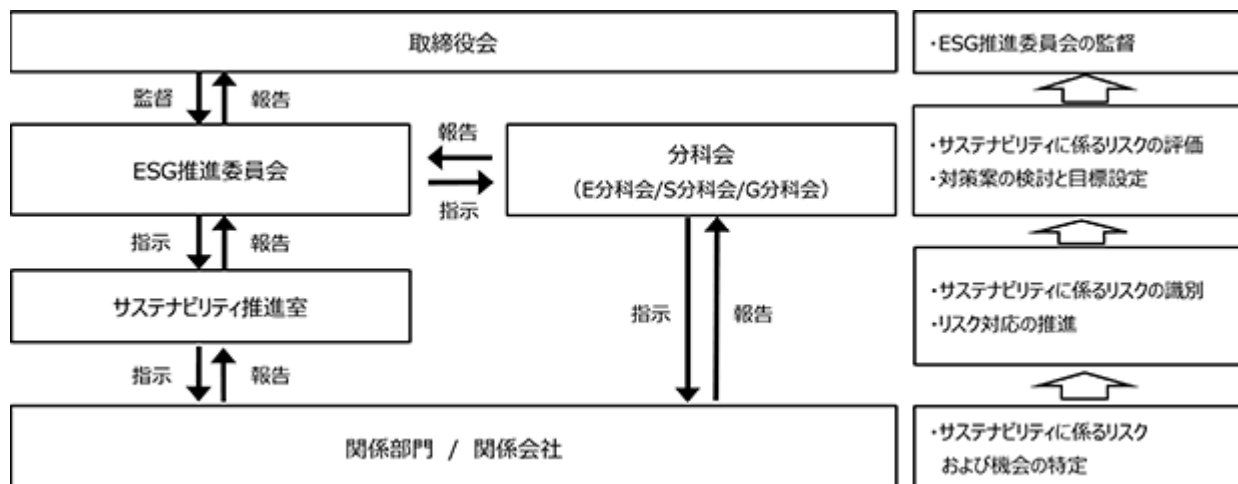
サステナビリティに係るリスクは、ESG推進委員会にて評価し、定期的に取り締役に報告しております。

#### サステナビリティに係るリスクを識別・評価するプロセス

サステナビリティに係るリスクについては、社内の関係部門および関係会社にて関連するリスクおよび機会を特定し、サステナビリティ推進室が識別の上、ESG推進委員会に報告します。

ESG推進委員会は、識別されたサステナビリティに係るリスクについて、リスクの潜在的な大きさとスコープを評価し、重要度に応じて対策案の検討を各分科会に指示した上で目標を設定し、取締役会に報告します。取締役会は、各リスクについて、対策案や設定した目標を監督します。

当社グループのサステナビリティに係るリスク管理プロセス図は、以下のとおりであります。



(3) 指標および目標

サステナビリティ全般に関するリスク・機会を管理するための指標として、以下の通り中長期目標を設定し、取り組んでおります。

なお、この中長期目標は当社が2024年5月に公表した新しい中長期経営計画『2030年 グローバル中長期経営計画』の非財務目標として設定しており、サステナブル経営との融合を図っております。

重要課題 (マテリアリティ)	指標	範囲	目標
脱炭素企業への挑戦	CO <sub>2</sub> 排出量 スコープ1、2	単体および 国内子会社	2030年度： 2013年度比 46%減
			2050年度：実質ゼロ (カーボンニュートラル)
産業廃棄物発生量の 最小化	産業廃棄物発生量	単体	2030年度： 2013年度比 55%減
ダイバーシティ & インクルージョン	女性管理職比率	単体	2030年度：15.0%以上
	障がい者雇用率	単体	2030年度： 法定雇用率を上回る 雇用率(注)
働き方改革	ワーク・エンゲイジ メントスコア	単体	2030年度： 69%以上(当社基準)
コーポレートガバナンス体 制強化と コンプライアンスの 徹底	重大法令違反件数	単体および 国内外子会社	0件/毎年
サイバーセキュリティ強 化	重大インシデント 件数		0件/毎年

(注) 障がい者の法定雇用率は2024年4月時点で2.5%であり、2026年7月に2.7%へ段階的に引き上げられることとなっております。

詳細につきましては、当社ホームページおよび2023年12月に発行いたしましたCSR報告書2023をご参照ください。  
当社ホームページ(サステナビリティ)

<https://www.nishikawa-rbr.co.jp/sustainability/>

CSR報告書2023

<https://www.nishikawa-rbr.co.jp/sustainability/csr.html>

またCSR報告書2024につきましては、2024年秋頃を目処に上記ホームページに最新版を掲載する予定です。

## (4)戦略

## 気候変動

当社グループは気候変動によるリスクと機会を認識し、事業戦略への反映を進めております。主なリスクとして、カーボンニュートラルの実現への移行に際し、国内外において、炭素税の上昇やCO<sub>2</sub>排出量削減義務の強化、排出量取引制度などの導入が進む際に、社会や顧客のニーズの変化に対して発生する研究開発費や設備投資によるコストアップ、業績悪化など財政状況への悪影響があります。一方でこれらのニーズは新たな成長機会とも捉えております。

これらのリスクを踏まえてCO<sub>2</sub>排出量の削減目標を設定し、軽量化、リサイクル、低CO<sub>2</sub>材料や設備の導入といった環境に配慮した技術の革新に加え、再生可能エネルギーの導入を推し進めています。これらの開発テーマは四半期毎に開催されるESG推進委員会で審議された後、取締役会に上程されます。またCO<sub>2</sub>排出量の実績値につきましては取締役会にて報告し、進捗を監視しております。

## 人的資本

## 人材育成方針

当社においては、人的資本経営の実現に向けて、事業戦略にマッチしたスキル・能力を見える化したうえで、採用と育成につなげ、人材活躍の最大化を図り、組織力を向上し続ける事を目的に社内制度を整備しております。

具体的には、職能・職位によって求められるスキルを明確にし、年次毎に個人の状態を確認の上でOJTを進め、またOJTを補完するために全社・職掌・部門としてのOFF-JTと、自ら成長しようとする意欲に基づく各人の自己啓発を通じて能力開発を行い、育成ジョブローテーションを通じて能力の活用を図っております。

## 職場環境整備方針

当社においては、西川ゴムグループスローガンである「しなやかでたくましい会社」であり続けるために、「ダイバーシティ&インクルージョン」「働き方改革」を重要課題として掲げております。

具体的には、人種・国籍・性別・年齢を問わずに人材を活用することでダイバーシティ(多様性)を高め、女性活躍行動計画を推進し、ワークライフバランスの充実をはかっていくことにより、やりがいをもって仕事ができる職場環境構築を図っております。

## 人的資本に関する指標および目標

当社では、上記の方針に基づき下記の活動および仕組みづくりを推進しております。また、その活動効果を把握するために、以下の通り目標を掲げ活動を推進しております。

なお現時点においては、法律や制度が異なる海外子会社を含めて連結目標を一体的に管理することが困難であることや、実施事項が単体のみであるものも含まれていることから、関係会社の一部を対象から外しております。

指標	目標(2030年度)	2023年度実績
女性管理職比率	15%以上	単体:3.2% 単体および国内子会社:3.7%
障がい者雇用率	法定雇用率を上回る雇用率(注)2	単体:2.7% 単体および国内子会社:2.3%
ワーク・エンゲイジメントスコア	69%以上(当社基準)	単体:65.5%

(注)1 男性労働者の育児休業取得率、労働者の男女の賃金の差異については、「第1 企業の概況 5 従業員の状況(4)管理職に占める女性労働者の割合、男性労働者の育児休業取得率及び労働者の男女の賃金の差異」で記載しております。

2 障がい者の法定雇用率は2024年4月時点で2.5%であり、2026年7月に2.7%へ段階的に引き上げられることとなっております。



### 3 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある主要なリスクには以下のようなものがあります。なお、当該リスクが顕在化する可能性の程度や時期、当該リスクが顕在化した場合に当社グループの経営成績等の状況に与える影響につきましては、合理的に予見することが困難であるため記載しておりません。

当社は、グループ全体のリスク管理の基本方針および体制と対応を“リスク管理規則”において定め、その基本方針および体制と対応に基づき、当社グループを取り巻くリスクへの予防措置とリスクが顕在化したときの対応措置を定めております。

なお、本項に記載した事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 経済状況

当社グループの主要顧客は国内外の自動車メーカーであり、自動車用部品の取引が売上高の大半を占めております。そのため当社グループが展開している各国の市場において、経済の低迷や物価等の動向による自動車の購買意欲低下、材料供給不足や感染症の拡大等により生産調整が生じ自動車生産台数が減少した場合、当社グループの業績および財政状況に影響を及ぼす可能性があります。

#### (2) 自然災害

当社グループが事業展開する国や地域において、地震や豪雨等の自然災害が発生した場合、当社グループの事業活動、業績および財政状況に影響を及ぼす可能性があります。そのため、当社は災害発生時における災害対策および事業継続計画（BCP）の策定、安否確認システムの導入、衛星電話の設置、防災訓練等の対策を講じており、グループ会社においても個々に各種対策を講じております。また、生産現場においては、地震への減災対策、土砂災害、二次災害の防止対策を進めております。これらの事前対策により災害による被害の最小化、当社グループの業績および財政状況に対する影響の低減に努めております。

#### (3) 為替レートの変動

当社グループの取引には外国通貨も使用しており、可能な限り為替変動の影響を受けないよう使用する各通貨のバランスをとっておりますが、市場状況の変化によって大幅な通貨変動の影響を受けた場合、当社グループの業績および財政状況に影響を及ぼす可能性があります。

#### (4) 価格競争

当社グループの主要顧客である自動車メーカーはグローバル化に伴い世界同一品質および同一価格確保のため、あるいはグローバル展開車種増加のため、世界規模での一括発注を進めています。当社グループの生産および販売も、国内、北米、欧州、アジア等グローバルに展開しておりますが、その殆ど全ての地区で競合他社と受注競争をしております。その結果、熾烈な価格競争により利益を圧迫することで、当社グループの業績および財政状況に影響を及ぼす可能性があります。

#### (5) 海外進出

当社グループは、米国、タイ、中国、インド、メキシコ、インドネシア等に海外進出を行っており、当該地域における経済環境、市場動向等を検討し、計画的に事業展開していく予定ですが、進出国の政治的、経済的事情による影響を受け、事業の一時的縮小または中断などによる利益減少を招き、当社グループの業績および財政状況に影響を及ぼす可能性があります。

なお、メキシコの連結子会社ニシカワ・シーリング・システムズ・メキシコ S.A. DE C.V.は、半導体不足の影響で落ち込んでいた生産が回復し、各得意先の販売数量も回復はみられましたが、原材料・エネルギー価格高騰などにより、継続的に営業損益がマイナスとなっており、当社グループの業績および財政状況に影響を及ぼす可能性があります。

また、米国の連結子会社ニシカワ・クーパー LLCは、米国経済の回復とともに、主要顧客である日系自動車メーカーの生産台数が増加し、売上は対前年増となっておりますが、同時に北米の労働市場の需給バランスの崩れが急激な物価上昇を招き、原材料やエネルギー費の高騰と、逼迫する労働力の確保のために、想定以上にコストが増加しているため、当社グループの業績および財政状況に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 原材料、部品の供給

当社グループは、原材料および部品を複数のグループ外供給元から調達しておりますが、原材料価格の上昇や、資材の供給バランスによる影響で品不足が発生する場合、製品原価の上昇につながり、これらを販売価格に十分に転嫁できない場合、当社グループの業績および財政状況に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 情報セキュリティ

当社グループは、全ての役員および社員に対し、情報の取り扱いに関する規則を定め、高い情報セキュリティレベルを確保することを重要事項と認識しております。当社グループは、情報共有や業務の効率化のため、情報システムを構築・運営するとともに、情報システム運営上の安全性確保のため、サイバーセキュリティリスクも考慮し、情報システム管理基準を定め、危機管理対応の徹底に取り組んでおります。しかし、こうした対策を行ったとしても、不正アクセス、サイバー攻撃等による機密情報・個人情報の漏洩、機器の破損による情報システムの停止等のリスクを完全に回避できるものではなく、被害の規模によっては当社グループの業績および財政状況、ならびに社会的信用の失墜や訴訟等により企業ブランド価値に影響を及ぼす可能性があります。そのため当社では、当社グループ含め、情報管理に対する啓蒙活動を行うとともに、近年高度化、巧妙化しているサイバー攻撃への対応を強化し、情報管理体制の維持・強化等を推進しております。

(8) 製品の市場での不具合

当社グループは「品質第一」に徹し品質マネジメントシステムの徹底遵守と継続的改善を行っております。当社グループの製品は主として自動車の各シール部分に装着される場合が多く、自動車のボディーやドア、ガラスの建付け等相手部品との出来栄や組合せで機能するもので、部品相互の関係で予期せぬ不具合が発生した場合、製品の不具合による損害賠償発生等により、当社グループの業績および財政状況に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 重要な訴訟等の発生

当社グループを相手とした訴訟が提起され、当社の主張と相違する結果となった場合、その請求内容等によっては、当社グループの業績および財政状況に影響を及ぼす可能性があります。当社グループは、法令および社内の諸規定等を遵守するため、グローバル・コンプライアンス管理体制の強化を図り、定期的なコンプライアンス教育を実施する等、活動を推進しております。

#### 4 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

##### (1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社、連結子会社および持分法適用会社）の財政状態、経営成績およびキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

##### 財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度における世界経済は、ウクライナ情勢の長期化に起因する資源・エネルギー価格の高騰に加え、不動産市場の低迷を受けた中国経済の減速や、イスラエル・パレスチナ情勢の悪化、欧米での金融引き締めに伴う影響など、先行き不透明な状況が継続しております。

一方、日本経済は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行による経済活動の正常化に伴い、飲食等のサービス業を中心に回復傾向にありますが、物価上昇による個人消費の停滞や輸出の伸び悩みにより、回復ペースは緩やかなものにとどまっております。

自動車業界におきましては、国内および海外の自動車生産台数は前期比で増加傾向に推移しました。

当社グループにおきましては、全社員が一丸となって精力的・継続的に取り組みを進めております合理化・効率化活動により、当連結会計年度における売上高は117,904百万円（前期比20.1%増）、営業利益は6,555百万円（前期は営業損失105百万円）、経常利益は8,920百万円（前期比569.6%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は5,038百万円（前期比330.3%増）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

##### （日本）

自動車生産台数が前期比で増加したことに加え合理化・効率化活動の継続などにより、売上高は55,769百万円（前期比12.6%増）となり、営業利益は5,232百万円（前期比183.1%増）となりました。

##### （北米）

自動車生産台数が前期比で増加したことなどにより、売上高は42,901百万円（前期比41.9%増）となりました。利益においては前期より改善しましたが、メキシコ拠点において上期に発生した労働環境逼迫による一過性支出が影響し、営業損失は1,712百万円（前期は営業損失4,420百万円）となりました。

##### （東アジア）

自動車生産台数は前期比で増加しましたが、当社の受注車種が減少する中、徹底的なコスト削減を継続して推進したことなどにより、売上高は13,152百万円（前期比6.5%減）となり、営業利益は708百万円（前期比5.9%減）となりました。

##### （東南アジア）

自動車生産台数が前期比で増加したことなどにより、売上高は12,896百万円（前期比22.6%増）となり、営業利益は2,413百万円（前期比43.8%増）となりました。

## キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ1,495百万円増加し、38,591百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により得られた資金は、14,884百万円（前期比9,641百万円の収入増）となりました。主な要因は、税金等調整前当期純利益が増加したことなどによるものであります。

### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により使用した資金は、5,159百万円（前期比474百万円の支出増）となりました。主な要因は、定期預金の払戻による収入が減少したことなどによるものであります。

### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により使用した資金は、9,403百万円（前期比10,887百万円の支出増）となりました。主な要因は、長期借入金の返済による支出が増加したことなどによるものであります。

## 生産、受注及び販売の実績

### 生産実績

当連結会計年度の実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	前期比(%)
	金額(百万円)	
日本	51,049	15.4
北米	42,795	40.5
東アジア	11,522	13.3
東南アジア	12,478	24.7
合計	117,845	20.3

(注) 1 生産実績には、外注先に委託した生産分を含んでおります。

2 金額は、販売価額により表示しております。

### 受注実績

当社グループは、各自動車メーカーをはじめとして納入先より四半期毎および翌月の生産計画の内示を受け、見込生産を行っているため、受注実績に該当する事項はありません。

販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)		前期比(%)
	金額(百万円)	構成比(%)	
日本	50,996	43.3	13.8
北米	42,894	36.4	42.0
東アジア	11,618	9.9	11.5
東南アジア	12,395	10.5	23.8
合計	117,904	100.0	20.1

- (注) 1 セグメント間の取引については、相殺消去しております。  
2 主な相手先別の販売実績および総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)		当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	
	金額(百万円)	比率(%)	金額(百万円)	比率(%)
トヨタ自動車(株)	10,912	11.1	14,576	12.4
マツダ(株)	10,024	10.2	10,297	8.7

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識および分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

財政状態及び経営成績等の状況に関する分析・検討内容

当社は2021年に『西川ゴムグループ 2025年中長期経営計画』を策定・公表し、目標に向けてスタートを切りました。しかしながらその後の経営環境は、新型コロナウイルス感染症の世界的パンデミックの長期化や、半導体の不足、ウクライナへのロシア侵攻開始、記録的な円安など、これまでに無い大きな外部環境の変化に見舞われました。しかしステークホルダーの皆様のご支援により、これらの苦境を乗り越える事ができました。

それら複雑に変化した経営環境に、グローバルでフレキシブルに対応すると同時に「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」を取り入れ、SDGsやESGなどのサステナブル経営との融合性を高めて、当社の企業価値向上と持続可能な社会に貢献すべく、ここに新たな『2030年 グローバル中長期経営計画』を策定いたしました。今後当社は『全員経営』と『弾力発想。』で新たな目標に向けスタートいたします。

現時点の2025年3月期の業績見通しは、以下のとおりであります。

[2025年3月期連結業績見通し]

売上高	110,000	百万円	(対前期比	6.7%)
営業利益	5,500	百万円	(対前期比	19.7%)
経常利益	6,800	百万円	(対前期比	25.6%)
親会社株主に帰属する当期純利益	4,600	百万円	(対前期比	21.2%)

『2030年 グローバル中長期経営計画』

2030年中長期 財務目標		2030年中長期 非財務目標	
連結売上高	1,300億円以上	E:	脱炭素企業への挑戦
連結営業利益	130億円以上	E:	産業廃棄物発生量の最小化
		S:	ダイバーシティ&インクルージョン
連結営業利益率	10%以上	S:	働き方改革
連結自己資本利益率 (ROE)	9%以上	G:	コーポレートガバナンス体制強化と コンプライアンスの徹底
連結投下資本利益率 (ROIC)	8%以上	G:	サイバーセキュリティの強化

## 財政状態の分析

### (資産の部)

当連結会計年度末における総資産の額は137,732百万円となり、前連結会計年度末と比べ12,575百万円の増加となりました。主な増加は、投資有価証券、現金及び預金などであります。

### (負債の部)

当連結会計年度末における負債合計は50,221百万円となり、前連結会計年度末と比べ374百万円の減少となりました。主な減少は、短期借入金、支払手形及び買掛金などであります。

### (純資産の部)

当連結会計年度末における純資産の額は87,510百万円となり、前連結会計年度末と比べ12,949百万円の増加となりました。主な増加は、利益剰余金、為替換算調整勘定、その他有価証券評価差額金などであります。

## 経営成績の分析

### (売上高)

当連結会計年度における売上高は、前連結会計年度に比べ19,737百万円増加し、117,904百万円(前期比20.1%増)となりました。

海外におきましては、北米および東南アジアにおいて自動車生産台数が増加したことにより増収となりました。東アジアにおいては自動車生産台数は増加しましたが、受注車種の影響により減収となりました。

国内におきましては、自動車生産台数の増加により、増収となりました。

なお、セグメント別の売上高につきましては、「第2 事業の状況 4 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 経営成績等の状況の概要 財政状態及び経営成績の状況」に記載のとおりであります。

### (営業利益)

当連結会計年度における営業利益は、原材料および物流費高騰が継続する中、全社員が一丸となって精力的・継続的に取り組みを進めております合理化・効率化活動により、前連結会計年度に比べ6,661百万円増加し、6,555百万円(前期は営業損失105百万円)となりました。

### (経常利益)

当連結会計年度における経常利益は、前連結会計年度に比べ7,588百万円増加し、8,920百万円(前期比569.6%増)となりました。

### (親会社株主に帰属する当期純利益)

当連結会計年度における親会社株主に帰属する当期純利益は、前連結会計年度に比べ3,867百万円増加し、5,038百万円(前期比330.3%増)となりました。

## キャッシュ・フローの状況の分析・検討内容並びに資本の財源及び資金の流動性に係る情報

### キャッシュ・フローの状況の分析・検討内容

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度に比べ1,495百万円増加し、38,591百万円となりました。キャッシュ・フローの状況の分析につきましては、「(1)経営成績等の状況の概要　キャッシュ・フローの状況」に記載しております。

### 資本の財源及び資金の流動性に係る情報

当社グループは現在、必要な運転資金および設備投資資金については、自己資金または借入等により資金調達することとしております。当連結会計年度末において、短期借入金の残高は10,590百万円、長期借入金の残高は8,024百万円であります。

当社グループは、今後も営業活動により得られるキャッシュ・フローを基本に将来必要な運転資金および設備投資資金を調達していく考えであります。

当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因につきましては、「第2　事業の状況　3　事業等のリスク」に記載のとおりであります。

### 重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当連結会計年度において、当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成しております。この連結財務諸表を作成するにあたって、資産、負債、収益、費用の報告額に影響を及ぼす見積りおよび仮定を用いておりますが、これらの見積りおよび仮定に基づく数値は実際の結果と異なる可能性があります。

連結財務諸表の作成にあたって用いた会計上の見積りおよび仮定のうち、重要なものは「第5　経理の状況　1　連結財務諸表等（1）連結財務諸表　注記事項（重要な会計上の見積り）」に記載しております。



## 5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

## 6 【研究開発活動】

当社グループにおける研究開発活動は、当社が一元的に行っております。自動車や住宅の快適居住空間をシール&フォームエンジニアリングで支えるブランドカンパニーとして、先進技術を積極的に取り入れ、既存分野・概念にとられない幅広い技術開発にチャレンジし続けています。今後のカーボンニュートラルの実現に向け、サステナブル材料、省エネ技術に着目した開発活動も積極的に進めています。

当連結会計年度中の主な研究開発活動

### (1) 自動車用部品

自動車市場に向けては「ドアシール技術開発」と「防音製品技術開発」を2本柱展開として、これらを益々拡大・発展させて売上向上に繋ぐべく、製品設計・材料開発・評価技術開発等の幅広い活動を鋭意進めております。

#### 樹脂製ヒドンドアタイプ グラスランチャンネル

昨今の自動車は、航続距離アップの必要性から「軽量化」が推進されております。自動車のドアガラス周りの段差を縮小して外観性を向上させるヒドングラスランチャンネルは、これまで一般的なゴム+鋼材での構造でしたが、当社は「ALL樹脂」で開発いたしました。この樹脂化により、「軽量化」だけではなく「形状変更なく意匠モールのカラーバリエーションを選定できるフレキシブルな構造」・「高耐久化」・「リサイクル性向上」・「製造時CO<sub>2</sub>削減」にも寄与しており、顧客満足度を上げ且つ持続可能なものづくりに対応しております。また、この樹脂化した構造は多数の特許も取得しております。このヒドングラスランチャンネルは現在、国内だけではなくグローバルでも採用されており、受注拡大活動に大きく貢献しております。

今後も地球環境に配慮した製品の研究開発を進めてまいります。

#### 防音製品技術開発

昨今EV化の発展に伴い、更なる防音性向上のニーズが高まり、自動車の空気抵抗値低減のための“サイドガラスの面一化デザイン(フラッシュサーフェイス)”と、透過音低減のための“合わせガラス”採用が増える傾向にあります。

当社は、国内・海外自動車メーカーのオープンカーやハードトップ車のシールを、多数の車種において開発・量産してきた実績を持っております。それらの設計ノウハウをベースに、各自動車メーカーのニーズに応えるシール形状デザインの下、“合わせガラス”の開閉耐久を満足させ、キシミ音の低減をも実現した当社開発の塗料で、防音性向上のニーズにも対応しております。

今後も、カーボンニュートラルを意識した生産効率の高いシール製品の開発をさらに進めてまいります。

### (2) 一般産業資材

住宅市場に向けても、得意先動向である住宅長期保証に対応したシール製品開発や機能性を向上させたシール製品開発を、コア技術である押出・発泡を基軸に進めております。

住宅の外壁目地シール材では、これまで湿式シーリング仕様の目地材で防水保証30年でしたが、当社は「乾式ガasket仕様」で30年の長期保証ができる目地シール材を開発いたしました。

当社の優位技術である低比重高発泡スポンジ **Hysoft®** を配置し、自在に変形するスポンジで長期の止水力向上を実現いたしました。施工しやすい製品設計は、特許も多数取得しております。

今後も材料・製品仕様の双方から、各得意先要望へのきめ細かい対応さらには新規顧客開拓を進め、受注・売上アップを確実に進めてまいります。

当連結会計年度において当社が支出した研究開発費の総額は589百万円であります。

なお、当社グループのセグメントは地域別に構成されており、研究開発活動の全てを日本で行っているため、セグメントごとの研究開発活動の状況につきましては記載を省略しております。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資は、新製品生産設備および合理化投資などであり、設備投資額は総額4,800百万円であります。

その内訳は次のとおりであります。

日本では2,659百万円、北米では973百万円、東アジアでは1,051百万円、東南アジアでは115百万円を投資しました。なお、各セグメントとも、重要な設備の除却、売却等はありません。

#### 2 【主要な設備の状況】

当社グループ(当社および連結子会社)における主要な設備は、以下のとおりであります。

##### (1) 提出会社

2024年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	工具、器具 及び備品	合計	
白木工場 (広島市安佐北区)	日本	自動車用シール製品 及び一般産業資材製 品生産設備	247	378	101 (46,207)	51	779	169
安佐工場 (広島市安佐北区) (注) 3	日本	自動車用シール製品 及び一般産業資材製 品生産設備	874	849	92 (41,316) [1,572]	62	1,878	302
吉田工場 (広島県安芸高田市)	日本	自動車用シール・内 外装製品及び住宅用 外壁製品生産設備	558	805	492 (42,587)	87	1,944	194
三原工場 (広島県三原市)	日本	自動車用シール製品 及び住宅用外壁製品 生産設備	304	560	605 (32,885)	122	1,593	191
本社および営業所ほか (広島市西区ほか) (注) 4	日本	その他の設備	1,139	240	1,611 (87,456)	184	3,175	485

##### (2) 国内子会社

2024年3月31日現在

会社名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	工具、器具 及び備品	合計	
西川物産㈱ (広島市安佐南区)	日本	自動車用シール製 品・スキンケア製 品及び金型他生産設備	449	144	539 (7,679)	28	1,162	156
㈱西川ビッグオーシャン (広島市安佐北区)	日本	自動車用シール製品 生産設備	35	265	11 (5,125)	49	361	269
㈱西川ゴム山口 (山口県下関市)(注) 4	日本	自動車用シール製品 生産設備	17	388	-	30	435	182



### 3 【設備の新設、除却等の計画】

重要な設備の新設、除却等の計画は、以下のとおりであります。

#### (1) 重要な設備の新設等

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	投資予定金額 (百万円)		資金調達 方法	着手及び完了予定年月		完成後の 増加能力
				総額	既支払額		着手	完了	
提出 会社	白木工場 (広島市安佐北区)	日本	自動車用シール製品 及び一般産業資材製 品生産設備	384		自己資金	2024年4月	2025年3月	
	安佐工場 (広島市安佐北区)	日本	自動車用シール製品 及び一般産業資材製 品生産設備	855		自己資金	2024年4月	2025年3月	
	吉田工場 (広島県安芸高田市)	日本	自動車用シール製品 及び一般産業資材製 品生産設備	545		自己資金	2024年4月	2025年3月	
	三原工場 (広島県三原市)	日本	自動車用シール製品 及び一般産業資材製 品生産設備	904		自己資金	2024年4月	2025年3月	
	その他	日本	研究開発設備及びそ の他設備	20		自己資金	2024年4月	2025年3月	
国内 子会社	西川物産㈱ (広島市安佐南区)	日本	自動車用シール製品 及び金型の生産設備	286		自己資金	2024年4月	2025年3月	
	㈱西川ビッグオーシャン (広島市安佐北区)	日本	自動車用シール製品 及び一般産業資材製 品生産設備	195		自己資金	2024年4月	2025年3月	
	㈱西川ゴム山口 (山口県下関市)	日本	自動車用シール製品 生産設備	139		自己資金	2024年4月	2025年3月	
在外 子会社	ニシカワ・クーバー LLC (米国 デラウェア州 ウィルミントン市)	北米	自動車用シール製品 生産設備	1,174		自己資金 一部借入	2024年1月	2024年12月	
	ニシカワ・タチャプラ ラート・クーバー Ltd. (タイ ナコンラチャシマ 県)	東南アジア	自動車用シール製品 生産設備	1,134		自己資金	2024年1月	2024年12月	
	上海西川密封件有限公司 (中国 上海市)	東アジア	自動車用シール製品 生産設備	1,354		自己資金	2024年1月	2024年12月	
	広州西川密封件有限公司 (中国 広州市)	東アジア	自動車用シール製品 生産設備	77		自己資金	2024年1月	2024年12月	
	湖北西川密封系統有限 公司 (中国 湖北省孝感市)	東アジア	自動車用シール製品 生産設備	78		自己資金 一部借入	2024年1月	2024年12月	
	ニシカワ・シーリング・ システムズ・メキシコ S.A. DE C.V. (メキシコ グアナファト 州シラオ市)	北米	自動車用シール製品 生産設備	267		自己資金 一部借入	2024年1月	2024年12月	
PT. ニシカワ・カリヤ・ インドネシア(インドネシ ア 西ジャワ州スメダン 県)	東南アジア	自動車用シール製品 生産設備	97		自己資金	2024年1月	2024年12月		

(注) 設備投資は、新製品対応のための設備更新、合理化投資が中心であり完成後の生産能力の増加はほとんどありません。

#### (2) 重要な設備の除却等

経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

## 1 【株式等の状況】

## (1) 【株式の総数等】

## 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	48,343,000
計	48,343,000

## 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2024年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2024年8月26日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	19,995,387	19,995,387	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数は100 株であります。
計	19,995,387	19,995,387		

## (2) 【新株予約権等の状況】

## 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

## 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

## (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

## (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2003年1月31日(注)	630	19,995		3,364		3,661

(注) 自己株式の消却による減少であります。

## (5) 【所有者別状況】

2024年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)		20	21	149	70	10	3,528	3,798	
所有株式数(単元)		37,737	8,519	55,740	14,311	64	83,438	199,809	14,487
所有株式数の割合(%)		18.89	4.26	27.90	7.16	0.03	41.76	100.00	

(注) 自己株式700,627株は、「個人その他」に7,006単元、「単元未満株式の状況」に27株含まれております。

## (6) 【大株主の状況】

2024年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
公益財団法人西川記念財団	広島市西区三篠町二丁目2番8号	1,480	7.67
西川ゴム工業取引先持株会	広島市西区三篠町二丁目2番8号	1,268	6.57
株式会社ハイレックスコーポレーション	兵庫県宝塚市栄町一丁目12番28号	1,241	6.43
西川正洋	広島市西区	1,049	5.44
株式会社広島銀行	広島市中区紙屋町一丁目3番8号	957	4.96
立花証券株式会社	東京都中央区日本橋茅場町一丁目13番14号	680	3.53
西川ゴム工業社員持株会	広島市西区三篠町二丁目2番8号	581	3.01
西川泰央	広島市西区	545	2.83
株式会社山口銀行	山口県下関市竹崎町四丁目2番36号	544	2.82
光通信株式会社	東京都豊島区西池袋一丁目4番10号	513	2.66
計		8,860	45.92

(注) 上記のほか当社所有の自己株式700千株があります。

## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2024年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 700,600		
完全議決権株式(その他)	普通株式 19,280,300	192,803	
単元未満株式	普通株式 14,487		
発行済株式総数	19,995,387		
総株主の議決権		192,803	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式27株が含まれております。

## 【自己株式等】

2024年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 西川ゴム工業株式会社	広島市西区三篠町 二丁目2番8号	700,600	-	700,600	3.50
計		700,600	-	700,600	3.50

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

### (1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	160	230,294
当期間における取得自己株式		

(注) 当期間における取得自己株式には、2024年8月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式は含まれておりません。

### (4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、株式交付、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他(注)2	83,000	95,007,000	19,050	38,514,200
保有自己株式数	700,627		681,577	

(注) 1 当期間における「保有自己株式数」には、2024年8月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式数は含めておりません。

2 従業員持株会への第三者割当と譲渡制限付株式報酬としての自己株式処分であります。



### 3 【配当政策】

当社は、業績の安定的向上と安定配当の継続および配当性向等を勘案し、経営環境や収益状況さらに財務体質の強化にも十分配慮し、配当額を決定しております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会としております。なお当社は、「剰余金の配当および自己株式の取得等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めがある場合を除き、取締役会の決議によって定めることができる。」旨を定款に定めております。

当期の期末配当金につきましては、業績を勘案し株主への利益還元を進めるため、1株につき24円としております。先に実施いたしました中間配当金と合わせ、年間としては1株につき44円となりました。

なお、基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
2023年10月13日 取締役会決議	385	20
2024年6月26日 定時株主総会決議	463	24

## 4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

#### コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、社是「正道 和 独創 安全」と経営理念“己の立てる所を深く掘れ そこに必ず泉あらん”を基本に、社会の一員として法令、社会規範、企業ルールの遵守はもとより、企業本来の事業領域を通じて社会に貢献するに留まらず、時代とともに変化する経済・環境・社会問題等にバランスよくアプローチすることで、株主をはじめとするステークホルダー（企業を取り巻く関係者）の要求、期待、信頼に応える高い倫理観のある誠実な企業活動を行い、これを役員・従業員一人ひとりが追求し実践することにより、持続的に企業の存在価値を高めていくことをコーポレート・ガバナンスの基本としております。

#### 企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

##### 企業統治の体制

当社は監査等委員会設置会社を採用しております。採用の理由は、監査等委員である取締役が取締役会における議決権を付与することで、取締役会の監督機能の強化を図り、コーポレート・ガバナンスをより一層充実させるとともに、取締役への権限委譲により迅速な意思決定を行い、経営の効率性を高めることにより更なる企業価値の向上を図るためであります。

当社の各機関の概要は次のとおりであります。なお、構成員等は提出日現在のものであります。

#### a 取締役会

取締役会は、監査等委員でない取締役8名および監査等委員である取締役4名（うち社外取締役3名）の合計12名で構成されております。毎月開催される定例取締役会のほか、必要に応じ臨時取締役会を適宜開催しております。取締役会では、会社の業務執行に関する意思決定機関として法令および当社“取締役会規則”に定められた事項、その他の重要な付議事項の審議、決定を行っております。

構成員は次のとおりであります。

西川正洋氏（議長、役職名：代表取締役会長）、小川秀樹氏、出口幸三氏、岩本忠夫氏、休石佳司氏、手石実氏、立臺昭彦氏、佐々木慶浩氏、吉野毅氏、大迫唯志氏、山本順一氏、藏田修氏

（注）1 大迫唯志氏、山本順一氏、藏田修氏は社外取締役であります。

#### b 監査等委員会

監査等委員会は、監査等委員である取締役4名（うち社外取締役3名）で構成されており、またそのうち1名の常勤監査等委員の選定により情報収集や情報共有などを図るとともに、内部統制システムを活用して組織的な監査・監督を行っております。

監査等委員会は毎月開催するほか、必要に応じ適宜開催しております。

構成員は次のとおりであります。

吉野毅氏（議長、役職名：取締役（常勤監査等委員））、大迫唯志氏、山本順一氏、藏田修氏

（注）1 大迫唯志氏、山本順一氏、藏田修氏は社外取締役であります。

#### c 取締役・執行役員選任協議会

取締役・執行役員選任協議会は、監査等委員でない取締役4名および監査等委員である取締役3名（うち社外取締役3名）の合計7名で構成されております。取締役・執行役員選任協議会では、取締役および執行役員の選解任案の審議、監査等委員でない取締役の基本報酬額および業績連動報酬額の決定、執行役員の報酬額の決定ならびに監査等委員でない取締役の譲渡制限付株式報酬案の策定、監査等委員である取締役の基本報酬案および譲渡制限付株式報酬案の策定を行っております。

構成員は次のとおりであります。

小川秀樹氏（議長、役職名：代表取締役社長）、西川正洋氏、出口幸三氏、休石佳司氏、大迫唯志氏、山本順一氏、藏田修氏

（注）1 大迫唯志氏、山本順一氏、藏田修氏は社外取締役であります。

また、取締役会の下部機関としてグループコンプライアンス委員会、リスク管理委員会およびESG推進委員会を設置し、取締役会の指示に従って活動を実施するとともに、取締役会に報告等を行っております。

(グループコンプライアンス委員会)

グループコンプライアンス委員会は、当社代表取締役社長小川秀樹氏が委員長を務め、毎月開催しております。同委員会は取締役会と同じ12名の構成員（うち社外取締役3名）で構成され、グループコンプライアンス体制の計画・推進・評価・改善を行うとともに、コンプライアンス通報に関し適切な措置を検討し、取締役会に報告しております。

(リスク管理委員会)

リスク管理委員会は、当社代表取締役社長小川秀樹氏が委員長を務め、毎月開催しております。同委員会は取締役会と同じ12名の構成員（うち社外取締役3名）で構成され、当社の様々なリスクについて適正に管理し、その対応策を実施する活動を推進および統括し、取締役会に報告しております。

(経営企画委員会)

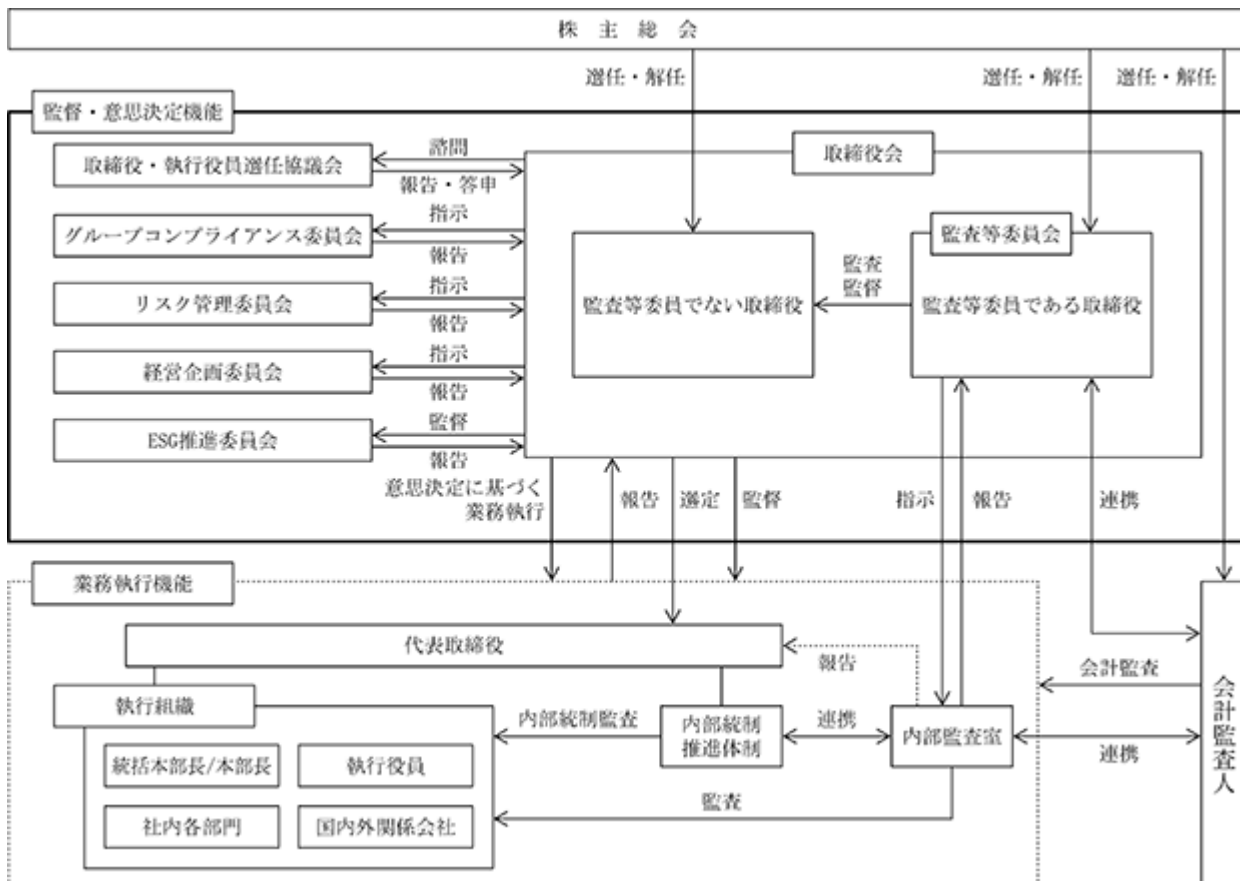
経営企画委員会は、当社常務取締役休石佳司氏が委員長を務め、当社各部門の主要メンバーで構成され、西川ゴムグループの長期ビジョンの作成・改訂および中期・年度の経営計画書作成に関する事項を検討し、取締役会に報告しております。

(ESG推進委員会)

ESG推進委員会は、当社代表取締役社長小川秀樹氏が委員長を務め、四半期毎に開催しております。同委員会は当社各部門の主要メンバーで構成され、ESG経営に関する戦略の方向性を協議し、その内容を取組状態や目標の達成状況とともに取締役会に報告しております。

会社の機関・内部統制の関係

当社での業務執行および監視体制、内部統制の模式図は以下のとおりです。



## 企業統治に関するその他の事項

### 内部統制システムの整備の状況

当社は、業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）の整備等について、“内部統制規則”を制定し、次のとおり運用しております。

- a 当社取締役および使用人、当社子会社の取締役等および使用人の職務執行が法令および定款に適合することを確保するための体制
  - イ 「西川ゴムグループ基本行動指針」を作成し、当社グループのすべての役職員に周知徹底する。
  - ロ “コンプライアンス推進規則”を定め、グループコンプライアンス委員会を設置する。グループコンプライアンス委員会はコンプライアンス推進に関わる課題・対応策を審議する。
  - ハ 当社グループの役職員に対し、年1回以上、法令遵守等に関する研修を行い、コンプライアンス意識の醸成を図る。
  - ニ 当社グループの役職員が、当社または外部弁護士事務所へ直接通報を行うことができるコンプライアンス通報・相談窓口を設置する。
  - ホ 当社監査等委員会は、取締役の職務執行について、監査の方針を定め、当該方針に基づく監査を行う。
  - ヘ 当社内部監査室は、“内部監査基準”に基づき、当社および当社子会社の内部監査を定期的を実施する。
- b 当社取締役の職務執行に係る情報の保存および管理に関する体制  
当社取締役会の議事録を作成し保存するとともに、文書管理に係る社内規定に定めるところに従い、起案・決裁書等、当社取締役の職務の執行および決裁に係る情報について記録し、各担当部門において適切に管理する。
- c 当社および当社子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制
  - イ 当社は、当社グループ全体のリスク管理について“リスク管理規則”を定め、同規則におけるリスクカテゴリーごとの責任部門により、グループ全体のリスクを網羅的・統括的に管理する。
  - ロ 当社グループのリスク管理を担当する機関としてリスク管理委員会を設置し、グループ全体のリスクマネジメントに関わる課題・対応策を審議する。
  - ハ 当社は、不測の事態や危機の発生時に当社グループの事業の継続を図るため「事業継続計画（BCP）」を策定する。
- d 当社取締役および当社子会社の取締役等の職務執行が効率的に行われることを確保するための体制
  - イ 当社は社是、経営理念、基本行動指針を基軸にグループ中長期計画および年度の経営計画を策定し、これに基づき、各本部において目標達成のために活動する。また、当社代表取締役は、“方針管理基準”に基づき、経営目標が当初の予定どおりに進捗しているか定期的に診断を行う。
  - ロ 当社取締役会は、法令に定められた事項やその他経営に関する重要事項を決定するとともに、取締役の職務執行に対する監督を行う。ただし、取締役会は、定款に基づき「重要な業務執行の決定」の全部または一部を監査等委員でない取締役に委任することにより、業務執行の機動性向上を図る。
  - ハ 当社取締役および使用人の日常の職務遂行に際しては、“業務分掌・職務権限基準”に基づき、“職制規則”に定められた各組織単位における職位の分掌業務の範囲ならびに職務執行に必要な職務権限と責任を定め、業務を組織的かつ効率的に遂行する。また、当社子会社においても当社に準拠した体制を構築させる。
- e 当社およびその子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
  - イ 当社が定める“関係会社管理基準”に基づき、グループ各社が相互に実施・協力すべき内容を明確にし、共通目的である「西川ゴムグループとしての最適連結経営」を実行する。
  - ロ 当社が定める“会議基準”に基づき、定期的に会議を招集・開催し、グループ各社の意思疎通を図り、経営上の諸検討事項の協議を行うものとする。
- f 当社子会社の取締役等の職務の執行に係る事項の親会社への報告に関する体制  
当社が定める“関係会社管理基準”に基づき、当社子会社の営業成績、財務状況その他重要な情報について当社への定期的な報告を義務付ける。

- g 監査等委員会の職務を補助すべき使用人に関する事項
- イ 当社監査等委員会の職務を補助すべき組織として、監査等委員会直轄の内部監査室を設置する。
  - ロ 当社監査等委員会は、監査の環境整備や内部監査室の職員に関して、監査等委員でない取締役に対して体制の整備を要請できる。
- h 当社監査等委員会の職務を補助すべき使用人の当社監査等委員でない取締役からの独立性および監査等委員会の当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項
- 内部監査室の職員は同室の専属として監査等委員でない取締役の指揮命令を受けず、監査等委員会の指揮命令に従うものとし、また人事異動・考課等は監査等委員会の同意の下に行うものとして、業務執行者からの独立性と、内部監査室の職員に対する監査等委員会の指示の実効性を確保する。
- i 当社取締役および使用人が当社監査等委員会に報告をするための体制その他の当社監査等委員会への報告に関する体制
- 当社の監査等委員でない取締役は、グループ会社に関する事項も含めて監査等委員会（または監査等委員会が選定する監査等委員）へ必要な情報を報告するほか、定期的な意見交換などを通じて適切な意思疎通を図るとともに、監査等委員会の求めに応じて報告を行う。
- j 当社子会社の取締役等および使用人またはこれらの者から報告を受けた者が親会社の監査等委員会に報告するための体制
- イ 当社グループの役職員は、当社監査等委員会から業務執行に関する事項について報告を求められたときは、速やかに適切な報告を行う。
  - ロ 当社グループの役職員は、法令等の違反行為等、当社または当社の子会社に著しい損害を及ぼす事実については、これを発見次第、直ちに当社のコンプライアンス推進室に報告を行い、当社コンプライアンス推進室は速やかに当社監査等委員会へ報告を行う。
  - ハ 当社内部監査室、コンプライアンス推進室およびリスク管理担当部門は、当社グループにおける内部監査、コンプライアンス、リスク管理等の現状について、定期的に当社監査等委員全員へ報告を行う。
  - ニ 当社コンプライアンス推進室は、当社グループの役職員からの内部通報の状況について、定期的に当社監査等委員全員に対して報告する。
- k 親会社の監査等委員へ報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制
- 当社は、当社監査等委員へ報告を行った当社グループの役職員に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを行うことを禁止し、その旨を当社グループの役職員に周知徹底する。
- 1 当社監査等委員の職務の執行について生ずる費用の前払または償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用または債務の処理に係る方針に関する事項
- イ 当社は、当社監査等委員がその職務の執行について、当社に対し、会社法第399条の2第4項に基づく費用の前払い等の請求をしたときは、担当部門において審議の上、当該請求に係る費用または債務が当該監査等委員の職務の執行に必要でないと認められた場合を除き、速やかに当該費用または債務を処理する。
  - ロ 当社監査等委員会が、独自の外部専門家（弁護士、公認会計士等）を当社監査等委員のための顧問とすることを求めた場合、当社は当該監査等委員の職務の執行に必要でないと認められた場合を除き、その費用を負担する。
  - ハ 当社は、当社監査等委員会の職務の執行について生ずる費用等を支弁するため、毎年一定額の予算を設ける。
- m その他の当社監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制
- 当社の監査体制と内部統制システムの体制との調整を図るとともに、当社監査等委員会が決定する「監査計画書」に基づき、当社代表取締役と定期的会合をもち、会社が対処すべき課題、監査等委員会監査の環境整備の状況、監査上の重要課題等について意見を交換し、併せて必要と判断される要請を行うなど、当社代表取締役との相互認識を深めるよう努めるものとする。

#### 財務報告の信頼性と適正性を確保するための体制

当社は、取締役会で決議した“財務報告に係る内部統制実施規則”に則り、財務報告の信頼性を確保するため、内部統制システムの整備・運用を行うとともにその有効性を継続的に評価する。

#### 反社会的勢力排除に向けた体制

暴力団・総会屋などの反社会的活動・暴力・不当な要求などをする人物および団体に対しては、毅然とした態度で臨み、一切の関係を遮断する。万一、反社会的勢力が攻撃してきた場合にも、これに屈せず断固として拒否し的確に対応する。

#### 社会貢献活動の推進

“社会貢献活動実施基準”において、当社の活動理念である「西川ゴムは良き企業市民として、豊かな社会の実現に貢献する」ために、社会貢献活動の推進体制、活動事項を明確にする。

#### 責任限定契約の内容の概要

当社と各社外取締役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく賠償責任の限度額は、法令が規定する最低責任限度額としております。

#### 役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当社は保険会社との間で、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しており、当該保険契約により保険期間中に被保険者に対して提起された損害賠償請求にかかる訴訟費用および損害賠償金等が填補されることとなります。なお、被保険者の範囲は当社および国内子会社の取締役、監査役、執行役員としており、すべての被保険者について、その保険料を会社が全額負担しております。

ただし、被保険者の職務の執行の適正性が損なわれないようにするため、当該被保険者が法令違反の行為であることを認識して行った行為に起因して生じた損害の場合には填補の対象とならないなど、一定の免責事由があります。

#### 財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当社は財務および事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりであります。

a 当社の財務および事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針（「基本方針」）

当社は、「正道 和 独創 安全」という社是のもと、会社の真の発展は、社会の福祉、世界の進運に寄与しうるものでなければならないと考えます。また、当社は、お客様第一に徹し、品質・技術の西川ゴムと社会から信頼され、いかなる環境の中でも成長し続ける「たくましい企業」「存在感のある企業」を目指し、「和の心」をもって全社員が一丸となって、自らの仕事に誇りと責任を持ち、常に正道に立って社業を運営してまいりました。現在ある当社を支え形成する有形無形の諸々の財産が当社の企業価値の源泉と認識しておりますし、それらの財産の上に当社の将来が在ると確信しております。当社の企業価値を高め、株主共同の利益に資するためには、当社の企業価値の源泉を理解し、それに立脚した上でさらなる企業成長を目指す必要があると考えます。従いまして、当社は、「当社の財務および事業の方針の決定を支配する者は、当社の社是、経営理念を理解し、当社の企業価値の源泉、当社のステークホルダーとの信頼関係を尊重した上で、当社の企業価値および株主共同の利益を確保し、中長期的に向上させる者でなければならない」と考え、これを基本方針として決定しております。

当社は、上場会社として株式の流通を市場に委ねている以上、特定の者による当社株式の大規模買付行為であっても、当社グループの企業価値および株主共同の利益の向上に資するものである限り、それを一概に否定はいたしません。また、大規模買付行為の提案に応じるべきか否かは、最終的には個々の株主の皆様にご判断いただくべきものと考えます。

しかしながら、近時、わが国の資本市場においては、対象となる会社の経営陣の賛同を得ることなく、一方的に大規模な株式の買付を強行するといった動きが一部に見受けられます。こうした大規模な株式の買付の中には、その目的等から見て、発行会社の企業価値および株主共同の利益を毀損しかねない行為も少なからず存在します。

そのような当社グループの企業価値および株主共同の利益を毀損する虞のある株式等の大規模買付者は、基本方針に照らし、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者としては不適切であると考え、このような者による大規模買付に対しましては、必要かつ相当な対抗措置を講ずることにより、当社の企業価値および株主共同の利益を確保する必要があるものと考えます。

b 基本方針の実現に資する取り組み

イ 2030年 グローバル中長期経営計画

複雑に変化した経営環境に、グローバルでフレキシブルに対応すると同時に「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」を取り入れ、SDGsやESGなどのサステナブル経営との融合性を高めて、当社の企業価値向上と持続可能な社会に貢献すべく、新たに『2030年 グローバル中長期経営計画』を策定いたしました。この計画の中で、具体的な連結財務目標として、2030年度までに売上高1,300億円以上、営業利益130億円以上、営業利益率10%以上、ROE（自己資本利益率）9%以上、ROIC（投下資本利益率）8%以上の達成を目指しております。

2030年中長期 財務目標		2030年中長期 非財務目標	
連結売上高	1,300億円以上	E: 脱炭素企業への挑戦	
連結営業利益	130億円以上	E: 産業廃棄物発生量の最小化	
連結営業利益率	10%以上	S: ダイバーシティ & インクルージョン	
連結自己資本利益率 (ROE)	9%以上	S: 働き方改革	
連結投下資本利益率 (ROIC)	8%以上	G: コーポレートガバナンス体制強化とコンプライアンスの徹底	
		G: サイバーセキュリティの強化	

ロ コーポレートガバナンスについて

当社は、社是および経営理念“己の立てる所を深く掘れ そこに必ず泉あらん”を基本に、社会の一員として法令、社会規範、企業ルールの遵守はもとより、企業本来の事業領域を通じて社会に貢献するに留まらず、時代とともに変化する経済・環境・社会問題等にバランスよくアプローチすることで、株主をはじめとするステークホルダーの要求、期待、信頼に応える高い倫理観のある誠実な企業活動を行い、これを役員・従業員一人ひとりが追求し実践することにより、持続的に企業の存在価値を高めていくことをコーポレートガバナンスの基本としております。

また、当社は、コーポレートガバナンスの強化によって常に効率的で健全な経営を行い、必要な施策を適宜実行することが、当社の企業価値ひいては株主共同の利益の継続的な増大を図るための重要な課題であると認識しております。そうした取り組みの一環として当社は、独立社外取締役の選任や、指名・報酬に関する諮問委員会を設置する等、コーポレートガバナンスの強化に取り組んでまいりました。加えて当社は、2017年6月27日開催の第68回定時株主総会にて監査等委員会設置会社に移行し、取締役会の監査・監督機能をより強化するとともに、取締役会が重要な業務執行の一部の決定を取締役に委任することを可能とすることで、業務執行と監督の分離を進め、経営に関する意思決定の迅速化に努めております。

当社は、前記の取り組み等を通じて株主の皆様をはじめとするステークホルダーとの信頼関係をより強固なものにしながら、中長期的視野に立って企業価値の安定的な向上を目指してまいります。

c 本プランの内容（会社の支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止するための取り組み）

当社は、2011年6月28日開催の第62回定時株主総会において、「当社株式等の大規模買付行為に関する対応策（買収防衛策）」（以下、「本プラン」といいます）を導入し、直近では2023年6月29日開催の第74回定時株主総会において株主の皆様にご承認いただき継続しております。

その概要は以下のとおりです。

イ 本プランの目的

当社株式に対する大規模買付行為または大規模買付行為に関する提案が行われた際に、当該大規模買付行為に応じるか否かを株主の皆様にご判断していただくことを第一の目的とし、当社の企業価値および株主共同の利益を毀損する大規模買付行為を抑止することを、第二の目的といたします。

ロ 本プランの対象となる当社株式の買付

本プランの対象となる当社株式の買付とは、特定株主グループの保有割合を20%以上とすることを目的とする当社株式等の買付行為、結果として特定株主グループの保有割合が20%以上となる当社株式等の買付行為、または既に20%以上を所有する特定株主グループによる当社株式等の買増行為（いずれについても買付、買増の方法の如何は問いませんが、あらかじめ当社取締役会が同意したものを除きます。このような買付行為を「大規模買付行為」といい、大規模買付行為を行うものを「大規模買付者」といいます）であります。

ハ 大規模買付ルールの内容

「大規模買付ルール」とは、大規模買付行為に先立ち、事前に大規模買付者が当社取締役会に対して必要かつ十分な情報を提供し、当社取締役会による一定の評価期間が経過し、当社取締役会の評価内容・意見を株主の皆様の開示した後に初めて大規模買付行為を開始することを認めるというものであります。

ニ 大規模買付行為がなされた場合の対応

（大規模買付者が大規模買付ルールを遵守した場合）

大規模買付者が大規模買付ルールを遵守した場合には、後記のような対抗措置は原則講じません。

（大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しない場合）

大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しなかった場合には、新株予約権の無償割当等、会社法その他の法令等により認められる対抗措置を講じ、大規模買付行為に対抗する場合があります。

ホ 対抗措置の合理性および公平性を担保するための制度および手続

（独立委員会の設置）

本プランを適正に運用し、当社取締役会による恣意的な判断がなされることを防止し、その判断の客観性および合理性を担保するために、独立委員会規定を定め、独立委員会を設置することといたします。

（対抗措置発動の手続）

対抗措置をとる場合には、当社取締役会は、独立委員会に対し対抗措置の具体的な内容およびその発動の是非について諮問するものとし、独立委員会は、大規模買付情報の内容等を十分勘案した上で対抗措置の内容およびその発動の是非について、当社取締役会に対して勧告を行うものとしたします。

（株主意思の確認手続）

当社取締役会は、大規模買付行為に対する対抗措置を発動するか否かの決定を行うにあたり、株主の皆様を尊重する趣旨から、当該大規模買付行為に対し対抗措置を発動するか否かについて当社株主の皆様判断いただくこともできるものとします。また、独立委員会から、株主意思の確認手続を行うべき旨の勧告を受けた場合には、取締役会は、当該勧告を最大限尊重するものとしたします。

ヘ 本プランの有効期限

本プランの有効期限は、第74回定時株主総会終結の日から3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結時までといたします。

ド 本プランに対する当社取締役会の判断およびその理由

イ 本プランが基本方針に沿うものであること

本プランに基づき、当社取締役会は、大規模買付者の大規模買付提案が当社の企業価値・株主共同の利益の確保・向上につながるかを検討することで、当社の支配者として相応しい者が否かの判別をし、そのプロセスおよび結果を投資家の皆様を開示いたします。従いまして、本プランは基本方針に十分沿うものと判断しております。

ロ 本プランが当社の株主の皆様の共同の利益を損なうものではないこと

大規模買付者への対抗措置として現時点で想定しております新株予約権の無償割当も、当該大規模買付者以外の株主の皆様利益を損なわないよう配慮して設計しており、本プランが株主の皆様共同の利益を損なうことはないものと判断しております。

ハ 本プランが当社取締役の地位の維持を目的とするものではないこと

本プランの効力発生は株主総会での承認を条件としており、さらに大規模買付者への対抗措置の発動プロセスにも取締役会の恣意性を排除するため、独立委員会のシステムを導入しております。

以上により、本プランが当社の取締役の地位の維持を目的としたものではないかとの疑義を払拭するためのシステムを組み込んだものとなっているものと判断しております。

取締役の定数

当社の監査等委員でない取締役は15名以内とし、監査等委員である取締役は5名以内とする旨を定款に定めております。



#### 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨および累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

#### 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

#### 剰余金の配当等の決定機関

当社は、剰余金の配当および自己株式の取得等、会社法第459条第1項各号に定める事項について、法令に別段の定めがある場合を除き、取締役会の決議によって定めることができる旨を定款に定めております。

#### 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、取締役会決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる旨を定款に定めております。

#### 取締役会、取締役・執行役員選任協議会の活動状況

##### a 取締役会の活動状況

当事業年度における活動状況は次のとおりであります。

氏名	取締役会への出席状況
西川 正洋	100% (17回/17回)
小川 秀樹	100% (17回/17回)
出口 幸三	100% (17回/17回)
岩本 忠夫	94% (16回/17回)
休石 佳司	100% (17回/17回)
手石 実	100% (17回/17回)
立臺 昭彦	100% (17回/17回)
佐々木 慶浩	100% (13回/13回)
吉野 毅	100% (17回/17回)
大迫 唯志	100% (17回/17回)
山本 順一	100% (17回/17回)
藏田 修	100% (17回/17回)

取締役会では、法令、定款または“取締役会規則”に定める重要事項を決定するほか、統括本部長および本部長を兼務する取締役からの業務執行報告を行っております。

当事業年度においては特に以下の点について重点的に審議を行いました。

##### 中長期経営計画について

複雑に変化した経営環境に、グローバルでフレキシブルに対応すると同時に「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」を取り入れ、SDGsやESGなどのサステナブル経営との融合性を高めて、当社の企業価値向上と持続可能な社会に貢献すべく、新たな中長期経営計画の策定について議論がなされました。その結果、具体的な連結財務目標、非財務目標および2030年に向けた主な取組み等を織り込んだ『2030年 グローバル中長期経営計画』を2024年5月10日に公表いたしました。

b 取締役・執行役員選任協議会の活動状況

当事業年度における活動状況は次の通りであります。

氏名	取締役・執行役員選任協議会への出席状況
西川 正洋	100% ( 5 回 / 5 回 )
小川 秀樹	100% ( 5 回 / 5 回 )
出口 幸三	100% ( 5 回 / 5 回 )
休石 佳司	100% ( 5 回 / 5 回 )
大迫 唯志	100% ( 5 回 / 5 回 )
山本 順一	100% ( 5 回 / 5 回 )
藏田 修	100% ( 5 回 / 5 回 )

取締役・執行役員選任協議会では、取締役および執行役員の選解任案の審議や、監査等委員でない取締役の基本報酬額および業績連動報酬額の決定、執行役員の報酬額の決定、監査等委員でない取締役の譲渡制限付株式報酬案の策定、監査等委員である取締役の報酬案および譲渡制限付株式報酬案を策定しております。

当事業年度においては、2024年4月以降の取締役会構成について重点的に審議を行いました。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性12名 女性0名 (役員のうち女性の比率0%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 会長	西川 正洋	1948年12月9日生	1972年4月 当社入社 1979年6月 当社取締役 1981年6月 当社管理本部副本部長 1985年3月 当社専務取締役 1986年3月 当社営業本部長 1986年10月 当社代表取締役社長 2001年12月 上海西川密封件有限公司 董事長 2004年6月 広州西川密封件有限公司 董事長 2005年5月 西川橡胶(上海)有限公司 董事長 2017年6月 当社代表取締役会長(現任)	2024年6月から1年	1,049
代表取締役 社長	小川 秀樹	1961年7月30日生	1985年4月 当社入社 2002年4月 上海西川密封件有限公司 總經理 2008年7月 当社執行役員 2010年10月 当社グローバル統括部担当 2011年3月 上海西川密封件有限公司 副董事長 広州西川密封件有限公司 副董事長 2013年6月 当社取締役 当社グローバル統括本部長兼プログラム統括部長 2014年6月 当社グローバル統括本部長 2015年3月 当社グローバル統括本部長兼グローバル事業推進部長 2015年4月 上海西川密封件有限公司 董事長(現任) 広州西川密封件有限公司 董事長(現任) 西川橡胶(上海)有限公司 董事長(現任) 2017年7月 当社グローバル統括本部長 2017年8月 PT. ニシカワ・カリヤ・インドネシア コミサリス(現任) 2018年6月 当社常務取締役 2018年12月 ニシカワ・シーリング・システムズ・メキシコ S.A. DE C.V. 代表取締役(現任) 2019年2月 湖北西川密封系統有限公司 董事長(現任) 2019年6月 当社営業本部管掌 2020年6月 当社専務取締役 2021年6月 当社生産本部管掌 2023年4月 当社代表取締役社長(現任)	2024年6月から1年	26
専務取締役 技術・生産統括本部長・ 設計開発本部長・ ものづくり開発本部長	出口 幸三	1967年4月27日生	1992年3月 当社入社 1995年6月 ニシカワ・スタンダード・カンパニー営業技術 エンジニア 2012年6月 当社営業技術部長 2016年6月 当社執行役員 当社技術本部副本部長 2017年3月 当社技術本部副本部長兼営業技術部長 商品開発 部担当 2017年6月 当社上席執行役員 2018年6月 当社取締役 2020年6月 当社技術本部長兼営業技術部長 2021年3月 当社技術本部長 2022年3月 西川デザインテクノ株式会社 代表取締役社長(現 任) 2022年6月 当社常務取締役 2023年4月 当社技術・生産統括本部長兼設計開発本部長兼も のづくり開発本部長(現任) 2024年6月 当社専務取締役(現任)	2024年6月から1年	15

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常務取締役 品質保証統括本部長	岩本 忠夫	1959年11 月17日生	1985年4月 当社入社 2003年3月 当社安佐工場長 2007年3月 当社三原工場長 2008年7月 当社執行役員 2011年3月 上海西川密封件有限公司 董事長 広州西川密封件有限公司 董事長 2013年6月 当社上席執行役員 2015年4月 当社生産本部副本部長 2015年5月 当社生産本部副本部長兼吉田工場長 2017年6月 当社取締役 当社生産本部副本部長兼吉田工場長 生産技術部 担当 2018年6月 当社生産本部長 2020年6月 当社常務取締役(現任) 2023年4月 当社品質保証統括本部長(現任)	2024年 6月から 1年	20
常務取締役 管理統括本部長・ IT本部長・ ハラスメント相談室長	休石 佳司	1965年8 月2日生	1989年4月 当社入社 2008年3月 ニシカワ・タチャブラート・ラバー・カンパ ニー Ltd. 管理担当副社長 2013年3月 当社総務部長 2013年6月 当社経営企画部長 2016年6月 当社執行役員 当社管理本部副本部長(コンプライアンス担当)兼 経営企画部長 2017年6月 当社取締役 当社管理本部長兼経営企画部長 2019年3月 当社管理本部長兼経営企画部長兼ハラスメント相 談室長 2020年3月 当社管理本部長兼情報システム部長兼ハラスメン ト相談室長 2021年5月 当社管理本部長兼ハラスメント相談室長 2021年10月 株式会社西和物流 代表取締役社長(現任) 2022年6月 当社常務取締役(現任) 2023年4月 当社管理統括本部長兼IT本部長兼ハラスメント相 談室長(現任)	2024年 6月から 1年	15
取締役 サステナビリティ推進室長	手石 実	1963年3 月21日生	1985年4月 当社入社 2004年6月 当社設計部次長 2010年3月 当社安佐工場長 2012年6月 当社執行役員 2013年6月 当社生産本部副本部長兼安佐工場長 白木・安佐 工場担当 2014年3月 当社生産本部副本部長兼三原工場長兼白木工場長 2014年12月 ニシカワ・クーバー LLC 副社長 2015年9月 ニシカワ・クーバー LLC 社長 2017年6月 当社上席執行役員 2018年6月 当社取締役(現任) 2021年10月 当社品質保証本部副本部長兼環境安全部長兼E S G推進室長 2023年4月 当社環境推進室長 2023年10月 当社サステナビリティ推進室長(現任)	2024年 6月から 1年	14

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役 生産本部長	立臺 昭彦	1967年1月23日生	1989年4月 当社入社 2013年3月 当社品質保証部長 2015年1月 当社白木工場長 2016年3月 ニシカワ・タチャブララート・クーパー Ltd. 副社長 2016年4月 ニシカワ・タチャブララート・クーパー Ltd. 社長 2017年6月 当社執行役員 2019年6月 当社上席執行役員 2020年6月 当社取締役(現任) 2022年4月 当社生産本部副本部長兼生産企画部長 2023年4月 当社生産本部長(現任)	2024年6月から1年	13
取締役 営業本部長・ 営業管理部長・ 関東営業部長	佐々木 慶浩	1963年8月23日生	1987年4月 当社入社 2015年4月 上海西川密封件有限公司 総経理 西川橡胶(上海)有限公司 総経理 2019年6月 当社執行役員 2020年6月 当社上席執行役員 2022年1月 当社営業本部副本部長 2023年4月 当社営業本部長(現任) 2023年6月 当社取締役(現任)	2024年6月から1年	5
取締役 (常勤監査等委員)	吉野 毅	1958年10月18日生	1983年4月 当社入社 2009年6月 当社総務部長 2013年3月 当社内部監査室付部長 2013年6月 当社常任監査役(常勤) 2017年6月 当社取締役(監査等委員)(常勤)(現任)	2023年6月から2年	13
取締役 (監査等委員)	大迫 唯志	1955年10月6日生	1982年4月 弁護士登録 2011年7月 弁護士法人広島総合法律会計事務所入所 2012年6月 当社監査役 2015年6月 当社取締役 2017年6月 当社取締役(監査等委員)(現任) 2019年1月 弁護士法人広島総合法律会計事務所 所長(現任) 2020年6月 株式会社広島銀行 社外監査役(現任)	2023年6月から2年	3
取締役 (監査等委員)	山本 順一	1948年4月23日生	1973年4月 東洋工業株式会社(現 マツダ株式会社)入社 2001年3月 同社技術研究所長 2005年6月 同社監査役(常勤) 2013年6月 同社監査役(常勤)退任 2015年6月 当社取締役 2017年6月 当社取締役(監査等委員)(現任)	2023年6月から2年	2
取締役 (監査等委員)	藏田 修	1959年8月27日生	1984年10月 朝日監査法人(現 有限責任 あずさ監査法人)入所 1988年4月 公認会計士登録 1993年4月 税理士登録 2006年6月 あずさ監査法人(現 有限責任 あずさ監査法人)退所 2010年10月 広島総合公認会計士共同事務所 代表(現任) 2011年1月 広島総合税理士法人 代表社員(現任) 2015年6月 当社監査役 2017年6月 当社取締役(監査等委員)(現任) 2022年3月 大和重工株式会社 社外取締役(現任)	2023年6月から2年	2
計					1,182

(注) 1 取締役 大迫唯志、山本順一、藏田修の各氏は、社外取締役であります。

2 当社は、取締役 大迫唯志、山本順一、藏田修の各氏を、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、届け出ております。

## 社外取締役の状況

当社の社外取締役は監査等委員である取締役3名であります。

社外取締役 大迫唯志氏は、弁護士として法律の高度な専門的知識を有しており、取締役会の監査・監督の強化に寄与することが期待できるため、同氏を社外取締役として選任しております。また、一般株主と利益相反のおそれのない独立役員として、同氏を選任し、株式会社東京証券取引所に独立役員届出書を提出しております。なお、同氏は当社の主要な借入先である株式会社広島銀行の社外監査役の職を務めておりますが、業務執行者にあたらなことから同氏の独立性は確保されていると判断しております。

社外取締役 山本順一氏は、自動車業界出身者として豊富な経験および幅広い知見を有しており、取締役会の監査・監督の強化に寄与することが期待できるため、同氏を社外取締役として選任しております。また、一般株主と利益相反のおそれのない独立役員として、同氏を選任し、株式会社東京証券取引所に独立役員届出書を提出しております。

社外取締役 藏田修氏は、公認会計士および税理士として高度な専門的知識を有しており、取締役会の監査・監督の強化に寄与することが期待できるため、同氏を社外取締役として選任しております。また、一般株主と利益相反のおそれのない独立役員として、同氏を選任し、株式会社東京証券取引所に独立役員届出書を提出しております。同氏および同氏の兼職先と当社の間には特別な利害関係はありません。

また当社は社外取締役を選任するための独立性に関する基準を定めており、以下のいずれの基準にも該当しない者は、独立性を有するものと判断しております。

当社の大株主（直近の事業年度末における議決権保有比率が総議決権の10%以上を保有する者）またはその業務執行者である者。

「業務執行者」とは、取締役、執行役および執行役員、ならびにそれらに準ずる者をいいます。（以下、同じ。）

当社の主要な取引先またはその業務執行者である者。

「主要な取引先」とは、年間の取引金額が、当社グループの連結売上高の5%以上の取引先をいいます。

当社または連結子会社の会計監査人またはその社員等として当社または連結子会社の監査業務を担当している者。

当社から役員報酬以外に、年間1,000万円を超える金銭その他の財産を得ている弁護士、司法書士、弁理士、公認会計士、税理士、コンサルタント等（ただし、当該財産を得ている者が法人、組合等の団体である場合は、当社から得ている財産が年間収入の2%を超える団体の業務執行者）である者。

当社の主要借入先（直近の事業年度にかかる事業報告において主要な借入先として氏名または名称が記載されている借入先）またはその業務執行者である者。

当社から年間1,000万円を超える寄付を受けている者（ただし、当該寄付を得ている者が法人、組合等の団体である場合は、当社から得ている財産が年間収入の2%を超える団体の業務執行者）である者。

過去3年間において、上記 から のいずれかに該当していた者。

上記 から のいずれかに掲げる者（ただし、重要な者に限る。）の二親等以内の親族。

当社または子会社の取締役、執行役員、理事、支配人、使用人、会計参与（法人である場合は、その職務を行うべき社員を含む。）の二親等以内の親族。

過去3年間において、当社または子会社の取締役、執行役員、理事、支配人、使用人、会計参与（法人である場合は、その職務を行うべき社員を含む。）のいずれかに該当していた者の二親等以内の親族。

xi から のほか、当社と利益相反関係が生じうるなど、独立性を有する社外役員としての職務を果たすことができない特段の事由を有している者。

社外取締役による監督または監査と監査等委員会監査、内部監査および会計監査との相互連携等

社外取締役はコーポレートガバナンスが有効に機能するよう、グループコンプライアンス委員会、リスク管理委員会および取締役・執行役員選任協議会のメンバーとなっているほか、適法性の確保や違法行為、不正の未然防止に注力するとともに、取締役会においても積極的な意見交換や助言を行うなど、経営監視機能の強化に努めております。また、監査等委員会の直轄部門である内部監査室に対して的確な指示を行っております。

## (3) 【監査の状況】

## 監査等委員会監査の状況

当社における監査等委員は監査等委員会が定めた監査の方針、計画等に従い、会社の内部統制部門と連携の上、重要な会議に出席し、取締役および使用人等からその職務の執行に関する事項の報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社および主要な事業所において業務および財産の状況を調査しています。また、子会社については、子会社の取締役および監査役等と意思疎通および情報の交換を図り、必要に応じて事業の報告を受けています。

当事業年度において当社は監査等委員会を17回開催しており、個々の監査等委員の出席状況については以下のとおりです。

氏名	開催回数	出席回数
吉野 毅	17回	17回
大迫 唯志	17回	17回
山本 順一	17回	17回
蔵田 修	17回	17回

監査等委員会においては、監査報告の作成、常勤監査等委員の選定および解職、監査の方針・業務および財産の状況の調査方法、その他監査等委員の職務の執行に関する事項の決定を主な検討事項としています。また、会計監査人の選解任または不再任に関する事項や、会計監査人の報酬等に対する同意等、監査等委員会の決議による事項について検討を行っています。

内部統制システムについては、取締役および使用人等からその構築および運用状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明しました。会計監査人に対しても、独立の立場を保持し、かつ連携を深めるために定期的な会合を実施し、適正な監査の検証をするとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

常勤の監査等委員は、監査等委員会が定めた監査の方針、計画に従い、取締役、その他の使用人等と意思疎通を図りました。また、直轄の内部監査室に対して的確な指示命令を実施し、分担して情報の収集および監査の環境の整備に努めました。そして、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役および使用人等からその職務の執行状況を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決算書類等を閲覧し、本社および主要な事業所において業務および財産の状況を調査しました。また、国内外子会社については、定期的な監査を実施し、必要に応じて国内外子会社から事業の報告を受けました。それらすべての内容については、他の監査等委員に対し、適時に情報共有をいたしました。

## 内部監査の状況

内部監査につきましては、有価証券報告書提出日現在、監査等委員会直轄の独立した専任組織の内部監査室が4名の職員にて当社グループを含めた事業執行状況について、法令等の遵守、業務効率、財務報告の信頼性および資産の保全の観点から監査を実施し、公正かつ客観的な立場で改善のための助言・勧告を行っております。その結果については、監査等委員および被監査部門に報告し、定期的に監査等委員会より取締役へ監査の報告を行い、内部監査の実効性を確保しております。

内部監査室は当社グループの監査結果や内部統制状況を監査等委員へ報告しております。また、日常においても、共通のデータベースを構築し、双方の情報閲覧を可能としており、緊密な連携の下に監査を実施しております。

また、監査等委員会、ならびに内部監査室は、会計監査人である監査法人と、監査実施内容に関する情報交換会を定期的実施しております。監査結果や監査法人が把握した内部統制の状況およびリスクの評価等に関する意見交換を行い、緊密な連携を維持しております。

## 会計監査の状況

### 監査法人の名称

有限責任 あずさ監査法人

### 継続監査期間

35年間

1988年度以前の調査が著しく困難なため、継続監査期間は上記年数を超えている可能性があります。

### 業務を執行した公認会計士

尾崎 更三

三好 亨

### 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士56名、その他50名であります。

### 監査法人の選定方針と理由

当社は、会計監査人の選定および評価に関しまして、当社の広範な業務内容に対応して、効率的な監査業務を実施することができる一定の規模と世界的なネットワークを持つこと、審査体制が整備されていること、監査日数、監査期間および具体的な監査実施要領ならびに監査費用が合理的かつ妥当であること、さらに監査実績などにより総合的に判断いたします。また、日本公認会計士協会の定める「独立性に関する指針」に基づき独立性を有することを確認するとともに、必要な専門性を有することについて検証し、確認いたします。

### 監査等委員会による監査法人の評価

監査等委員会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合に、株主総会に提出する会計監査人の解任または不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、監査等委員会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号のいずれかに該当すると認められる場合に、監査等委員全員の同意に基づき会計監査人を解任いたします。この場合、監査等委員会が選定した監査等委員は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。



監査報酬の内容等

監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	50		181	
連結子会社				
計	50		181	

(注) 1 前連結会計年度の金額には、前連結会計年度に係る追加報酬1百万円が含まれております。

2 当連結会計年度のご金額には、決算訂正に係る追加報酬131百万円が含まれております。

監査公認会計士等と同一のネットワーク(KPMGインターナショナル)に対する報酬(を除く)

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社		14		14
連結子会社		5		34
計		19		49

前連結会計年度における主な非監査業務の内容は、税務アドバイザリー業務であります。当連結会計年度における主な非監査業務の内容は、サイバーインシデントが発生した際の調査等の対応支援業務および税務アドバイザリー業務であります。

その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

当社の連結子会社であるニシカワ・クーパー LLCは、RSM US LLPに監査証明業務に基づく報酬として前連結会計年度17百万円、当連結会計年度20百万円を支払っております。

監査報酬の決定方針

当社の事業規模および事業特性の観点から合理的監査日数を勘案し、監査公認会計士等と協議の上決定することとしております。また、その内容について監査等委員会の同意を得た後に契約を結ぶこととしております。

監査等委員会が会計監査人の報酬に同意した理由

監査等委員会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、過年度の監査計画における監査項目別、階層別監査時間の実績および報酬額の推移ならびに会計監査人の職務遂行状況を確認し、当事業年度の監査計画および報酬額の妥当性を検討した結果、会計監査人の報酬等について会社法第399条第1項の同意を行っております。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額またはその算定方法の決定に関する方針に係る事項

当社の役員の報酬のうち、基本報酬および業績連動報酬は、2017年6月27日開催の第68回定時株主総会において決議された報酬額(監査等委員でない取締役：年額400百万円以内、監査等委員である取締役：年額60百万円以内)を上限とし、各取締役の報酬額については、監査等委員でない取締役4名および監査等委員である取締役3名(うち社外取締役3名)で構成される取締役・執行役員選任協議会で審議した上で、取締役・執行役員選任協議会の決定(監査等委員である取締役(社外取締役を除く)においては監査等委員会の決議)により設定しております。なお、業務執行から独立した立場にある監査等委員である取締役については、業績連動報酬等の変動報酬は相応しくないため、基本報酬のみの支給としております。

また、業績連動報酬の比率は、基本報酬および業績連動報酬の総額の概ね30%程度となるように設計しております。業績連動報酬に係る指標としては、当社の数値経営管理の全社数値目標、指標の相互の関連性・シンプルさ、他社動向等から判断し、「連結営業利益」「単体営業利益」の2指標を選択しておりますが、「品質」「安全」の目標達成度についても考慮しております。

当事業年度における業績連動報酬に係る目標は、目標値設定年度の前事業年度(2022年3月期)の連結営業利益および単体営業利益の実績、目標値設定年度(2023年3月期)の期首に設定した受注予測、原材料等の供給および為替レートに関する見通し等ならびに品質および安全の目標達成動向を加味して設定いたしました。なお、実績(2023年3月期)は連結営業利益768百万円、単体営業利益1,634百万円となりましたので、当該実績を勘案して2023年7月支給分より役員報酬額を改定しております。

さらに、2020年6月25日開催の第71回定時株主総会において、当社の企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを与えるとともに、株主との一層の価値共有を進める事等を目的として、上記の報酬枠とは別枠で譲渡制限付株式報酬額(監査等委員でない取締役：年額50百万円以内、監査等委員である取締役(社外取締役を除く)：年額5百万円以内)を上限とする非金銭報酬等を役員の報酬として設定しており、設定においては取締役・執行役員選任協議会の提案に基づく取締役会(監査等委員である取締役(社外取締役を除く)においては監査等委員会)の決議によっております。

加えて、監査等委員でない取締役の個人別の報酬等の内容について、取締役・執行役員選任協議会にて決定方針の整合性を含めた多角的な検討を行っており、取締役会はその報告内容をもって決定方針に沿っていることを確認しております。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額および対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額 (百万円)			対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	業績連動報酬	非金銭報酬等	
取締役 (監査等委員および社外取締役を除く)	262	196	52	13	8
監査等委員 (社外取締役を除く)	22	20	-	1	1
社外取締役	28	28	-	-	3

(注) 使用人兼務役員の業績連動報酬については使用人給与として支給されており、上記の総額には含まれておりません。

役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が100百万円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

総額(百万円)	対象となる役員の員数(名)	内容
44	3	報酬

## 役員の報酬等の額の決定に関する委員会等とその手続の概要

決定に関する委員会の名称

取締役・執行役員選任協議会

権限の内容および裁量の範囲

監査等委員でない取締役の基本報酬額および業績連動報酬額の決定、監査等委員でない取締役の譲渡制限付株式報酬案の策定および監査等委員である取締役の報酬案の策定

役員の報酬等の額の決定に関する委員会等の手続の概要および活動内容

監査等委員でない取締役の基本報酬額および業績連動報酬額は、取締役・執行役員選任協議会にて各報酬額を審議・決定の上、取締役会にて報告しております。

監査等委員である取締役の基本報酬額は、監査等委員でない取締役の報酬額に準じた報酬案を取締役・執行役員選任協議会が策定し、監査等委員会がその報酬案について協議・決定しております。

また、監査等委員でない取締役および監査等委員である取締役（社外取締役を除く）の譲渡制限付株式報酬額は、報酬案を取締役・執行役員選任協議会が策定し、取締役会（監査等委員である取締役（社外取締役を除く）においては監査等委員会）がその報酬案について協議・決定しております。

なお当事業年度における活動内容につきましては、2023年4月に開催された取締役・執行役員選任協議会にて監査等委員でない取締役の報酬額の決定と監査等委員である取締役の報酬案が策定され、2023年6月開催の監査等委員会にて監査等委員である取締役の報酬額を決定いたしました。決定した報酬額は、2023年6月開催の取締役会にて報告がなされております。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式の区分について、専ら株式の価値の変動または株式から得られる配当によって利益を受けることを目的として保有するものを純投資目的である投資株式、それ以外の目的で保有するものを純投資目的以外の目的である投資株式として区分しております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は、(1)自動車用部品の販売取引の維持・強化(2)一般産業資材の販売取引の維持・強化(3)金融取引等の安定化(4)住宅関連分野での連携(5)地域社会との関係維持を目的として、必要最低限度の株式を保有することとしております。また、当社“政策保有株式取扱方針書”に基づき、毎年取締役会において当該株式の保有目的や当社株式の保有の有無、当社資本コスト(WACC)、当社財務に与える影響等の基準から保有の合理性を検証し、合理性があると認められなかった銘柄については売却を実行することとしております。

当事業年度については、2023年12月の取締役会にて保有の適否に関する検証を実施し、その結果、当社が現在保有する株式は引き続き保有することとしております。

なお、当社は、2024年5月に公表した「2030年 グローバル中長期経営計画」において、資産の効率化とキャッシュフローの戦略として政策保有株式の見直しを掲げており、その具体的な施策として政策保有株式を縮減していく方針としております。

銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(百万円)
非上場株式	7	22
非上場株式以外の株式	30	24,179

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(百万円)	株式数の増加の理由
非上場株式			
非上場株式以外の株式	4	67	自動車用部品または一般産業資材における販売取引の維持・強化を目的として取引先持株会に加入し、株式の買付を定期的に行っております。

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(百万円)
非上場株式		
非上場株式以外の株式		

特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

a 特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要、 定量的な保有効果及び株式数が増加した理由	当社の株式の保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
ダイキョーニシカワ(株)	11,835,200	11,835,200	自動車用部品の販売取引の維持・強化のため保有しております。	無
	9,124	7,633		
トヨタ自動車(株)	1,002,250	1,002,250	自動車用部品の販売取引の維持・強化のため保有しております。	無
	3,800	1,884		
本田技研工業(株)	1,165,005	375,790	自動車用部品の販売取引の維持・強化のため保有しております。また、上記を目的として取引先持株会に加入し、株式の買付を定期的に行っております。(注)4	無
	2,203	1,319		
住友不動産(株)	324,000	324,000	住宅関連分野での連携のため保有しております。	有
	1,878	966		
(株)ハイレックスコーポレーション	1,034,700	1,034,700	自動車用部品の販売取引の維持・強化のため保有しております。	有
	1,748	1,255		
(株)ひろぎんホールディングス	892,000	892,000	金融取引等の安定化のため保有しております。	無 (注)2
	973	558		
(株)山口フィナンシャルグループ	415,730	415,730	金融取引等の安定化のため保有しております。	無 (注)2
	647	337		
(株)ヨンドシーホールディングス	316,000	316,000	地域社会との関係維持のため保有しております。	無 (注)2
	591	564		
大和ハウス工業(株)	100,000	100,000	一般産業資材の販売取引の維持・強化のため保有しております。	無
	452	311		
(株)いよぎんホールディングス	300,000	300,000	金融取引等の安定化のため保有しております。	無 (注)2
	351	225		
スズキ(株)	164,000	41,000	自動車用部品の販売取引の維持・強化のため保有しております。(注)5	有
	285	196		
丸紅(株)	100,000	100,000	自動車用部品の販売取引の維持・強化のため保有しております。	無
	262	179		
(株)自重堂	18,800	18,800	地域社会との関係維持のため保有しております。	有
	247	128		
いすゞ自動車(株)	97,104	92,532	自動車用部品の販売取引の維持・強化のため保有しております。また、上記を目的として取引先持株会に加入し、株式の買付を定期的に行っております。	無
	199	146		
MS&AD インシュアランスグループホールディングス(株)	70,200	23,400	金融取引等の安定化のため保有しております。(注)6	無 (注)2
	190	96		
(株)ちゅうぎんフィナンシャルグループ	120,000	120,000	金融取引等の安定化のため保有しております。	無 (注)2
	157	106		
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	47,382	23,691	金融取引等の安定化のため保有しております。(注)7	無 (注)2
	156	107		
(株)あじかん	125,500	125,500	地域社会との関係維持のため保有しております。	無
	148	104		
(株)みずほフィナンシャルグループ	44,608	44,608	金融取引等の安定化のため保有しております。	無 (注)2
	135	83		
日産車体(株)	88,462	86,068	自動車用部品の販売取引の維持・強化のため保有しております。また、上記を目的として取引先持株会に加入し、株式の買付を定期的に行っております。	無
	94	72		
ショーボンドホールディングス(株)	13,200	13,200	一般産業資材の販売取引の維持・強化のため保有しております。	無 (注)2
	84	72		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要 定量的な保有効果及び株式数が増加した理由	当社の株式の保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
(株)SUBARU	21,300	21,300	自動車用部品の販売取引の維持・強化のため保有しております。	無
	73	45		
(株)北川鉄工所	43,400	43,400	地域社会との関係維持のため保有しております。	有
	73	46		
(株)ジェイ・エム・エス	132,300	132,300	地域社会との関係維持のため保有しております。	有
	70	69		
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	43,800	43,800	金融取引等の安定化のため保有しております。	無 (注)2
	68	37		
(株)三井住友フィナンシャルグループ	7,500	7,500	金融取引等の安定化のため保有しております。	無 (注)2
	66	39		
マツダ(株)	27,400	27,400	自動車用部品の販売取引の維持・強化のため保有しております。	無
	48	33		
積水化学工業(株)	10,000	10,000	一般産業資材の販売取引の維持・強化のため保有しております。	無
	22	18		
積水ハウス(株)	5,582	5,013	一般産業資材の販売取引の維持・強化のため保有しております。また、上記を目的として取引先持株会に加入し、株式の買付を定期的に行っております。	無
	19	13		
三菱自動車工業(株)	2,000	2,000	自動車用部品の販売取引の維持・強化のため保有しております。	無
	1	1		

(注)1 各銘柄の定量的な保有効果については記載が困難であります。また、保有の合理性については、保有目的や当社の株式の保有の有無、当社資本コスト(WACC)、当社財務に与える影響等の基準により検証しております。

- 2 保有先企業は当社の株式を保有しておりませんが、同子会社が当社の株式を保有しております。
- 3 特定投資株式の積水化学工業(株)、積水ハウス(株)および三菱自動車工業(株)は、貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下であります。当社の全特定投資株式30銘柄について記載しております。
- 4 本田技研工業(株)は、2023年10月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。
- 5 スズキ(株)は、株式分割の効力発生日は2024年4月1日となりますが、2024年3月28日付で株式分割後の時価評価を受けているため、株式数と貸借対照表計上額は分割後の値を記載しております。
- 6 MS&ADインシュアランスグループホールディングス(株)は、株式分割の効力発生日は2024年4月1日となりますが、2024年3月28日付で株式分割後の時価評価を受けているため、株式数と貸借対照表計上額は分割後の値を記載しております。
- 7 三井住友トラスト・ホールディングス(株)は、2024年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。

b みなし保有株式  
該当事項はありません。

保有目的が純投資目的である投資株式  
該当事項はありません。

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したものの  
該当事項はありません。

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したものの  
該当事項はありません。

## 第5 【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2023年4月1日から2024年3月31日まで)および事業年度(2023年4月1日から2024年3月31日まで)の連結財務諸表および財務諸表について、有限責任あずさ監査法人により監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、財務諸表を適正に作成できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、監査法人等が主催する研修会へ参加しております。

## 1 【連結財務諸表等】

## (1) 【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	40,595	43,262
受取手形及び売掛金	1,2,4 15,953	1,2,4 15,077
電子記録債権	2,4 1,871	2,4 1,820
有価証券	2,100	2,100
製品	4,082	3,724
仕掛品	1,111	1,241
原材料及び貯蔵品	3,350	3,277
未収還付法人税等	123	46
その他	1,859	1,771
貸倒引当金	3	3
流動資産合計	71,043	72,317
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	28,527	29,687
減価償却累計額	20,222	21,527
建物及び構築物(純額)	8,304	8,160
機械装置及び運搬具	61,897	64,953
減価償却累計額	50,583	54,095
機械装置及び運搬具(純額)	11,314	10,858
工具、器具及び備品	24,556	26,229
減価償却累計額	22,041	23,987
工具、器具及び備品(純額)	2,514	2,242
土地	4,648	4,796
建設仮勘定	1,947	2,555
その他	1,953	2,230
減価償却累計額	804	551
その他(純額)	1,148	1,678
有形固定資産合計	29,876	30,291
無形固定資産		
借地権	316	316
その他	956	966
無形固定資産合計	1,273	1,283
投資その他の資産		
投資有価証券	3 17,946	3 26,041
長期貸付金	37	38
繰延税金資産	616	681
退職給付に係る資産	3,975	6,658
その他	386	420
貸倒引当金	1	1
投資その他の資産合計	22,962	33,839
固定資産合計	54,112	65,414
資産合計	125,156	137,732



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4 11,039	4 10,885
短期借入金	1 21,915	1 10,590
未払法人税等	450	1,645
賞与引当金	890	1,045
製品保証引当金	26	31
特別調査費用引当金	-	300
環境対策引当金	-	510
未払金	1,141	1,410
その他	4,456	5,298
流動負債合計	39,920	31,718
固定負債		
長期借入金	1 3,871	1 8,024
繰延税金負債	4,948	7,906
退職給付に係る負債	349	396
役員退職慰労引当金	16	22
長期未払金	254	254
資産除去債務	381	384
その他	852	1,514
固定負債合計	10,675	18,503
負債合計	50,595	50,221
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,364	3,364
資本剰余金	3,538	3,539
利益剰余金	53,135	57,404
自己株式	889	795
株主資本合計	59,149	63,512
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,490	12,715
為替換算調整勘定	4,995	6,628
退職給付に係る調整累計額	303	1,685
その他の包括利益累計額合計	12,789	21,029
非支配株主持分	2,622	2,968
純資産合計	74,560	87,510
負債純資産合計	125,156	137,732

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2023年 4月 1日 至 2024年 3月 31日)
売上高	1 98,167	1 117,904
売上原価	86,952	99,207
売上総利益	11,214	18,697
販売費及び一般管理費		
荷造運搬費	3,639	3,719
給料及び手当	2,978	3,193
製品保証引当金繰入額	27	35
賞与引当金繰入額	100	117
役員退職慰労引当金繰入額	2	3
退職給付費用	54	25
福利厚生費	934	1,100
租税公課	326	376
減価償却費	373	384
研究開発費	2 500	2 589
その他	2,380	2,595
販売費及び一般管理費合計	11,320	12,141
営業利益又は営業損失( )	105	6,555
営業外収益		
受取利息	159	248
受取配当金	641	683
持分法による投資利益	90	428
為替差益	557	1,425
その他	480	404
営業外収益合計	1,929	3,190
営業外費用		
支払利息	375	616
固定資産除却損	3 37	3 43
その他	78	166
営業外費用合計	491	825
経常利益	1,332	8,920

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2023年 4月 1日 至 2024年 3月 31日)
特別利益		
投資有価証券売却益	66	8
特別利益合計	66	8
特別損失		
固定資産除却損	4 1	4 5
投資有価証券売却損	0	-
特別調査費用引当金繰入額	-	5 300
環境対策引当金繰入額	-	6 510
特別損失合計	1	815
税金等調整前当期純利益	1,397	8,113
法人税、住民税及び事業税	1,186	2,514
法人税等調整額	130	71
法人税等合計	1,316	2,585
当期純利益	80	5,527
非支配株主に帰属する当期純利益又は非支配株主に 帰属する当期純損失( )	1,090	488
親会社株主に帰属する当期純利益	1,170	5,038

## 【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年 4月 1日 至 2024年 3月31日)
当期純利益	80	5,527
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	666	5,224
為替換算調整勘定	2,826	1,686
退職給付に係る調整額	317	1,382
持分法適用会社に対する持分相当額	23	164
その他の包括利益合計	1 3,786	1 8,458
包括利益	3,866	13,985
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	4,569	13,278
非支配株主に係る包括利益	702	706

## 【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	3,364	3,536	52,740	405	59,235
当期変動額					
剰余金の配当			776		776
親会社株主に帰属する当期純利益			1,170		1,170
自己株式の取得				504	504
自己株式の処分		1		21	23
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	1	394	483	86
当期末残高	3,364	3,538	53,135	889	59,149

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	6,824	2,581	14	9,391	3,836	72,463
当期変動額						
剰余金の配当						776
親会社株主に帰属する当期純利益						1,170
自己株式の取得						504
自己株式の処分						23
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	666	2,414	317	3,398	1,214	2,184
当期変動額合計	666	2,414	317	3,398	1,214	2,097
当期末残高	7,490	4,995	303	12,789	2,622	74,560

当連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	3,364	3,538	53,135	889	59,149
当期変動額					
剰余金の配当			770		770
親会社株主に帰属する当期純利益			5,038		5,038
自己株式の取得				0	0
自己株式の処分		0		94	95
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	0	4,268	93	4,363
当期末残高	3,364	3,539	57,404	795	63,512

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	7,490	4,995	303	12,789	2,622	74,560
当期変動額						
剰余金の配当						770
親会社株主に帰属する当期純利益						5,038
自己株式の取得						0
自己株式の処分						95
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	5,224	1,632	1,382	8,239	346	8,586
当期変動額合計	5,224	1,632	1,382	8,239	346	12,949
当期末残高	12,715	6,628	1,685	21,029	2,968	87,510

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年 4月 1日 至 2024年 3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	1,397	8,113
減価償却費	6,105	6,072
貸倒引当金の増減額（ は減少）	1	0
特別調査費用引当金の増減額（ は減少）	-	300
環境対策引当金の増減額（ は減少）	-	510
退職給付に係る資産の増減額（ は増加）	1,528	257
退職給付に係る負債の増減額（ は減少）	16	12
受取利息及び受取配当金	800	932
支払利息	375	616
為替差損益（ は益）	288	795
持分法による投資損益（ は益）	90	428
投資有価証券売却損益（ は益）	66	8
固定資産除却損	38	48
固定資産売却損益（ は益）	0	12
売上債権の増減額（ は増加）	1,335	1,636
棚卸資産の増減額（ は増加）	99	902
仕入債務の増減額（ は減少）	965	723
その他	997	710
小計	5,688	15,789
利息及び配当金の受取額	818	911
利息の支払額	324	538
法人税等の支払額	1,166	1,362
法人税等の還付額	226	85
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,243	14,884
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	6,886	6,401
定期預金の払戻による収入	7,152	5,675
有形固定資産の取得による支出	5,220	4,340
有形固定資産の売却による収入	256	187
無形固定資産の取得による支出	196	217
投資有価証券の取得による支出	69	78
投資有価証券の売却による収入	216	15
貸付けによる支出	40	14
貸付金の回収による収入	102	15
投資活動によるキャッシュ・フロー	4,685	5,159

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2023年 4月 1日 至 2024年 3月 31日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（は減少）	1,411	568
長期借入れによる収入	3,317	5,350
長期借入金の返済による支出	1,096	12,651
自己株式の取得による支出	504	0
配当金の支払額	775	770
非支配株主への配当金の支払額	512	360
リース債務の返済による支出	356	403
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,483	9,403
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,408	1,174
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	3,450	1,495
現金及び現金同等物の期首残高	33,644	37,095
現金及び現金同等物の期末残高	1 37,095	1 38,591



【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

すべての子会社を連結しております。

連結子会社の数

14社

なお、連結子会社名については「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しております。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 関連会社1社に対する投資について持分法を適用しております。持分法を適用した関連会社名については「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しております。

(2) 持分法を適用していない関連会社（豊不動産(株)他1社）の当期純損益および利益剰余金等の額のうち、持分に見合う額の合計額は、連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、ニシカワ・オブ・アメリカ、Inc.、ニシカワ・クーパー LLC、ニシカワ・タチャプララート・クーパー Ltd.、上海西川密封件有限公司、広州西川密封件有限公司、西川橡胶(上海)有限公司、湖北西川密封系統有限公司、ニシカワ・シーリング・システムズ・メキシコ S.A. DE C.V.、PT. ニシカワ・カリヤ・インドネシアの9社の決算日は12月31日であります。連結財務諸表の作成にあたっては、同決算日現在の財務諸表を使用しており、連結決算日までの期間に発生した重要な取引については連結上必要な調整を行っております。

その他の連結子会社の決算日はすべて連結決算日と一致しております。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準および評価方法

有価証券

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

棚卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

製品・原材料・仕掛品

主として総平均法

貯蔵品

主として最終仕入原価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

当社、国内連結子会社および一部の在外連結子会社は定率法を、その他の在外連結子会社は定額法を採用しております。

また、当社および国内連結子会社は取得価額が10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、3年間で均等償却する方法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 8～50年

機械装置及び運搬具 4～9年

無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、当社および国内連結子会社のソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)による定額法を採用しております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、在外連結子会社については、国際財務報告基準及び米国会計基準に基づき財務諸表を作成しており、それぞれIFRS第16号「リース」及び米国会計基準ASU第2016-02号「リース」を適用しており、リースの借手については、原則としてすべてのリースを貸借対照表に資産及び負債として計上しております。資産計上された使用権資産の減価償却方法は定額法によっております。また、(リース取引関係)において、IFRS第16号「リース」及び米国会計基準ASU第2016-02号「リース」に基づくリース取引はファイナンス・リース取引の分類としております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権に係る過去の貸倒実績率に基づく回収不能見込額および貸倒懸念債権等の特定の債権に係る個別の回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員賞与の支払に備えるため、翌連結会計年度中に支給することが見込まれる賞与総額のうち、当連結会計年度帰属分を引当計上しております。

製品保証引当金

当社は、製品の品質保証期間内でのクレームによる保証支出に備えるため、過去の実績と当連結会計年度の発生状況を考慮した支出見込額を引当計上しております。

役員退職慰労引当金

役員退職慰労金の支払に備えるため、国内連結子会社の役員について内規に基づく期末要支給額を計上しております。

特別調査費用引当金

当社グループにおける棚卸資産の計算等に関する調査費用について、今後発生が見込まれる額を計上しております。

環境対策引当金

当社工場における土壌の入替等、環境対策費用の支出に備えるため、今後発生が見込まれる額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(主として10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌連結会計年度から費用処理することとしております。

小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、直近の年金財政計算上の数理債務をもって退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

当社及び連結子会社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点(収益を認識する通常の時点)は以下のとおりであります。

当社及び連結子会社は、以下の5ステップアプローチに基づき、収益を認識しております。

ステップ1:顧客との契約を識別する。

ステップ2:契約における履行義務を識別する。

ステップ3:取引価格を算定する。

ステップ4:取引価格を契約における別個の履行義務へ配分する。

ステップ5:履行義務を充足した時点で(又は充足するに依りて)収益を認識する。

当社および連結子会社は、自動車メーカー、住宅メーカー等を主な得意先としており、自動車用部品(ゴム・樹脂シール製品)および内外装製品等の製造販売を行っております。

当社および連結子会社では、主に完成した製品を顧客に供給することを履行義務としており、原則として製品の納入時点において支配が顧客に移転して履行義務が充足されると判断していることから、当該時点において収益を認識しておりますが、国内の販売においては、出荷時から当該製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の場合には、出荷時に収益を認識しております。

取引価格の算定については、顧客との契約において約束された対価から、値引き額等を控除した金額で算定しております。

これらの履行義務に対する対価は、履行義務充足後、別途定める支払条件により概ね1年以内に受領しており、重大な金融要素は含んでおりません。

なお、買戻し契約に該当する有償支給取引については、支給先から受け取る対価を収益として認識しておりません。有償受給取引については、加工代相当額のみを純額で収益を認識しております。また、顧客への製品の販売における当社の役割が代理人に該当する取引については、当該対価の総額から第三者に対する支払額を差し引いた純額で認識しております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金および取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期的な投資であります。

## (重要な会計上の見積り)

## 1 固定資産の減損損失の認識の要否

## (1)ニシカワ・シーリング・システムズ・メキシコ S.A. DE C.V.

当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

連結子会社ニシカワ・シーリング・システムズ・メキシコ S.A. DE C.V. (以下、「NSM」という。)の製造及び販売の実績は半導体不足の影響により下落した後、回復傾向にあります。しかし、原材料価格及びエネルギー価格の高騰による影響が大きく、NSMの営業損益は継続してマイナスとなっており、減損の兆候が認められたため、減損損失の計上の要否について検討を行いました。検討の結果、回収可能価額が固定資産の帳簿価額を上回っていたため、減損損失は認識しておりません。

(単位：百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
NSMの固定資産の帳簿価額	2,290	3,169

## 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

NSMは国際財務報告基準を適用しており、資金生成単位に減損の兆候があると判断される場合には、減損テストを実施しております。

減損テストの結果、回収可能価額が帳簿価額を下回る場合、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、帳簿価額の減少額を減損損失として認識します。なお、回収可能価額は使用価値と処分コスト控除後の公正価値のいずれか高い方として算定しております。

当社は、減損テストに当たり、外部の専門家を利用して見積った処分コスト控除後の公正価値を、回収可能価額として採用しております。この公正価値の見積りについては、評価手法の選択についての高度な専門知識が必要となり、回収可能価額的前提である公正価値の見積りに重要な影響を与えております。

そのため、回収可能価額である処分コスト控除後の公正価値が下落した場合には、翌連結会計年度においてNSMの固定資産について減損損失を計上する可能性があります。

## (2)ニシカワ・クーパー LLC

当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

米国経済の回復は北米の労働市場における需給バランスを変化させ、急激な物価上昇を招いております。連結子会社ニシカワ・クーパー LLC (以下、「NISCO」という。)においても、労務費、原材料価格及びエネルギー価格の高騰が割引前将来キャッシュ・フローに影響を及ぼしており、減損の兆候があると判断し、減損損失の計上の要否について検討を行いました。検討の結果、NISCOについて、割引前将来キャッシュ・フローの総額が固定資産の帳簿価額を超えると判断されたため、減損損失は計上しておりません。

(単位：百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
NISCOの固定資産の帳簿価額	5,271	5,116

## 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

NISCOは米国会計基準を適用しており、資産グループに減損の兆候が認められる場合には、回収可能性テストが実施されます。当該テストにおいて、資産グループの使用及び最終的な処分から見込まれる割引前将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価額を下回る場合に、回収可能性がないと判定されます。資産グループの帳簿価額に回収可能性がない場合に、公正価値との差額が減損損失として認識されます。

また、この割引前将来キャッシュ・フローの見積りは、NISCOの中期事業計画を基礎としており、今後の市場動向の変動による販売数量の増減、原材料価格高騰に対応した販売単価への転嫁状況、材料費や労務費等の原価低減の程度を主要な仮定として織り込んでおります。販売数量の予測、販売単価の予測、原価低減計画は不確実性を伴っており、将来キャッシュ・フローの見積りに重要な影響を及ぼす可能性があります。

## (表示方法の変更)

## (連結損益計算書関係)

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「営業外収益」の「助成金収入」は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」に表示していた「助成金収入」164百万円および「その他」316百万円は、「その他」480百万円として組み替えております。

## (連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「助成金収入」および「助成金の受取額」は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」に表示していた「助成金収入」164百万円、「その他」970百万円および「助成金の受取額」190百万円は、「その他」997百万円として組み替えております。

## (追加情報)

## (ニシカワ・シーリング・システムズ・メキシコ S.A. DE C.V.における棚卸資産の過大計上に関する修正処理)

当社は2024年5月15日に棚卸資産の会計処理に当たりNSMが誤った単価を適用した可能性を認識したため、公認会計士を含む外部の専門家を利用して社内調査を開始いたしました。社内調査の結果、2021年10月にNSMの経理担当者が交代して以降、下記の誤った会計処理が行われ、棚卸資産が過大に計上されていたことが発覚いたしました。

棚卸資産に適用すべき単価の選択を誤っていた

有償支給等により仕入れた棚卸資産の一部が実地棚卸の対象から漏れたことで、これらの棚卸資産の数量を誤っていた

棚卸資産に関する決算整理仕訳の一部について、金額を算定した計算表における計算式及び参照数値を誤ったことで、不正確な仕訳が起票されていた

このため、類似案件の検討を含む社内調査の結果に基づき、当社は2023年3月期の連結財務諸表、並びに2023年3月期及び2024年3月期の各四半期連結財務諸表を修正し、これらの連結財務諸表を含む有価証券報告書及び四半期報告書の訂正報告書を2024年8月26日に提出いたしました。これらの修正処理により、2023年3月期の連結貸借対照表に計上された棚卸資産が修正前と比較して874百万円減少しております。また、社内調査は2024年3月期も対象として実施されました。

## (連結貸借対照表関係)

1 担保に供している資産及び担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
売掛金	2,767百万円	2,876百万円
短期借入金	2,612百万円	2,103百万円
長期借入金	3,607 "	3,383 "
計	6,220百万円	5,487百万円

2 受取手形及び売掛金、電子記録債権のうち、顧客との契約から生じた債権の金額は、連結財務諸表「注記事項(収益認識関係) 3 (1)顧客との契約から生じた債権の残高」に記載しております。

3 関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
投資有価証券(株式)	1,199百万円	1,766百万円

4 期末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
受取手形	- 百万円	15百万円
電子記録債権	- "	14 "
支払手形	- "	81 "

(連結損益計算書関係)

1 顧客との契約から生じる収益

売上高については、顧客との契約から生じる収益及びそれ以外の収益を区分して記載しておりません。顧客との契約から生じる収益の金額は、連結財務諸表「注記事項（収益認識関係） 1 顧客との契約から生じる収益を分解した情報」に記載しております。

2 一般管理費に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
研究開発費	500百万円	589百万円

3 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
機械装置及び運搬具	14百万円	21百万円
工具、器具及び備品	1 "	5 "
その他	21 "	16 "
計	37百万円	43百万円

4 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
建物及び構築物	1百万円	5百万円
計	1百万円	5百万円

5 特別調査費用引当金繰入額

当連結会計年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

当社グループにおける棚卸資産の計算等に関する調査費用について、今後発生が見込まれる額を特別調査費用引当金に対する繰入額として計上しております。

6 環境対策引当金繰入額

当連結会計年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

当工場における土壌の入替等、環境対策費用の支出に備えるため、今後発生が見込まれる額を環境対策引当金に対する繰入額として計上しております。

(連結包括利益計算書関係)

## 1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2023年 4月 1日 至 2024年 3月 31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	1,028百万円	7,464百万円
組替調整額	66 "	8 "
税効果調整前	962百万円	7,456百万円
税効果額	295 "	2,231 "
その他有価証券 評価差額金	666百万円	5,224百万円
為替換算調整勘定		
当期発生額	2,826百万円	1,686百万円
組替調整額	- "	- "
税効果調整前	2,826百万円	1,686百万円
税効果額	- "	- "
為替換算調整勘定	2,826百万円	1,686百万円
退職給付に係る調整額		
当期発生額	260百万円	1,858百万円
組替調整額	193 "	129 "
税効果調整前	454百万円	1,988百万円
税効果額	137 "	606 "
退職給付に係る調整額	317百万円	1,382百万円
持分法適用会社に対する 持分相当額		
当期発生額	23百万円	164百万円
その他の包括利益合計	3,786百万円	8,458百万円



(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

## 1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	19,995,387	-	-	19,995,387

## 2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	399,081	403,386	19,000	783,467

(変動事由の概要)

自己株式立会外買付取引による自己株式の取得	402,200株
単元未満株式買取による増加	61株
譲渡制限付株式報酬対象者が退職したことによる無償取得	1,125株
譲渡制限付株式付与による減少	19,000株

## 3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

## 4 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2022年6月28日 定時株主総会	普通株式	391	20	2022年3月31日	2022年6月29日
2022年10月13日 取締役会	普通株式	384	20	2022年9月30日	2022年12月2日

## (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2023年6月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	384	20	2023年3月31日	2023年6月30日

当連結会計年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

## 1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	19,995,387	-	-	19,995,387

## 2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	783,467	160	83,000	700,627

## (変動事由の概要)

単元未満株式買取による増加	160株
社員持株会を通じた従業員への株式付与による減少	71,000株
譲渡制限付株式付与による減少	12,000株

## 3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

## 4 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2023年6月29日 定時株主総会	普通株式	384	20	2023年3月31日	2023年6月30日
2023年10月13日 取締役会	普通株式	385	20	2023年9月30日	2023年12月1日

## (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2024年6月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	463	24	2024年3月31日	2024年6月27日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
現金及び預金	40,595百万円	43,262百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	5,600 "	6,771 "
3か月以内の短期投資である有価証券	2,100 "	2,100 "
現金及び現金同等物	37,095百万円	38,591百万円

2 重要な非資金取引の内容

前連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

該当事項はありません。

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産 主として、工場関係における土地、建物および建物附属設備であります。

リース資産の減価償却の方法

「(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項) 4 会計方針に関する事項(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2 オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
1年内	13	20
1年超	16	24
合計	29	45

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、設備投資計画に照らして、必要な資金（主に銀行借入）を調達しております。一時的な余資は主に流動性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。

(2) 金融商品の内容およびそのリスク

営業債権である受取手形、売掛金および電子記録債権は、顧客の信用リスクに晒されております。また、海外で事業を行うにあたり生じる外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されております。

有価証券および投資有価証券は、主に合同運用指定金銭信託、業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが4ヶ月以内の支払期日であります。一部外貨建てのものについては、為替の変動リスクに晒されております。

借入金は、主に設備投資に係る資金調達を目的としたものであり、償還日は最長で決算日後5年2ヵ月であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、営業債権および長期貸付金について、担当部門が取引相手ごとに期日および残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、同様の管理を行っております。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券については、定期的に時価等を把握しております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社および一部の連結子会社は、各部門からの報告に基づき担当部門が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性のリスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

## 2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度(2023年3月31日)

(単位：百万円)

	連結貸借対照表 計上額(*2)	時 価(*2)	差 額
(1) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券(*3)	18,825	18,825	-
資産 計	18,825	18,825	-
(1) 短期借入金	(21,915)	(21,905)	9
(2) 長期借入金	(3,871)	(3,844)	27
負債 計	(25,786)	(25,750)	36

(\*1)「現金及び預金」「受取手形及び売掛金」「電子記録債権」「支払手形及び買掛金」については、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(\*2)負債に計上されているものについては、( )で表示しております。

(\*3)市場価格のない株式等は、「(1)有価証券及び投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	前連結会計年度(百万円)
非上場株式	1,221

当連結会計年度(2024年3月31日)

(単位：百万円)

	連結貸借対照表 計上額(*2)	時 価(*2)	差 額
(1) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券(*3)	26,353	26,353	-
資産 計	26,353	26,353	-
(1) 短期借入金	(10,590)	(10,586)	4
(2) 長期借入金	(8,024)	(8,023)	0
負債 計	(18,614)	(18,610)	4

(\*1)「現金及び預金」「受取手形及び売掛金」「電子記録債権」「支払手形及び買掛金」については、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(\*2)負債に計上されているものについては、( )で表示しております。

(\*3)市場価格のない株式等は、「(1)有価証券及び投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	当連結会計年度(百万円)
非上場株式	1,788

## (注) 1 金銭債権および満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2023年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	40,595	-	-	-
受取手形及び売掛金	15,953	-	-	-
電子記録債権	1,871	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券	2,100	-	10	-
合計	60,520	-	10	-

当連結会計年度(2024年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	43,262	-	-	-
受取手形及び売掛金	15,077	-	-	-
電子記録債権	1,820	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券	2,100	10	10	-
合計	62,260	10	10	-

## (注) 2 長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(2023年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	9,347	-	-	-	-	-
長期借入金	12,567	1,369	857	608	608	428
リース債務	233	105	52	38	36	286
合計	22,149	1,474	909	647	645	714

当連結会計年度(2024年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	9,126	-	-	-	-	-
長期借入金	1,464	915	6,000	650	384	73
リース債務	449	297	234	184	121	301
合計	11,040	1,213	6,234	834	505	375

3 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1)時価で連結貸借対照表に計上している金融商品  
前連結会計年度（2023年3月31日）

区分	時価（百万円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券及び投資有価証券 その他有価証券				
株式	16,715	-	-	16,715
資産 計	16,715	-	-	16,715

当連結会計年度（2024年3月31日）

区分	時価（百万円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券及び投資有価証券 その他有価証券				
株式	24,233	-	-	24,233
資産 計	24,233	-	-	24,233

(2)時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品  
前連結会計年度(2023年3月31日)

区分	時価(百万円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券及び投資有価証券 その他有価証券				
その他	-	2,110	-	2,110
資産計	-	2,110	-	2,110
短期借入金	-	21,905	-	21,905
長期借入金	-	3,844	-	3,844
負債計	-	25,750	-	25,750

当連結会計年度(2024年3月31日)

区分	時価(百万円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券及び投資有価証券 その他有価証券				
その他	-	2,120	-	2,120
資産計	-	2,120	-	2,120
短期借入金	-	10,586	-	10,586
長期借入金	-	8,023	-	8,023
負債計	-	18,610	-	18,610

(注)時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

有価証券及び投資有価証券

投資有価証券は主として、上場株式等であり、上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

一方で、当社が保有している有価証券(その他有価証券の「その他」)は、主として合同運用指定金銭信託であり、現金及び預金と同様の性格を有するものと判断しており、取得原価にて計上しております。

これらの運用商品は市場での取引頻度が低く、活発な市場における相場価格とは認められないため、その時価をレベル2の時価に分類しております。

短期借入金及び長期借入金

これらの時価は、元利金の合計額と、当該債務の残存期間及び信用リスクを加味した利率を基に、割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。



(有価証券関係)

前連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

## 1 その他有価証券(2023年3月31日現在)

種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
(連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの)			
(1) 株式	15,640	5,314	10,326
(2) 債券	-	-	-
(3) その他	-	-	-
小計	15,640	5,314	10,326
(連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの)			
(1) 株式	1,074	1,255	180
(2) 債券	-	-	-
(3) その他	2,110	2,110	-
小計	3,184	3,365	180
合計	18,825	8,680	10,145

(注) 表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。減損処理にあたっては、期末において時価が取得原価に比べ30%～50%下落した場合には、個別銘柄ごとに株価水準等を把握し総合的に回復可能性を検討して、必要と認められた額について減損処理を行っております。

## 2 前連結会計年度中に売却したその他有価証券(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

種類	売却額(百万円)	売却益の合計(百万円)	売却損の合計(百万円)
(1) 株式	6	3	-
(2) 債券	-	-	-
(3) その他	210	63	-
合計	216	66	-

当連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

## 1 その他有価証券(2024年3月31日現在)

種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
(連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの)			
(1) 株式	24,143	6,504	17,639
(2) 債券	-	-	-
(3) その他	-	-	-
小計	24,143	6,504	17,639
(連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの)			
(1) 株式	89	115	26
(2) 債券	-	-	-
(3) その他	2,120	2,120	-
小計	2,209	2,235	26
合計	26,353	8,740	17,612

(注) 表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。減損処理にあたっては、期末において時価が取得原価に比べ30%～50%下落した場合には、個別銘柄ごとに株価水準等を把握し総合的に回復可能性を検討して、必要と認められた額について減損処理を行っております。

## 2 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

種類	売却額(百万円)	売却益の合計(百万円)	売却損の合計(百万円)
(1) 株式	15	8	-
(2) 債券	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	15	8	-

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社および連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度を採用しております。

確定給付企業年金制度（すべて積立型制度であります。）では、給与と勤務期間に基づいた一時金又は年金を支給しております。ただし、一部の連結子会社は、確定給付企業年金制度にキャッシュ・バランス・プランを導入しております。当該制度では、加入者ごとに積立額及び年金額の前原資に相当する仮想個人口座を設けております。仮想個人口座には、主として市場金利の動向に基づく利息クレジットと、給与水準等に基づく拠出クレジットを累積しております。

退職一時金制度では、退職給付として、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給します。

なお、一部の連結子会社が有する確定給付企業年金制度及び退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く。）

(百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
退職給付債務の期首残高	9,368	8,780
勤務費用	468	410
利息費用	52	68
数理計算上の差異の発生額	552	266
退職給付の支払額	556	553
退職給付債務の期末残高	8,780	8,439

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く。）

(百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
年金資産の期首残高	11,801	12,742
期待運用収益	286	309
数理計算上の差異の発生額	296	1,592
事業主からの拠出額	1,508	997
退職給付の支払額	556	553
年金資産の期末残高	12,742	15,088

(3) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

(百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	286	335
退職給付費用	106	117
制度への拠出額	56	65
退職給付に係る負債の期末残高	335	387

(4) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	9,588	9,256
年金資産	13,497	15,876
	3,909	6,619
非積立型制度の退職給付債務	282	357
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	3,626	6,262
退職給付に係る負債	349	396
退職給付に係る資産	3,975	6,658
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	3,626	6,262

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

(5) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
勤務費用	468	410
利息費用	52	68
期待運用収益	286	309
数理計算上の差異の費用処理額	193	129
簡便法で計算した退職給付費用	106	117
その他	39	34
確定給付制度に係る退職給付費用	494	381

(6) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
数理計算上の差異	454	1,988
合計	454	1,988

(7) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
未認識数理計算上の差異	436	2,424
合計	436	2,424

## (8) 年金資産に関する事項

## 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
債券	34%	35%
株式	34%	40%
一般勘定	19%	16%
オルタナティブ(注)	3%	5%
その他	7%	2%
合計	100%	100%

(注) オルタナティブは、主にヘッジファンドへの投資であります。

## 長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

## (9) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎(加重平均で表しております。)

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
割引率	0.7%	1.1%
長期期待運用収益率	2.4%	2.4%
予想昇給率	1.8%	1.8%

(税効果会計関係)

## 1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
<b>繰延税金資産</b>		
退職給付に係る負債	22百万円	13百万円
賞与引当金	281 "	329 "
有価証券評価損	72 "	72 "
役員退職慰労引当金	5 "	7 "
長期未払金(役員退職慰労金)	89 "	77 "
減価償却費	321 "	334 "
資産除去債務	118 "	119 "
未払事業税	40 "	97 "
税務上の繰越欠損金(注3)	2,472 "	2,227 "
棚卸資産	124 "	101 "
特別調査費用引当金	- "	91 "
環境対策引当金	- "	155 "
その他	327 "	788 "
<b>繰延税金資産小計</b>	<b>3,876百万円</b>	<b>4,415百万円</b>
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注3)	1,636 "	1,769 "
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	295 "	317 "
<b>評価性引当額小計(注1)</b>	<b>1,932 "</b>	<b>2,087 "</b>
<b>繰延税金資産合計</b>	<b>1,943百万円</b>	<b>2,328百万円</b>
<b>繰延税金負債</b>		
その他有価証券評価差額金	2,692百万円	4,923百万円
連結子会社等の留保利益金	2,254 "	2,486 "
固定資産圧縮積立金	104 "	101 "
退職給付に係る資産	1,211 "	2,029 "
その他	13 "	12 "
<b>繰延税金負債合計</b>	<b>6,275百万円</b>	<b>9,553百万円</b>
<b>繰延税金資産(負債)の純額(注2)</b>	<b>4,331百万円</b>	<b>7,224百万円</b>

- (注) 1 評価性引当額が155百万円増加しております。この増加の主な要因は、連結子会社において税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額を133百万円計上したことによるものであります。
- 2 前連結会計年度および当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
固定資産 - 繰延税金資産	616百万円	681百万円
固定負債 - 繰延税金負債	4,948 "	7,906 "

3 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

前連結会計年度(2023年3月31日)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(1)	152	283	101	14	68	1,850	2,472百万円
評価性引当額	152	283	101	14	68	1,015	1,636 "
繰延税金資産	-	-	-	-	-	835	835 "

(1) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(2) 税務上の繰越欠損金2,472百万円(法定実効税率を乗じた額)について、繰延税金資産835百万円を計上しております。当該繰延税金資産835百万円は、連結子会社における税務上の繰越欠損金のうち回収可能と判断した金額について認識したものであります。

当連結会計年度(2024年3月31日)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(3)	366	139	19	88	271	1,341	2,227百万円
評価性引当額	366	139	19	88	271	883	1,769 "
繰延税金資産	-	-	-	-	-	458	458 "

(3) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(4) 税務上の繰越欠損金2,227百万円(法定実効税率を乗じた額)について、繰延税金資産458百万円を計上しております。当該繰延税金資産458百万円は、連結子会社における税務上の繰越欠損金のうち回収可能と判断した金額について認識したものであります。

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
法定実効税率	30.5 %	30.5 %
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.2 "	0.1 "
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	5.1 "	0.9 "
住民税均等割等	1.7 "	0.3 "
関係会社持分法利益	2.0 "	1.6 "
連結子会社の税率差異	7.8 "	3.4 "
評価性引当額の増減	21.0 "	1.9 "
連結子会社等の留保利益金	21.3 "	2.4 "
決算訂正による影響額	18.8 "	5.0 "
その他	0.0 "	2.5 "
税効果会計適用後の法人税等の負担率	94.2 "	31.9 "

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

石綿障害予防規則に基づくアスベストの除去義務に係る費用および建物の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務に係る費用であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を建物の耐用年数と見積り、割引率は無リスクの利付国債の税引前の利回りを使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
期首残高	377百万円	381百万円
時の経過による調整額	3 "	3 "
期末残高	381百万円	384百万円

(収益認識関係)

1 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社グループは、自動車用部品ならびに建築・土木・化粧品等の一般産業資材を製造販売しております。当社グループの報告セグメントを、取り扱う製品・サービス別に分解した場合の内訳は、以下のとおりであります。

前連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	日本	北米	東アジア	東南アジア	
自動車用部品	40,808	30,211	13,132	10,010	94,162
一般産業資材	4,004	-	-	-	4,004
合計	44,812	30,211	13,132	10,010	98,167

(注) グループ会社間の内部取引控除後の金額を表示しております。

当連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	日本	北米	東アジア	東南アジア	
自動車用部品	46,960	42,894	11,618	12,395	113,868
一般産業資材	4,036	-	-	-	4,036
合計	50,996	42,894	11,618	12,395	117,904

(注) グループ会社間の内部取引控除後の金額を表示しております。



## 2 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、「（連結財務諸表の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等）4．会計方針に関する事項（5）重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

## 3 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

前連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

## (1)顧客との契約から生じた債権の残高

（単位：百万円）

	前連結会計年度	
	期首残高	期末残高
顧客との契約から生じた債権	15,600	17,824
受取手形	448	279
売掛金	13,441	15,673
電子記録債権	1,710	1,871

## (2)契約資産及び契約負債の残高

当社グループの契約資産および契約負債については、残高に重要性が乏しく、重大な変動も発生していないため、記載を省略しております。また、過去の期間に充足（又は部分的に充足）した履行義務から、当連結会計年度に認識した収益に重要性はありません。

## (3)残存履行義務に配分した取引価格

当社グループでは、残存履行義務に配分した取引価格については、当初に予想される契約期間が1年を超える重要な契約がないため、実務上の便法を適用し、記載を省略しております。また、顧客との契約から生じる対価の中に、取引価格に含まれていない重要な金額はありません。

当連結会計年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

## (1)顧客との契約から生じた債権の残高

（単位：百万円）

	当連結会計年度	
	期首残高	期末残高
顧客との契約から生じた債権	17,824	16,897
受取手形	279	156
売掛金	15,673	14,921
電子記録債権	1,871	1,820

## (2)契約資産及び契約負債の残高

当社グループの契約資産および契約負債については、残高に重要性が乏しく、重大な変動も発生していないため、記載を省略しております。また、過去の期間に充足（又は部分的に充足）した履行義務から、当連結会計年度に認識した収益に重要性はありません。

## (3)残存履行義務に配分した取引価格

当社グループでは、残存履行義務に配分した取引価格については、当初に予想される契約期間が1年を超える重要な契約がないため、実務上の便法を適用し、記載を省略しております。また、顧客との契約から生じる対価の中に、取引価格に含まれていない重要な金額はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループの各拠点においては、主に自動車用部品を生産・販売しており、その地域性を重視した戦略を立案し、事業活動を展開しているため、報告セグメントを地域別の「日本」、「北米」、「東アジア」および「東南アジア」としております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。なお、セグメント間の内部売上高及び振替高は、市場実勢価格に基づいておりません。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位：百万円)

	日本	北米	東アジア	東南 アジア	計	調整額 (注)1	連結財務諸表 計上額(注)2
売上高							
外部顧客への売上高	44,812	30,211	13,132	10,010	98,167	-	98,167
セグメント間の内部売上高 又は振替高	4,736	21	927	512	6,198	6,198	-
計	49,548	30,233	14,060	10,523	104,365	6,198	98,167
セグメント利益又は損失( )	1,848	4,420	753	1,678	140	34	105
セグメント資産	94,045	18,715	17,810	13,395	143,967	18,810	125,156
その他の項目							
減価償却費	2,908	1,565	1,065	565	6,105	-	6,105
持分法適用会社への投資額	1,194	-	-	-	1,194	-	1,194
有形固定資産および 無形固定資産の増加額	2,601	1,697	686	80	5,066	-	5,066

(注)1 調整額は以下のとおりであります。

(1)セグメント利益又は損失( )の調整額は、セグメント間取引消去であります。

(2)セグメント資産の調整額は、セグメント間の債権債務消去等であります。

2 セグメント利益又は損失( )は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

また、セグメント資産は、連結貸借対照表の総資産と調整を行っております。

当連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(単位：百万円)

	日本	北米	東アジア	東南 アジア	計	調整額 (注)1	連結財務諸表 計上額(注)2
売上高							
外部顧客への売上高	50,996	42,894	11,618	12,395	117,904	-	117,904
セグメント間の内部売上高 又は振替高	4,772	7	1,534	501	6,815	6,815	-
計	55,769	42,901	13,152	12,896	124,720	6,815	117,904
セグメント利益又は損失( )	5,232	1,712	708	2,413	6,641	86	6,555
セグメント資産	105,362	19,570	19,035	14,094	158,062	20,330	137,732
その他の項目							
減価償却費	2,808	1,666	1,036	560	6,072	-	6,072
持分法適用会社への投資額	1,761	-	-	-	1,761	-	1,761
有形固定資産および 無形固定資産の増加額	2,659	973	1,051	115	4,800	-	4,800

(注)1 調整額は以下のとおりであります。

- (1)セグメント利益又は損失( )の調整額は、セグメント間取引消去であります。
  - (2)セグメント資産の調整額は、セグメント間の債権債務消去等であります。
- 2 セグメント利益又は損失( )は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。  
また、セグメント資産は、連結貸借対照表の総資産と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分(自動車用部品事業)の外部顧客への売上高が、連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位:百万円)

日本	米国	中国	その他	合計
44,345	19,451	12,833	21,536	98,167

(注)売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位:百万円)

日本	米国	中国	その他	合計
13,572	5,282	6,016	5,006	29,876

3 主要な顧客ごとの情報

(単位:百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
本田技研工業(株)およびそのグループ会社	22,228	日本、北米、東アジア、東南アジア
トヨタ自動車(株)およびそのグループ会社	20,710	日本、北米、東アジア、東南アジア
マツダ(株)およびそのグループ会社	14,504	日本、北米、東アジア、東南アジア
日産自動車(株)およびそのグループ会社	10,823	日本、北米、東アジア、東南アジア

当連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分(自動車用部品事業)の外部顧客への売上高が、連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位:百万円)

日本	米国	中国	その他	合計
50,476	26,327	11,254	29,846	117,904

(注)売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位:百万円)

日本	米国	中国	その他	合計
13,182	5,123	6,361	5,623	30,291

3 主要な顧客ごとの情報

(単位:百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
本田技研工業(株)およびそのグループ会社	26,159	日本、北米、東アジア、東南アジア
トヨタ自動車(株)およびそのグループ会社	27,743	日本、北米、東アジア、東南アジア
マツダ(株)およびそのグループ会社	15,703	日本、北米、東アジア、東南アジア
日産自動車(株)およびそのグループ会社	14,250	日本、北米、東アジア、東南アジア

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

## 【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
1株当たり純資産額	3,744.48円	4,381.59円
1株当たり当期純利益	60.80円	261.46円

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	1,170	5,038
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	1,170	5,038
普通株式の期中平均株式数(株)	19,259,189	19,272,338

3 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	74,560	87,510
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)	2,622	2,968
(うち非支配株主持分(百万円))	(2,622)	(2,968)
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	71,938	84,541
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通 株式の数(株)	19,211,920	19,294,760

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	9,347	9,126	3.728	
1年以内に返済予定の長期借入金	12,567	1,464	1.660	
1年以内に返済予定のリース債務	233	449	-	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	3,871	8,024	1.479	2025年6月30日 から 2029年2月28日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	519	1,139	-	2025年4月1日 から 2030年7月1日
その他有利子負債	-	-	-	
合計	26,540	20,203		

(注) 1 「平均利率」については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

なお、リース債務については、一部の連結子会社を除き、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、もしくは、定額法により各連結会計年度に配分しているため、「平均利率」を記載しておりません。

2 長期借入金およびリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	915	6,000	650	384
リース債務	297	234	184	121

【資産除去債務明細表】

区分	当期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)
石綿障害予防規則に基づくアスベストの除去義務	197	0	-	197
不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務	183	2	-	186

## (2) 【その他】

## 当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	27,309	57,148	89,953	117,904
税金等調整前四半期(当期)純利益 (百万円)	1,887	3,101	5,875	8,113
親会社株主に帰属する四半期(当 期)純利益(百万円)	1,480	1,883	3,624	5,038
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	77.05	97.85	188.15	261.46

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益(円)	77.05	20.91	90.23	73.30

決算日後の状況

特記事項はありません。



## 2 【財務諸表等】

## (1) 【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当事業年度 (2024年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	21,829	22,282
売掛金	1 9,668	1 8,246
電子記録債権	3 1,496	3 1,369
有価証券	2,100	2,100
製品	1,342	1,384
仕掛品	422	513
原材料及び貯蔵品	514	452
前払費用	168	204
未収入金	1 1,164	1 794
その他	30	34
貸倒引当金	5	4
流動資産合計	38,732	37,378
固定資産		
有形固定資産		
建物	13,424	13,524
減価償却累計額	10,363	10,618
建物(純額)	3,060	2,905
構築物	1,339	1,340
減価償却累計額	1,096	1,121
構築物(純額)	242	218
機械及び装置	25,311	25,732
減価償却累計額	22,420	22,946
機械及び装置(純額)	2,891	2,785
車両運搬具	236	245
減価償却累計額	200	196
車両運搬具(純額)	35	49
工具、器具及び備品	13,675	14,107
減価償却累計額	13,001	13,596
工具、器具及び備品(純額)	674	510
土地	2,903	2,903
建設仮勘定	1,161	1,472
有形固定資産合計	10,969	10,845
無形固定資産		
借地権	23	23
ソフトウェア	761	894
その他	5	5
無形固定資産合計	790	923

(単位：百万円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当事業年度 (2024年3月31日)
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	16,687	24,221
関係会社株式	9,155	9,155
出資金	15	15
関係会社出資金	5,046	5,046
株主、役員又は従業員に対する長期貸付金	17	25
関係会社長期貸付金	1,068	2,011
長期前払費用	3	2
前払年金費用	3,526	4,224
その他	77	78
貸倒引当金	173	1,601
投資その他の資産合計	35,423	43,178
<b>固定資産合計</b>	<b>47,183</b>	<b>54,947</b>
<b>資産合計</b>	<b>85,915</b>	<b>92,326</b>
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	1 7,437	1 7,025
短期借入金	4,200	4,200
1年内返済予定の長期借入金	11,350	-
未払金	849	1,064
未払費用	574	564
未払法人税等	240	1,194
未払消費税等	354	355
預り金	87	68
前受金	15	45
賞与引当金	629	760
製品保証引当金	26	31
特別調査費用引当金	-	300
環境対策引当金	-	510
その他	56	72
流動負債合計	25,822	16,192
<b>固定負債</b>		
長期借入金	-	5,350
長期未払金	254	254
資産除去債務	312	314
繰延税金負債	3,219	5,351
固定負債合計	3,786	11,270
<b>負債合計</b>	<b>29,608</b>	<b>27,462</b>

(単位：百万円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当事業年度 (2024年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,364	3,364
資本剰余金		
資本準備金	3,661	3,661
その他資本剰余金	10	11
資本剰余金合計	3,671	3,672
利益剰余金		
利益準備金	690	690
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	237	230
研究開発積立金	200	200
別途積立金	39,286	42,186
繰越利益剰余金	3,570	3,914
利益剰余金合計	43,984	47,221
自己株式	889	795
株主資本合計	50,131	53,463
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	6,175	11,400
評価・換算差額等合計	6,175	11,400
純資産合計	56,306	64,863
負債純資産合計	85,915	92,326

## 【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月31日)	当事業年度 (自 2023年 4月 1日 至 2024年 3月31日)
売上高	45,884	51,940
売上原価		
製品期首棚卸高	1,833	1,342
当期製品製造原価	1 34,284	1 37,899
当期製品仕入高	1 3,369	1 3,395
合計	39,488	42,637
製品期末棚卸高	1,342	1,384
売上原価合計	38,145	41,252
売上総利益	7,738	10,687
販売費及び一般管理費		
荷造運搬費	3,129	3,283
製品保証引当金繰入額	27	35
貸倒引当金繰入額	0	0
役員報酬	323	298
給料及び手当	910	862
賞与引当金繰入額	65	79
退職給付費用	24	6
福利厚生費	307	308
租税公課	200	236
減価償却費	74	97
研究開発費	500	589
その他	538	625
販売費及び一般管理費合計	6,103	6,422
営業利益	1,634	4,264
営業外収益		
受取利息	24	32
有価証券利息	0	1
受取配当金	1 2,266	1 2,913
受取賃貸料	1 239	1 238
為替差益	288	447
その他	266	223
営業外収益合計	3,086	3,857
営業外費用		
支払利息	84	74
固定資産除却損	2 29	2 31
固定資産賃貸費用	115	86
操業停止関連費用	-	56
貸倒引当金繰入額	4 172	4 1,428
その他	11	4
営業外費用合計	412	1,682
経常利益	4,308	6,439

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月 31日)	当事業年度 (自 2023年 4月 1日 至 2024年 3月 31日)
特別利益		
投資有価証券売却益	63	-
特別利益合計	63	-
特別損失		
固定資産除却損	3 1	3 2
投資有価証券売却損	0	-
特別調査費用引当金繰入額	-	5 300
環境対策引当金繰入額	-	6 510
特別損失合計	1	812
税引前当期純利益	4,370	5,627
法人税、住民税及び事業税	635	1,719
法人税等調整額	280	99
法人税等合計	915	1,620
当期純利益	3,454	4,007

## 【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	3,364	3,661	8	3,669
当期変動額				
剰余金の配当				
当期純利益				
固定資産圧縮積立金の取崩				
別途積立金の積立				
自己株式の取得				
自己株式の処分			1	1
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)				
当期変動額合計	-	-	1	1
当期末残高	3,364	3,661	10	3,671

	株主資本							
	利益剰余金						自己株式	株主資本合計
	利益準備金	その他利益剰余金				利益剰余金合計		
		固定資産圧縮積立金	研究開発積立金	別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	690	244	200	35,786	4,384	41,305	405	47,934
当期変動額								
剰余金の配当					776	776		776
当期純利益					3,454	3,454		3,454
固定資産圧縮積立金の取崩		6			6	-		-
別途積立金の積立				3,500	3,500	-		-
自己株式の取得							504	504
自己株式の処分							21	23
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)								
当期変動額合計	-	6	-	3,500	814	2,678	483	2,197
当期末残高	690	237	200	39,286	3,570	43,984	889	50,131

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差 額等合計	
当期首残高	5,506	5,506	53,440
当期変動額			
剰余金の配当			776
当期純利益			3,454
固定資産圧縮積立金の 取崩			-
別途積立金の積立			-
自己株式の取得			504
自己株式の処分			23
株主資本以外の項目 の当期変動額（純 額）	668	668	668
当期変動額合計	668	668	2,865
当期末残高	6,175	6,175	56,306

当事業年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	3,364	3,661	10	3,671
当期変動額				
剰余金の配当				
当期純利益				
固定資産圧縮積立金の取崩				
別途積立金の積立				
自己株式の取得				
自己株式の処分			0	0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)				
当期変動額合計	-	-	0	0
当期末残高	3,364	3,661	11	3,672

	株主資本							
	利益準備金	利益剰余金					自己株式	株主資本合計
		その他利益剰余金				利益剰余金合計		
		固定資産圧縮積立金	研究開発積立金	別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	690	237	200	39,286	3,570	43,984	889	50,131
当期変動額								
剰余金の配当					770	770		770
当期純利益					4,007	4,007		4,007
固定資産圧縮積立金の取崩		6			6	-		-
別途積立金の積立				2,900	2,900	-		-
自己株式の取得							0	0
自己株式の処分							94	95
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)								
当期変動額合計	-	6	-	2,900	344	3,237	93	3,332
当期末残高	690	230	200	42,186	3,914	47,221	795	53,463



	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差 額等合計	
当期首残高	6,175	6,175	56,306
当期変動額			
剰余金の配当			770
当期純利益			4,007
固定資産圧縮積立金の 取崩			-
別途積立金の積立			-
自己株式の取得			0
自己株式の処分			95
株主資本以外の項目 の当期変動額（純 額）	5,224	5,224	5,224
当期変動額合計	5,224	5,224	8,556
当期末残高	11,400	11,400	64,863

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準および評価方法

(1) 子会社株式および関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

2 棚卸資産の評価基準および評価方法

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

(1) 製品・原材料・仕掛品

総平均法

(2) 貯蔵品

最終仕入原価法

3 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。

また、取得価額が10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、3年間で均等償却する方法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 8～50年

機械及び装置 4～9年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)による定額法を採用しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

4 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権に係る過去の貸倒実績率に基づく回収不能見込額および貸倒懸念債権等の特定の債権に係る個別の回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員賞与の支払に備えるため、翌事業年度中に支給することが見込まれる賞与総額のうち、当事業年度帰属分を引当計上しております。

(3) 製品保証引当金

製品の品質保証期間内でのクレームによる保証支出に備えるため、過去の実績と当事業年度の発生状況を考慮した支出見込額を引当計上しております。

(4) 特別調査費用引当金

当社グループにおける棚卸資産の計算等に関する調査費用について、今後発生が見込まれる額を計上しております。

(5) 環境対策引当金

当社工場における土壌の入替等、環境対策費用の支出に備えるため、今後発生が見込まれる額を計上しております。

(6) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

5 収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

当社は、以下の5ステップアプローチに基づき、収益を認識しております。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：取引価格を契約における別個の履行義務へ配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時点で（又は充足するに依りて）収益を認識する。

当社は、自動車メーカー、住宅メーカー等を主な得意先としており、自動車用部品(ゴム・樹脂シール製品)および内外装製品等の製造販売を行っております。

当社では、主に完成した製品を顧客に供給することを履行義務としており、原則として製品の納入時点において支配が顧客に移転して履行義務が充足されると判断していることから、当該時点において収益を認識しておりますが、国内の販売においては、出荷時から当該製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の期間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

取引価格の算定については、顧客との契約において約束された対価から、値引き額等を控除した金額で算定しております。

これらの履行義務に対する対価は、履行義務充足後、別途定める支払条件により概ね1年以内に受領しており、重大な金融要素は含んでおりません。

なお、買戻し契約に該当する有償支給取引については、支給先から受け取る対価を収益として認識しておりません。有償受給取引については、加工代相当額のみを純額で収益を認識しております。また、顧客への製品の販売における当社の役割が代理人に該当する取引については、当該対価の総額から第三者に対する支払額を差し引いた純額で認識しております。

6 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(重要な会計上の見積り)

1 貸付金及び債務保証損失の評価

(1)ニシカワ・シーリング・システムズ・メキシコ S.A. DE C.V.

当事業年度の財務諸表に計上した金額

当社は、メキシコ合衆国所在の子会社（間接所有による議決権比率100%）ニシカワ・シーリング・システムズ・メキシコ S.A. DE C.V.（以下、「NSM」という。）に対して貸付および金融機関からの借入に対する債務保証を以下のとおり行っております。

（単位：百万円）

	前事業年度	当事業年度
NSMに対する関係会社貸付金	1,068	2,011
NSMの金融機関からの借入に対する債務保証	3,538	4,466
貸倒引当金	172	1,600

識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

NSMは、継続的に損益がマイナスとなっており、財政状態が悪化しております。

債権の貸倒れによる損失に備えるため、貸倒懸念債権等の特定の債権については、個別の回収不能見込額を計上しています。

また、債務保証による損失に備えるため、被保証先の財政状態を勘案し、損失の発生可能性が高い場合、損失見積額を債務保証損失引当金として計上することとなります。

当社は、NSMの棚卸資産に関する修正処理を行ったことを理由に、2023年3月期の有価証券報告書の訂正報告書を2024年8月26日に提出しております。当社は、NSMの棚卸資産に関する修正処理の内容を踏まえ、NSMの財政状態及び経営成績に基づきNSMに対する貸付金の評価及び債務保証に係る損失を見積もっております。

その結果、NSMは、前事業年度より債務超過の状況にあり、当社はNSMに対する関係会社貸付金の回収不能見込額として、債務超過相当額に対して貸倒引当金を計上しております。

NSMの業績が想定を超えて回復又は悪化した場合には、貸付金の回収可能性及び債務保証の履行の可能性の見積りに重要な影響を及ぼす可能性があります。

(2)ニシカワ・クーパー LLC

当事業年度の財務諸表に計上した金額

当社は、アメリカ合衆国所在の子会社（間接所有による議決権比率60%）ニシカワ・クーパー LLC（以下、「NISCO」という。）に対して金融機関からの借入に対する債務保証を以下のとおり行っております。

（単位：百万円）

	前事業年度	当事業年度
NISCOの金融機関からの借入に対する債務保証	6,280	5,102

識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当社は、NISCOに対する債務保証による損失に備えるため、被保証先の財政状態を勘案し、損失の発生可能性が高い場合、損失見積額を債務保証損失引当金として計上することとなります。

債務保証の履行の可能性の見積りは、NISCOの中期事業計画を基礎としており、今後の市場動向の変動による販売数量の増減、原材料価格高騰に対応した販売単価への転嫁状況、材料費や労務費等の原価低減の程度を主要な仮定として織り込んでおります。販売数量の予測、販売単価の予測、原価低減計画は不確実性を伴っており、債務保証の履行の可能性の見積りに重要な影響を及ぼす可能性があります。

(表示方法の変更)

(損益計算書関係)

前事業年度において、独立掲記しておりました「営業外収益」の「助成金収入」は、金額的重要性が乏しくなったため、当事業年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外収益」に表示していた「助成金収入」57百万円および「その他」209百万円は、「その他」266百万円として組み替えております。

(追加情報)

(ニシカワ・シーリング・システムズ・メキシコ S.A. DE C.V.に対する関係会社貸付金に係る貸倒引当金)

連結財務諸表「注記事項(追加情報)」の記載事由を起因とし、当社連結子会社であるニシカワ・シーリング・システムズ・メキシコ S.A. DE C.V.が債務超過となったことに伴い、前事業年度および当事業年度において以下の引当金及び関連する費用を営業外費用として計上し、財務諸表を作成しております。

勘定科目	前事業年度	当事業年度
貸倒引当金	172百万円	1,600百万円
貸倒引当金繰入額	172百万円	1,428百万円

(貸借対照表関係)

1 関係会社に係る注記

区分掲記されたもの以外で各科目に含まれている関係会社に関するものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (2023年3月31日)	当事業年度 (2024年3月31日)
売掛金	1,835百万円	1,625百万円
未収入金	1,141 "	717 "
買掛金	1,609 "	1,411 "

2 保証債務

下記の会社の金融機関等からの借入金に対して、次のとおり債務保証を行っております。

	前事業年度 (2023年3月31日)	当事業年度 (2024年3月31日)
ニシカワ・シーリング・システムズ・ メキシコ S.A. DE C.V.	3,538百万円	4,466百万円
ニシカワ・クーパー LLC	6,280 "	5,102 "
計	9,818 "	9,568 "

3 期末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、事業年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前事業年度 (2023年3月31日)	当事業年度 (2024年3月31日)
電子記録債権	- 百万円	3百万円

(損益計算書関係)

1 各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
仕入高	9,342百万円	10,657百万円
受取配当金	1,626 "	2,272 "
受取賃貸料	183 "	183 "

2 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
機械及び装置	6百万円	14百万円
工具、器具及び備品	1 "	1 "
その他	21 "	15 "
計	29百万円	31百万円

3 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
建物	1百万円	2百万円
計	1百万円	2百万円

4 貸倒引当金繰入額

前事業年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

当社の連結子会社ニシカワ・シーリング・システムズ・メキシコ S.A. DE C.V.に対する関係会社貸付金に係る貸倒引当金繰入額を計上しております。

当事業年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

当社の連結子会社ニシカワ・シーリング・システムズ・メキシコ S.A. DE C.V.に対する関係会社貸付金に係る貸倒引当金繰入額を計上しております。

5 特別調査費用引当金繰入額

当事業年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

当社グループにおける棚卸資産の計算等に関する調査費用について、今後発生が見込まれる額を特別調査費用引当金に対する繰入額として計上しております。

6 環境対策引当金繰入額

当事業年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

当社工場における土壌の入替等、環境対策費用の支出に備えるため、今後発生が見込まれる額を環境対策引当金に対する繰入額として計上しております。

## (有価証券関係)

前事業年度(2023年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式は、市場価格のない株式等のため、子会社株式及び関連会社株式の時価を記載しておりません。

なお、市場価格のない株式等の子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりです。

区分	前事業年度 (百万円)
子会社株式	8,544
関連会社株式	611
計	9,155

当事業年度(2024年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式は、市場価格のない株式等のため、子会社株式及び関連会社株式の時価を記載しておりません。

なお、市場価格のない株式等の子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりです。

区分	当事業年度 (百万円)
子会社株式	8,544
関連会社株式	611
計	9,155

## (税効果会計関係)

## 1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2023年3月31日)	当事業年度 (2024年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	192百万円	231百万円
有価証券評価損	503 "	503 "
長期未払金(役員退職慰労金)	89 "	77 "
減価償却費	272 "	285 "
資産除去債務	95 "	95 "
未払事業税	37 "	75 "
棚卸資産	93 "	82 "
貸倒引当金	54 "	489 "
特別調査費用引当金	- "	91 "
環境対策引当金	- "	155 "
その他	54 "	61 "
繰延税金資産小計	1,392百万円	2,150百万円
評価性引当額	744 "	1,194 "
繰延税金資産合計	647百万円	956百万円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	2,681百万円	4,913百万円
固定資産圧縮積立金	104 "	101 "
前払年金費用	1,075 "	1,288 "
その他	5 "	4 "
繰延税金負債合計	3,866百万円	6,307百万円
繰延税金資産(負債)の純額	3,219百万円	5,351百万円

## 2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (2023年3月31日)	当事業年度 (2024年3月31日)
法定実効税率	30.5 %	30.5 %
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.1 "	0.1 "
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	12.5 "	12.8 "
住民税均等割等	0.5 "	0.4 "
外国子会社配当金源泉税	2.9 "	3.5 "
評価性引当額の増減	0.3 "	8.0 "
その他	0.8 "	0.9 "
税効果会計適用後の法人税等の負担率	21.0 %	28.8 %

## (収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、「注記事項(重要な会計方針)5 収益及び費用の計上基準」に同一の内容を記載しておりますので、注記を省略しております。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。



## 【附属明細表】

## 【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は償却 累計額(百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	13,424	111	11	13,524	10,618	264	2,905
構築物	1,339	2	1	1,340	1,121	25	218
機械及び装置	25,311	896	476	25,732	22,946	984	2,785
車両運搬具	236	38	29	245	196	22	49
工具、器具及び備品	13,675	758	326	14,107	13,596	915	510
土地	2,903	-	-	2,903	-	-	2,903
建設仮勘定	1,161	3,055	2,744	1,472	-	-	1,472
有形固定資産計	58,051	4,863	3,589	59,325	48,480	2,213	10,845
無形固定資産							
借地権	23	-	-	23	-	-	23
ソフトウェア	2,555	205	74	2,686	1,791	71	894
その他	10	-	0	10	5	0	5
無形固定資産計	2,589	205	74	2,719	1,796	71	923
長期前払費用	3	1	2	2	-	-	2

(注) 1 当期増加額のうち主なものは、下記のとおりであります。

(1) 機械及び装置	三原工場 設備	259百万
	白木工場 設備	109百万
	吉田工場 設備	223百万
	安佐工場 設備	293百万
(2) 工具、器具及び備品	金型	522百万
(3) 建設仮勘定	三原工場 設備	22百万
	白木工場 設備	90百万
	吉田工場 設備	179百万
	安佐工場 設備	143百万

## 【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	178	1,434	-	6	1,606
賞与引当金	629	760	629	-	760
製品保証引当金	26	31	26	-	31
特別調査費用引当金	-	300	-	-	300
環境対策引当金	-	510	-	-	510

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」欄の金額は、一般債権の貸倒実績による洗替額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取・買増 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取・買増手数料	(特別口座) 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  (特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社  株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告による 公告掲載URL <a href="https://www.nishikawa-rbr.co.jp/">https://www.nishikawa-rbr.co.jp/</a> (ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)
株主に対する特典	毎年3月31日現在の株主名簿に記載された株主様を対象として、以下優待品を贈呈 優待品の内容：クオカード 100株以上1,000株未満：クオカード1,000円分 1,000株以上5,000株未満：クオカード3,000円分 5,000株以上：クオカード5,000円分 長期継続保有特典： 継続保有期間3年以上( )かつ100株以上保有する株主様を対象に、上記優待内容に加えて下記の長期継続保有特典を追加して贈呈いたします。 100株以上1,000株未満：クオカード1,000円分 1,000株以上：クオカード2,000円分 「継続保有期間3年以上」とは、毎年3月末時点の当社株主名簿に記録され、かつ3月末および9月末の当社株主名簿に同一株主番号で7回以上連続して記録されていることといたします。 なお継続保有期間は、2021年3月末時点の当社株主名簿の記録を初回として算出し、長期継続保有特典の贈呈は2024年6月発送分より開始いたします。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式および募集新株予約権の割当てを受ける権利ならびに単元未満株式の買増請求をする権利以外の権利を有しておりません。

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書およびその添付書類並びに確認書

事業年度 第74期(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)  
2023年6月30日中国財務局長に提出。

#### (2) 内部統制報告書

事業年度 第74期(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)  
2023年6月30日中国財務局長に提出。

#### (3) 四半期報告書および確認書

第75期第1四半期(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)  
2023年8月9日中国財務局長に提出。

第75期第2四半期(自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)  
2023年11月9日中国財務局長に提出。

第75期第3四半期(自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)  
2024年2月9日中国財務局長に提出。

#### (4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書

2023年7月3日中国財務局長に提出。

2024年7月2日中国財務局長に提出。

#### (5) 有価証券届出書の訂正届出書

2023年7月3日中国財務局長に提出。

2023年2月8日提出の有価証券届出書及び2023年2月9日提出の有価証券届出書の訂正届出書に係る訂正届出書であります。

#### (6) 有価証券報告書の訂正報告書および確認書

事業年度 第74期(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)  
2024年8月26日中国財務局長に提出。

#### (7) 内部統制報告書の訂正報告書

第74期の内部統制報告書に係る訂正報告書

2024年8月26日中国財務局長に提出。

(8) 四半期報告書の訂正報告書および確認書

- 第74期第1四半期(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)  
2024年8月26日中国財務局長に提出。
- 第74期第2四半期(自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)  
2024年8月26日中国財務局長に提出。
- 第74期第3四半期(自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)  
2024年8月26日中国財務局長に提出。
- 第75期第1四半期(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)  
2024年8月26日中国財務局長に提出。
- 第75期第2四半期(自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)  
2024年8月26日中国財務局長に提出。
- 第75期第3四半期(自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)  
2024年8月26日中国財務局長に提出。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2024年 8月26日

西川ゴム工業株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

広島事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 尾 崎 更 三

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 三 好 亨

### < 連結財務諸表監査 >

#### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている西川ゴム工業株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、西川ゴム工業株式会社及び連結子会社の2024年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

ニシカワ・シーリング・システムズ・メキシコ S.A. DE C.V.における棚卸資産の過大計上に関する修正処理の妥当性	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>西川ゴム工業株式会社（以下「会社」という。）の連結子会社であるニシカワ・シーリング・システムズ・メキシコ S.A. DE C.V.（以下「NSM」という。）は、北米セグメントにおける自動車用部品の製造及び販売を担っている。</p> <p>連結財務諸表注記「（追加情報）」に記載のとおり、会社は2024年5月15日に棚卸資産の会計処理に当たりNSMが誤った単価を適用した可能性を認識したため、公認会計士を含む外部の専門家を利用して社内調査を開始した。社内調査の結果、2021年10月にNSMの経理担当者が交代して以降、下記の誤った会計処理が行われ、棚卸資産が過大に計上されていたことが発覚した。</p> <p>棚卸資産に適用すべき単価の選択を誤っていた</p> <p>有償支給等により仕入れた棚卸資産の一部が実地棚卸の対象から漏れたことで、これらの棚卸資産の数量を誤っていた</p> <p>棚卸資産に関する決算整理仕訳の一部について、金額を算定した計算表における計算式及び参照数値を誤ったことで、不正確な仕訳が起票されていた</p> <p>このため、類似案件の検討を含む社内調査の結果に基づき、会社は2023年3月期の連結財務諸表、並びに2023年3月期及び2024年3月期の各四半期連結財務諸表を修正し、これらの連結財務諸表を含む有価証券報告書及び四半期報告書の訂正報告書を2024年8月26日に提出した。これらの修正処理により、2023年3月期の連結貸借対照表に計上された棚卸資産が修正前と比較して874百万円減少している。また、社内調査は2024年3月期も対象として実施された。</p> <p>修正処理の妥当性を検討するためには、NSMにおいて誤りが生じた原因を把握したうえで、修正処理の網羅性及び正確性の検討並びに類似した誤りの有無についての検討が必要となる。これらの手続は、当連結会計年度のみならず、過年度についての検討も求められ、またNSM以外の連結子会社を含む連結財務諸表全体に及ぼす影響を総合的に勘案する必要があることから、会計上及び監査上、慎重な対応が求められる。</p> <p>以上から、当監査法人は、ニシカワ・シーリング・システムズ・メキシコ S.A. DE C.V.における棚卸資産の過大計上に関する修正処理の妥当性が、当連結会計年度の連結財務諸表監査において特に重要であり、監査上の主要な検討事項の一つに該当すると判断した。</p>	<p>当監査法人は、ニシカワ・シーリング・システムズ・メキシコ S.A. DE C.V.における棚卸資産の過大計上に関する修正処理の妥当性について検討するため、主に以下の手続を実施した。</p> <p>(1) 社内調査結果の検討 社内調査の調査範囲及び実施手続が、調査目的に照らして適切か否かを評価するため、調査の進捗に応じて適時に調査担当者と意見を交換するとともに、以下の手続を実施した。</p> <p>社内調査を担う外部の専門家を含め、調査担当者の能力及び客観性を評価した。</p> <p>社内調査の調査結果報告書を通読し、調査の過程で把握した事実が修正前の連結財務諸表へ及ぼす影響について、当監査法人の認識と最終的な調査結果の内容とを比較した。</p> <p>社内調査で入手された証拠書類を閲覧し、棚卸資産の単価及び数量に関する主要な調査手続を再実施した。</p> <p>(2) NSMの棚卸資産についての検討 NSMへ現地往査し、NSMの経営者及び経理担当者に対して、棚卸資産の管理状況、評価方法、適用すべき単価について質問するとともに、以下の手続を実施した。</p> <p>NSMが用いた棚卸資産の計算表について、その計算式が会計方針と整合しているか否かを検討した。</p> <p>NSMが棚卸資産に適用した単価とNSMの仕入先が発行した請求書等に記載された単価とを突合した。</p> <p>社内調査の一環として2024年5月に実施された実地棚卸について、その棚卸計画が対象となる棚卸資産の網羅性を確保できる計画かどうかを検討したうえで、実施状況を観察した。</p> <p>棚卸資産に関する決算整理仕訳を通査し、その根拠資料と突合した。</p>



## (3) NSMの棚卸資産以外についての検討

NSMの棚卸資産が過大に計上されていた事実及び原因を踏まえ、類似案件やNSMの棚卸資産以外に連結財務諸表へ影響を及ぼす事項の有無を検討するため、以下の手続を実施した。

## NSMにおける棚卸資産以外の事項の検討

2020年3月期から2024年3月期を対象期間として、財務数値の推移分析及び比率分析を実施し、異常の有無を検討した。

棚卸資産の過大計上の原因となった決算整理仕訳を起票した経理担当者について、この担当者が単独で担っていた業務領域に関する仕訳を抽出し、根拠資料と突合した。検討に当たり、NSMの経営者又は経理担当者による意図的な行為の有無に注意を払った。

## NSM以外の連結子会社についての検討

2020年3月期から2024年3月期を対象期間として、各連結子会社の財務数値の推移分析及び比率分析を実施し、NSMに類似した財務的な特徴を有する連結子会社の有無を検討した。

各連結子会社に対して、棚卸資産の単価設定に関する内部統制、実地棚卸の対象範囲、棚卸差異等の処理方法を質問し、その回答内容を検討した。また、各連結子会社から入手した棚卸資産の明細を通査し、異常な項目の有無を検討した。

各連結子会社の監査人に対して、棚卸資産に関する手続の内容及び手続の結果を質問し、その回答内容を検討した。

以上の手続の結果に基づき、修正処理に係る開示が適正に行われているか否かを総合的に検討した。

## ニシカワ・シーリング・システムズ・メキシコ S.A. DE C.V.の固定資産の減損損失の認識の要否に係る判断の妥当性

監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>西川ゴム工業株式会社（以下「会社」という。）の2024年3月31日に終了する連結会計年度の連結貸借対照表において、有形固定資産30,291百万円が計上されている。注記事項「（重要な会計上の見積り）1 固定資産の減損損失の認識の要否」に記載のとおり、このうち3,169百万円は、北米セグメントにおける自動車用部品の製造及び販売を担う連結子会社であるニシカワ・シーリング・システムズ・メキシコ S.A. DE C.V.（以下「NSM」という。）が保有する有形固定資産であり、連結総資産の2.3%を占めている。</p> <p>NSMは国際財務報告基準を適用しており、会社はNSMを一つの資金生成単位として識別している。資金生成単位に減損の兆候があると判断された場合は減損テストが実施され、資金生成単位の回収可能価額が固定資産の帳簿価額を下回る場合、帳簿価額は回収可能価額まで減額される。この帳簿価額の減少額は、減損損失として認識される。また、回収可能価額は、使用価値と処分コスト控除後の公正価値のいずれか高い方として算定される。</p> <p>NSMの製造及び販売の実績は半導体不足の影響により下落した後、回復傾向にある。しかし、原材料価格及びエネルギー価格の高騰による影響が大きく、NSMの営業損益は継続してマイナスとなっており、減損の兆候が認められる。このため、当連結会計年度において減損テストが実施されたが、回収可能価額が固定資産の帳簿価額を上回ったことから、減損損失は認識されていない。会社は、回収可能価額として処分コスト控除後の公正価値を採用しており、この見積りに当たり外部の専門家を利用している。処分コスト控除後の公正価値の見積りには、評価手法の選択についての高度な専門知識が必要となる。</p> <p>以上から、当監査法人は、ニシカワ・シーリング・システムズ・メキシコ S.A. DE C.V.の固定資産の減損損失の認識の要否に係る判断の妥当性が、当連結会計年度の連結財務諸表監査において特に重要であり、監査上の主要な検討事項の一つに該当すると判断した。</p>	<p>当監査法人は、ニシカワ・シーリング・システムズ・メキシコ S.A. DE C.V.の固定資産の減損損失の認識の要否に係る判断の妥当性を評価するため、処分コスト控除後の公正価値について、当監査法人が属するネットワークファームの評価の専門家を利用して以下の手続を実施した。</p> <p>NSMが処分コスト控除後の公正価値の評価を委託した外部の専門家の適性、能力及び客観性の評価</p> <p>NSMが評価を委託した外部の専門家が採用した処分コスト控除後の公正価値の計算手法及び前提条件について、対象とする評価項目及び評価に関する実務慣行を踏まえた適切性の評価</p> <p>処分コスト控除後の公正価値の独自の見積り、及びこの独自の見積額とNSMが評価を委託した外部の専門家による見積額との比較</p> <p>以上の手続を実施したうえで、処分コスト控除後の公正価値の見積りが、会計基準の要件に照らして合理的であるか否かを検討した。</p>

ニシカワ・クーパーLLCの固定資産の減損損失の認識の要否に係る判断の妥当性	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>西川ゴム工業株式会社（以下「会社」という。）の2024年3月31日に終了する連結会計年度の連結貸借対照表において、有形固定資産30,291百万円が計上されている。注記事項「（重要な会計上の見積り）1 固定資産の減損損失の認識の要否」に記載のとおり、このうち5,116百万円は、北米セグメントにおける自動車用部品の製造及び販売を担う連結子会社であるニシカワ・クーパーLLC（以下「NISCO」という。）が保有する有形固定資産であり、連結総資産の3.7%を占めている。</p> <p>NISCOは米国会計基準を適用しており、会社はNISCOを一つの資産グループとして識別している。資産グループに減損の兆候があると判断された場合は回収可能性のテストが実施され、固定資産の帳簿価額が資産グループの使用及び最終的な処分から見込まれる割引前将来キャッシュ・フローの総額を上回る場合に回収可能性がないと判定される。資産グループの帳簿価額に回収可能性がないと判定された場合、帳簿価額と公正価値との差額が減損損失として認識される。</p> <p>当連結会計年度におけるNISCOの売上高は、米国経済の回復とともに、主要顧客である日系自動車メーカーが増産したことで、前連結会計年度と比較して増加している。しかし、米国経済の回復は北米の労働市場における需給バランスを変化させ、急激な物価上昇を招いている。NISCOにおいても、労務費、原材料価格及びエネルギー価格の高騰が割引前将来キャッシュ・フローに影響を及ぼしており、減損の兆候が認められる。このため、当連結会計年度において回収可能性のテストが実施されたが、NISCOの割引前将来キャッシュ・フローの総額が固定資産の帳簿価額を上回ったことから、減損損失は認識されていない。この割引前将来キャッシュ・フローは、NISCOの中期事業計画を基礎として見積もられており、以下の不確実性が高い仮定が含まれていることから、これらの仮定に係る経営者の判断が将来キャッシュ・フローの見積りに重要な影響を及ぼす。</p> <p>市場動向に応じた販売数量の増減予測</p> <p>高騰した原材料価格の販売価格への転嫁の見込み</p> <p>原材料費及び労務費の原価低減の見込み</p> <p>以上から、当監査法人は、ニシカワ・クーパーLLCの固定資産の減損損失の認識の要否に係る判断の妥当性が、当連結会計年度の連結財務諸表監査において特に重要であり、監査上の主要な検討事項の一つに該当すると判断した。</p>	<p>当監査法人は、ニシカワ・クーパーLLCの固定資産の減損損失の認識の要否に係る判断の妥当性を評価するため、NISCOの経営者及び会社のグループ会社統制を担う取締役管理統括本部長に対して、NISCOの割引前将来キャッシュ・フローの見積りの基礎となる中期事業計画の内容について質問した。</p> <p>そのうえで、当監査法人は、NISCOの監査人に監査の実施を指示するとともに、以下を含む監査手続の実施結果の報告を受け、十分かつ適切な監査証拠が入手されているか否かを評価した。評価に当たっては、特に将来キャッシュ・フローの見積りの作成に当たって採用された主要な仮定について検討されているか否かに留意した。</p> <p>市場動向に応じた販売数量の増減予測について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>顧客から提示された生産計画書に記載された生産数量との整合性の検討</li> <li>外部調査機関が提供している北米地域における国別及び車種別の生産台数の予測との整合性の検討</li> </ul> <p>高騰した原材料価格の販売価格への転嫁の見込みについて、NISCOの事業年度末日以降における価格改定の状況との比較</p> <p>原材料費及び労務費の原価低減の見込みについて、具体的な計画が記された文書の閲覧及び過年度における原価低減に係る施策の達成状況との比較</p> <p>上記手続の実施結果並びに過年度の事業計画の達成状況及び計画実績差の原因を踏まえて、NISCOの中期事業計画に一定の不確実性を織り込んで独自に見積もった割引前将来キャッシュ・フローとの比較</p>

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当連結会計年度の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

## < 内部統制監査 >

### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、西川ゴム工業株式会社の2024年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、西川ゴム工業株式会社が2024年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は開示すべき重要な不備があるため有効でないと表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 強調事項

内部統制報告書に記載されているとおり、会社及び連結子会社の全社的な内部統制及び決算・財務報告プロセスには開示すべき重要な不備が存在しているが、会社は開示すべき重要な不備に起因する必要な修正は全て財務諸表及び連結財務諸表に反映している。

これによる財務諸表監査に及ぼす影響はない。

### 内部統制報告書に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査等委員会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

### 内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

< 報酬関連情報 >

当監査法人及び当監査法人と同一のネットワークに属する者に対する、会社及び子会社の監査証明業務に基づく報酬及び非監査業務に基づく報酬の額は、「提出会社の状況」に含まれるコーポレート・ガバナンスの状況等 (3)【監査の状況】に記載されている。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。  
2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

2024年 8月26日

西川ゴム工業株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

広島事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 尾 崎 更 三

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 三 好 亨

### < 財務諸表監査 >

#### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている西川ゴム工業株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの第75期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、西川ゴム工業株式会社の2024年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

ニシカワ・シーリング・システムズ・メキシコ S.A. DE C.V. に対する関係会社貸付金の評価及び債務保証に関する会計処理の妥当性	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>西川ゴム工業株式会社（以下「会社」という。）の2024年3月31日に終了する事業年度の貸借対照表において、関係会社長期貸付金2,011百万円が計上されている。注記事項「（重要な会計上の見積り）1 貸付金及び債務保証損失の評価」に記載のとおり、この関係会社長期貸付金は、メキシコ合衆国において自動車用部品の製造及び販売事業を営む子会社であるニシカワ・シーリング・システムズ・メキシコ S.A. DE C.V.（以下「NSM」という。）に対する貸付金であり、総資産の2.2%を占めている。また、会社はNSMの金融機関からの借入金4,466百万円について債務保証を行っている。NSMは、当事業年度まで継続して営業損益がマイナスとなっており、財政状態が悪化している。</p> <p>注記事項「（重要な会計方針）4 引当金の計上基準（1）貸倒引当金」に記載のとおり、貸付金を含む貸倒懸念債権等の特定の債権は、個別に見積もった回収不能見込額を貸倒引当金として計上することで評価している。また、債務保証については、被保証先の財政状態を勘案し、損失の発生可能性が高い場合、損失見積額を債務保証損失引当金として計上することになる。</p> <p>会社は、NSMの財政状態及び経営成績を勘案し、NSMに対する貸付金の評価及び債務保証に係る損失を見積もっている。また、会社は、NSMの棚卸資産に関する修正処理を行ったことを理由に、2023年3月期の有価証券報告書の訂正報告書を2024年8月26日に提出している。このため、NSMの棚卸資産に関する修正処理の内容がNSMに対する貸付金の評価及び債務保証に係る損失の見積りに与える影響を検討する必要がある。この修正処理の内容を踏まえた会計上及び監査上の判断が求められる。</p> <p>以上から、当監査法人は、ニシカワ・シーリング・システムズ・メキシコ S.A. DE C.V. に対する関係会社貸付金の評価及び債務保証に関する会計処理の妥当性が、当事業年度の財務諸表監査において特に重要であり、監査上の主要な検討事項の一つに該当すると判断した。</p>	<p>当監査法人は、ニシカワ・シーリング・システムズ・メキシコ S.A. DE C.V. に対する関係会社貸付金の評価及び債務保証に関する会計処理の妥当性を検討するため、NSMの経営者及び会社のグループ会社統制を担う取締役管理統括本部長に対して、NSMの財政状態及び経営成績について質問するとともに、NSMの財務諸表の内容を検討した。</p> <p>NSMの財務諸表を検討するに当たり、その財政状態及び経営成績に影響を与えた修正処理の内容を把握するため、連結財務諸表の監査報告書における監査上の主要な検討事項「ニシカワ・シーリング・システムズ・メキシコ S.A. DE C.V. における棚卸資産の過大計上に関する修正処理の妥当性」の監査上の対応に記載した手順のうち、NSMに関する手順を実施した。</p> <p>以上の手順を実施したうえで、NSMに対する関係会社貸付金の評価及び債務保証に関する会計処理について、注記事項を含む表示が適切か否かを検討した。</p>



ニシカワ・クーパーLLCに対する債務保証に関する会計処理の妥当性	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>西川ゴム工業株式会社（以下「会社」という。）の2024年3月31日に終了する事業年度の財務諸表に係る注記事項「（重要な会計上の見積り）1 貸付金及び債務保証損失の評価」に記載のとおり、会社はニシカワ・クーパーLLC（以下「NISCO」という。）の金融機関からの借入金5,102百万円に対して、債務保証を行っている。</p> <p>債務保証に関する会計処理は、被保証先の財政状態を勘案し、損失の発生可能性が高い場合、損失見積額を債務保証損失引当金として計上することになる。</p> <p>会社は、NISCOの財政状態、経営成績及び中期事業計画を基礎として見積もられた将来キャッシュ・フローを勘案し、債務保証に係る損失を見積もっている。NISCOの中期事業計画には、以下の不確実性が高い仮定が含まれていることから、これらの主要な仮定に係る経営者の判断は、将来キャッシュ・フローの見積りに重要な影響を及ぼす。</p> <p>市場動向に応じた販売数量の増減予測</p> <p>高騰した原材料価格の販売価格への転嫁の見込み</p> <p>原材料費及び労務費の原価低減の見込み</p> <p>以上から、当監査法人は、ニシカワ・クーパーLLCに対する債務保証に関する会計処理の妥当性が、当事業年度の財務諸表監査において特に重要であり、監査上の主要な検討事項の一つに該当すると判断した。</p>	<p>当監査法人は、ニシカワ・クーパーLLCに対する債務保証に関する会計処理の妥当性を検討するため、主に以下の手続を実施した。</p> <p>(1) NISCOの財政状態及び経営成績の検討 NISCOの経営者及び会社のグループ会社統制を担う取締役管理統括本部長に対して、NISCOの財政状態及び経営成績について質問するとともに、NISCOの財務諸表の内容を検討した。</p> <p>(2) NISCOの将来キャッシュ・フローの検討 NISCOの将来キャッシュ・フロー算定の基礎となった中期事業計画について、この計画に含まれる主要な仮定の適正性を検討するため、連結財務諸表の監査報告書における監査上の主要な検討事項「ニシカワ・クーパーLLCの固定資産の減損損失の認識の要否に係る判断の妥当性」の監査上の対応に記載した手続を実施した。</p> <p>以上の手続を実施したうえで、NISCOに対する債務保証について、注記事項を含む表示が適切か否かを検討した。</p>

#### その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業を前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

#### < 報酬関連情報 >

報酬関連情報は、連結財務諸表の監査報告書に記載されている。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。  
2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。